

五代中原 III 遺跡
五代山街道 I 遺跡
五代山街道 II 遺跡

五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



五代中原Ⅲ遺跡全景（南から）



五代中原Ⅲ遺跡 日-1号住居跡出土遺物



五代山街道Ⅰ遺跡 繩文時代出土遺物

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室4古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も9基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王庵寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き、一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東4名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

前橋市の北東部、赤城山南麓に位置する五代町では、五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査が平成12年度より実施されてきていました。4年目にあたる今年度は、五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡の調査を実施し、縄文時代から古墳・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡など多くの遺構と遺物を検出し、貴重な資料を得ることができました。今回の調査結果が地域の歴史を解明するための一助となれば幸いです。

最後に、本発掘調査実施にあたりご理解とご協力を賜りました市工業課、前橋工業団地造成組合、地元関係者の方々、また、調査に従事されました作業員の皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成16年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 阿部 明雄

例 言

1. 本報告書は、五代南部工業団地造成に伴う五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調査場所 群馬県前橋市五代町地内

発掘調査期間 平成15年5月19日～平成15年12月1日

整理・報告書作成期間 平成15年12月2日～平成16年3月25日

発掘・整理担当者 倉品敦子・高橋亨・黒岩健一・小林和美（発掘調査係員）

4. 本書の原稿執筆・編集は、倉品・高橋・小林が行った。

5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木昭二郎・阿部シゲ子・伊藤修道・井上和久・今井弘子・植木政俊・大澤敏子・大島きく江
神澤とし江・須田隆治・高橋公代・多田啓子・長澤幸枝・中山美智子・中山昭・奈良啓子・橋本茂
原田要三・細野道太郎・堀込よ江・弥都啓吾・渡辺永造

6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡 例

1. 掘図中に使用した北は、座標北である。

2. 掘図に建設省国土地理院発行の1/200,000地形図（宇都宮、長野）、1/25,000地形図（前橋、大胡、渋川、鼻毛石）を使用した。

3. 遺跡の略称は、以下のとおりである。

五代中原Ⅲ遺跡………15C30

五代山街道Ⅰ遺跡………15C34

五代山街道Ⅱ遺跡………15C35

4. 本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

J…縄文時代の住居跡 H…古墳・奈良・平安時代の住居跡 B…掘立柱建物跡

W…溝跡 D…土坑 P…柱穴・貯蔵穴（H住居内P₁を貯蔵穴とした）

5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺構 住居跡・掘立柱建物跡…1/60 土坑…1/60 溝跡…1/60 炉・竈断面図…1/30

遺物 土器…1/3・1/4 石器・石製品…2/3・1/3 紡錐車…2/3

6. 計測値については、（ ）は現存値、〔 〕は復元値を表す。

7. セクション注記の記号は締まり、粘性の順である。

◎…非常に締まりがある、非常に粘性がある

○…締まりがある、粘性がある

△…やや締まりがある、やや粘性がある

×…締まりがない、粘性がない

8. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図 炉・竈焼土…濃点 その他の焼土…薄い濃点

遺構断面図 構築面…斜線

9. 火山降下物の略称と年代は次のとおりである。

As-B（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP（榛名ニッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）

Hr-FA（榛名ニッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）

As-C（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉）

10. 周辺遺跡概要一覧表については「五代伊勢宮V遺跡 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002」に加筆した。

目 次

序	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の経過	
1 調査方針	5
2 調査経過	7
IV 基本層序	9
V 五代中原Ⅲ遺跡	
1 遺構と遺物	11
2 考察	29
VI 五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡	
1 遺構と遺物	85
2 考察	94

図 版

口絵 五代中原III遺跡調査区全景（南から）
五代中原III遺跡H-1号住居跡出土遺物

五代山街道I遺跡縄文時代出土遺物

【五代中原III遺跡】

- PL. 1 五代中原III遺跡調査区全景
2 H-1・2号住居跡
3 H-2~5号住居跡
4 H-6~9・14号住居跡
5 H-10・12・13・15~17号住居跡
6 H-18~20・22~26号住居跡
7 H-27~31・39号住居跡
8 H-32~36号住居跡
9 H-35~38号住居跡
10 H-40~43号住居跡
- 11 H-44・45号住居跡、主な土坑
12 H-1号住居跡出土遺物
13 H-1・2号住居跡出土遺物
14 H-2~6号住居跡出土遺物
15 H-6~10号住居跡出土遺物
16 H-12・13・15・16号住居跡出土遺物
17 H-17~19・22~25号住居跡出土遺物
18 H-25~34・36・37号住居跡出土遺物
19 H-34・35・38・40~44号住居跡出土遺物
20 H-8・33・34・42・43号住居跡出土遺物

【五代山街道I・II遺跡】

- PL. 21 五代山街道I遺跡調査区全景
22 J-1・2号・H-1号住居跡
23 J-2~5号住居跡
24 J-6~8号住居跡
25 J-9・H-1~3号住居跡、
B-1号据立柱建物跡
26 主な土坑
27 五代山街道II遺跡調査区全景・D-1~4号
土坑
- 28 D-5~11号土坑・W-1号溝跡
29 J-3~7号住居跡出土遺物
30 J-7・8・H-1~3号住居跡出土遺物
D-4・7・8号土坑出土遺物
31 五代山街道I・II遺跡縄文土器
32 五代山街道I遺跡出土遺物（石器）

捕 図

- Fig. 1 位置図
2 周辺遺跡図
3 グリッド設定図

【五代中原III遺跡】

- 4 五代中原II・III遺跡住居跡時期別分布図
5 H-1号住居跡
6 H-1号住居跡遺物出土状態
7 H-2号住居跡
8 H-3号住居跡
9 H-4・5号住居跡
10 H-6・7号住居跡
11 H-6・7号住居跡
12 H-8・9号住居跡
13 H-8・9号住居跡
14 H-10・11号住居跡
- 15 H-10・11号住居跡
16 H-12・13号住居跡
17 H-12・13号住居跡
18 H-15~17号住居跡
19 H-15~17号住居跡
20 H-18~20号住居跡
21 H-18~21号住居跡
22 H-22・23号住居跡
23 H-22号住居跡
24 H-24号住居跡
25 H-27号住居跡

- 26 H-25・26号住居跡
 27 H-25・26号住居跡
 28 H-28号住居跡
 29 H-29・39号住居跡
 30 H-30・31号住居跡
 31 H-32号住居跡
 32 H-33号住居跡
 33 H-34号住居跡
 34 H-35～37号住居跡
 35 H-35～37号住居跡
 36 H-38号住居跡
 37 H-40号住居跡
 38 H-41・42号住居跡
 39 H-41・42号住居跡
 40 H-43号住居跡、D-15号土坑
 41 H-44号住居跡
- 42 H-45号住居跡、D-1～3号土坑
 43 D-4～14号土坑
 44 H-1号住居跡出土遺物
 45 H-1・2号住居跡出土遺物
 46 H-3～5号住居跡出土遺物
 47 H-5～7号住居跡出土遺物
 48 H-8～10・12号住居跡出土遺物
 49 H-12・13・15号住居跡出土遺物
 50 H-16～19号住居跡出土遺物
 51 H-22～25号住居跡出土遺物
 52 H-26～36号住居跡出土遺物
 53 H-37・38・40～43号住居跡出土遺物
 54 H-43・44号住居跡出土遺物
 55 H-8・33・34・42号住居跡出土遺物

【五代山街道I・II遺跡】

- 56 J-1号住居跡
 57 J-2号住居跡
 58 J-3・4号住居跡
 59 J-5号住居跡、D-4・5号土坑
 60 J-6号住居跡
 61 J-6号住居跡、
 山街道I遺跡D-1～3・6～8号土坑
 62 J-7・8号住居跡
 63 J-9号住居跡
 64 H-1・2号住居
 65 H-3号住居跡、B-1号掘立柱建物跡

- 66 山街道II遺跡W-1号溝跡
 67 山街道II遺跡D-1～11号土坑
 68 J-1～4号住居跡出土遺物
 69 J-5～7号住居跡出土遺物
 70 J-7～9号住居跡、D-4～8号土坑出土
 遺物
 71 H-1～3号住居跡出土遺物
 72 J-1～3・5・6・8・9号住居跡、
 D-7・8号土坑、表探出土遺物
 73 山街道II遺跡D-5～9・11号土坑、
 グリッド出土遺物

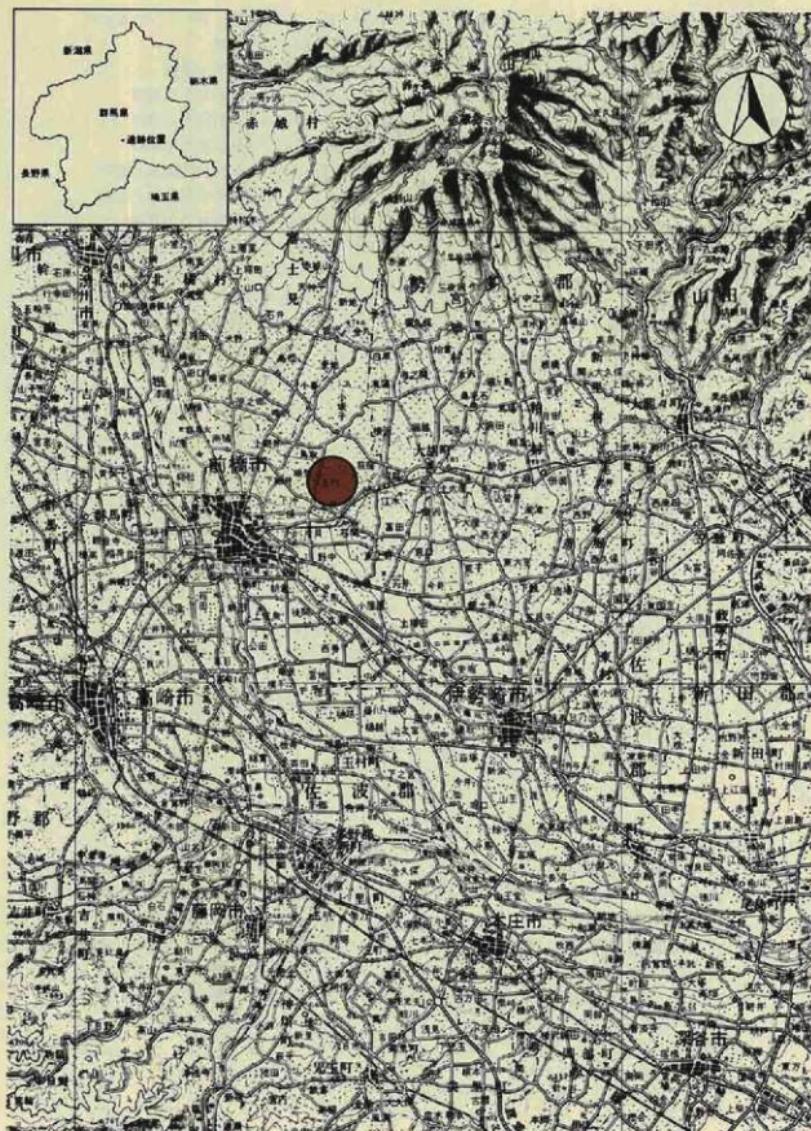
表

- Tab. 1 周辺遺跡概要一覧
 2 五代中原III遺跡住居跡一覧表
 3 五代中原III遺跡土坑計測表
 4 五代中原III遺跡柱穴計測表
 5 五代中原III遺跡古墳時代出土遺物觀察表
 6 五代中原III遺跡石製品觀察表
 7 五代中原III遺跡土製品觀察表
 8 住居跡の時期と件数
 9 五代山街道I遺跡住居跡一覧表
 10 五代山街道I遺跡土坑計測表

- 11 五代山街道II遺跡溝跡計測表
 12 五代山街道II遺跡土坑計測表
 13 五代山街道I遺跡縄文時代出土遺物觀察表
 14 五代山街道I遺跡石器觀察表
 15 五代山街道I遺跡平安時代出土遺物觀察表
 16 五代山街道I遺跡石製品觀察表
 17 五代山街道II遺跡縄文時代出土遺物觀察表

付 図

- 付図 1 五代中原III遺跡全体図（縮尺200分の1）
 付図 2 五代山街道I・II遺跡全体図（縮尺200分の1）



1 : 200,000

Fig. 1 位置圖

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、五代南部工業団地造成事業実施に伴い行われた。本調査地は、平成12年度の試掘調査結果により遺跡地であることが確認されている。今年度は、その発掘調査年次計画に基づいて行われた調査の4年目にあたる。

平成15年4月10日、前橋工業団地造成組合（管理者 萩 原 弥惣治）より、五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 阿部 明雄に対し調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。その後、調査団と調査依頼者（前橋工業団地造成組合）とで協議・調整を図り、4月30日に両者の間で五代中原III遺跡・五代山街道I遺跡に関する埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。現地での発掘調査は5月19日から開始した。また、8月21日に変更契約を締結し、五代山街道II遺跡の発掘調査も追加して行うこととなった。

なお、遺跡名称「五代中原III遺跡」（遺跡コード：15C30）の「中原」並びに「五代山街道I遺跡」（遺跡コード：15C34）、「五代山街道II遺跡」（遺跡コード：15C35）の「山街道」は旧地籍の小字名を採用し、名称中のローマ数字は、当調査団で過去に調査した遺跡と区別するため付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、地質・地形から北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。五代中原III遺跡・五代山街道I遺跡・五代山街道II遺跡は前橋市役所から北東の方向約5kmの赤城火山斜面にある五代町地内の五代南部工業団地造成予定地にある。五代町は、昭和29年に前橋市に吸収合併された。それまでは、昭和22年に周囲の6ヶ村と赤城山入会地と合併し、芳賀村となり勢多郡芳賀村五代であった。旧芳賀村の地域は現在も「芳賀地区」と呼ばれている。一緒に吸収合併された五代町の北に隣接する鳥取町は、前橋市の芳賀地区団地造成計画により、昭和45年から住宅・工業団地の開発が進められ、住宅や工場が多数建ち並んでいる。しかし、五代町は一部がこの造成計画によって開発されたが、町の大部分に田畠が残っており、酪農も盛んであり、住宅はまばらな状況である。土地の高低差があり、高いところは宅地、畑、牧草地であり、低いところは田圃になっている。

2 歴史的環境

五代中原III遺跡・五代山街道I遺跡・五代山街道II遺跡が位置する赤城山南斜面の台地には、旧石器時代後期から中近世に至る数多くの遺跡が存在し、埋蔵文化財の宝庫として知られている。本遺跡が所在する前橋市の北部「芳賀地区」は、先にも述べた芳賀地区団地造成計画に伴う大規模な発掘調査の他、数多くの発掘調査によってその歴史が明らかにされてきている。

本遺跡のすぐ北に位置する芳賀東部団地遺跡（調査面積約33ha）は、縄文時代から古墳時代、奈良・平安時代まで続く集落跡である。縄文前期の竪穴住居跡60軒、中期末葉と後期前半の敷石住居跡6軒が検出された。また、古墳4基、鍛冶関連遺構5基が検出された。そして、奈良・平安時代の竪穴住居跡約500軒、掘立柱建物跡200軒



1 : 25,000



Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 周辺遺跡概要一覧

番号	遺跡名	調査年度	時代：遺構の種類及び数
1	五代中原Ⅲ遺跡	平成15	本遺跡
2	五代山街道Ⅰ遺跡	平成15	本遺跡
3	五代山街道Ⅱ遺跡	平成15	本遺跡
4	芳賀北部団地遺跡	昭和48・49	縄文：竪穴住居跡34（うち敷石住居4）、配石遺構17 奈良・平安：竪穴住居跡237、堀立柱建物跡8、鍛鉄遺構3、溝28、井戸5、ピット20
5	芳賀西部団地遺跡	昭和50	縄文：竪穴住居跡7、ピット6、配石遺構3 古墳：古墳32、埴輪棺1他
6	芳賀東部団地遺跡	昭和51～55	縄文：竪穴住居跡60（うち敷石住居6）、ピット140、配石遺構4 古墳：竪穴住居跡5、古墳4 奈良・平安：竪穴住居跡411、堀立柱建物跡206、鎌治・精築址5、その他635
7	鳴峯遺跡	昭和56	古墳：竪穴住居跡11 奈良・平安：竪穴住居跡65
8	小神明遺跡群Ⅰ	昭和57	縄文：竪穴住居跡7、ピット4、その他1 奈良・平安：竪穴住居跡3
9	煙氣遺跡群Ⅰ・Ⅱ	昭和57・58	縄文：竪穴住居跡2、ピット1 弥生：方形周溝墓2、ピット1、溝状遺構1 古墳：竪穴住居跡16
10	小神明遺跡群Ⅱ 西田遺跡	昭和58	縄文：竪穴住居跡3 古墳：竪穴住居跡4、円墳4、帆立貝式古墳1
11	倉本遺跡	昭和58	弥生：竪穴住居跡2
12	小神明遺跡群Ⅱ 大明神遺跡	昭和58	古墳：竪穴住居跡2
13	小神明遺跡群Ⅱ 九料遺跡	昭和58・60	縄文：敷石住居跡3 古墳：竪穴住居跡40、堀立柱建物跡1 奈良・平安：竪穴住居跡2
14	芳賀北曲輪遺跡	平成2	縄文：竪穴住居跡23（うち敷石住居4）、配石遺構1 古墳：古墳6
15	芳賀北原遺跡	平成3	古墳：竪穴住居跡3 奈良・平安：竪穴住居跡6
16	五代槍峯遺跡	平成9	古墳：竪穴住居跡2
17	鳥取東原遺跡	平成9	古墳：竪穴住居跡1 近世：埋葬施設1
18	鳥取福蔵寺遺跡	平成9	縄文：竪穴住居跡2、溝ち込み2 古墳：竪穴住居跡41（鍛鉄遺構1）、土坑83、堀立柱建物跡1、井戸跡2
19	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	平成10	旧石器：網石刃文化石器群 縄文：竪穴住居跡6、 古墳：竪穴住居跡12、 奈良・平安：竪穴住居跡29、堀立柱遺構9、鎌治工開跡1、
20	五代江戸原敷跡	平成12	縄文：土坑1 古墳：竪穴住居跡44、方形周溝墓2、周溝状遺構1、 奈良・平安：竪穴住居跡12、堀立柱建物跡1、ピット87、井戸跡1 中世：地下式土坑2、溝1
21	五代竹花遺跡	平成12	縄文：竪穴住居跡2 古墳：竪穴住居跡7、土筑1 奈良・平安：竪穴住居跡9、土筑3、ピット254 近世・現代：溝2

番号	遺跡名	調査年度	時代：遺構の種類及び数
22	五代木櫛I遺跡	平成12	縄文：竪穴住居跡1、ピット6、配石遺構3 古墳：竪穴住居跡31、土坑8 奈良・平安：掘立柱建物跡23、土坑2、ピット220 中世・近世：土坑11、溝8
23	五代木櫛II遺跡	平成12	縄文：配石1 古墳：竪穴住居跡64 奈良・平安：竪穴住居跡11、掘立柱建物跡16 中世：溝2、地下式土坑2、井戸6 近世以降：溝6
24	五代深堀I遺跡	平成12	縄文：竪穴住居跡1 奈良・平安：竪穴住居跡2、ピット29、掘立柱建物跡3（奈良～中世）
25	五代伊勢宮I遺跡	平成12	古墳：竪穴住居跡2 奈良・平安：竪穴住居跡4、ピット1 中世・近世：土坑1、溝1
26	五代伊勢宮II遺跡	平成13	縄文：竪穴住居跡7 古墳：竪穴住居跡12、竪穴状遺構2 奈良・平安：竪穴住居跡5、掘立柱建物跡3 近世：溝跡3
27	五代伊勢宮III遺跡	平成13	縄文：土坑1 奈良・平安：竪穴住居跡3 中世・近世：土坑66、溝3、井戸3、地下式土坑5
28	五代深堀II遺跡	平成13	縄文：竪穴住居跡1、土坑2 古墳：竪穴住居跡2 奈良・平安：竪穴住居跡7
29	五代中原I遺跡	平成13	縄文(前期)：竪穴住居跡3 古墳：竪穴住居跡5 奈良・平安：竪穴住居跡19、溝1 中世・近世：土坑5
30	五代伊勢宮IV遺跡	平成13	縄文(中期)：竪穴住居跡3、土坑194 奈良・平安：竪穴住居跡1
31	荻窪御遺跡	平成13	奈良・平安：竪穴住居跡10、掘立柱建物跡10
32	荻窪東爪遺跡	平成13	縄文(前期)：竪穴住居跡2
33	荻窪倉兼遺跡	平成13	奈良・平安：竪穴住居跡29、掘立柱建物跡12
34	五代伊勢宮V遺跡	平成14	縄文：竪穴住居跡12 古墳：竪穴住居跡20、小石碑1 奈良・平安：竪穴住居跡32、掘立柱建物跡6、溝跡2 中世・近世：竪穴状遺構5、溝跡4
35	五代伊勢宮VI遺跡	平成14	縄文：竪穴住居跡26、土坑753 古墳：竪穴住居跡13奈良・平安：竪穴住居跡9、鍛冶工房跡1
36	五代中原II遺跡	平成14	縄文：竪穴住居跡4 古墳：竪穴住居跡38
37	荻窪倉兼II遺跡	平成14	奈良・平安：竪穴住居跡36、掘立柱建物跡10、溝跡4

◎その他の周辺の遺跡

- 38 新田塚古墳 39 桜塚古墳 40 大日塚古墳 41 桂正田塚塚古墳
42 東公田古墳 43 オブ塚古墳 44 オブ塚西古墳

が検出された。

本遺跡の西に位置する芳賀西部団地遺跡（調査面積約2.5ha）は、縄文時代前期の竪穴住居跡、埴輪棺等の他、古墳綜覧記載漏れの古墳32基が集中して検出され、初期群集墳であることが分かった。また、小神明遺跡群IIの西田遺跡からは円墳4基、帆立貝式古墳1基が検出された。昭和10年、県下一齊に行われた古墳調査において芳賀地区には64基の古墳があるとされ、赤城南麓では旧荒砥村、粕川村、旧桂萱村について古墳の多いところとされてきた。しかし、古墳綜覧記載漏れの古墳を併せると、芳賀地区には実に100基もの古墳が集中して存在したことになる。

芳賀北部団地遺跡（調査面積約6.1ha）は縄文時代前期、後期の竪穴住居跡、中期の敷石住居跡が検出された。また、奈良・平安時代では竪穴住居跡237軒が検出され、中世では勝沢城址の一部が検出された。

鳥取福蔵寺遺跡では、縄文前期の住居跡が2軒、奈良・平安時代の住居跡が39軒・精錬鍛冶炉遺構が1基、中世の竪穴状遺構1基などが検出された。

鳥取福蔵寺II遺跡では、特筆すべきこととして約13,000年前に堆積した浅間黄色軽石層直下の関東ローム層中より旧石器が検出された。細石刃文化石器群と認められるだけでも350点検出された。器種も細石核、細石刃、スキー状削片、彫刻刀型石器、削器、搔器、礫器など多岐に及んだ。縄文時代前・中・後期の竪穴住居跡6軒、古墳時代の竪穴住居跡12軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡29軒・掘立柱遺構9基・鍛冶工房跡1基が検出された。

椿峯遺跡からは、奈良・平安時代の竪穴住居跡65軒とともに、奈良三彩小壺（前橋指定重要文化財）が検出された。

現在、調査が進行中の五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査では、標高115mから130m付近で縄文時代前・中期の住居跡や土坑、古墳時代中期から奈良・平安時代の住居跡が検出されている。また、標高135m付近で多数の縄文時代中期の土坑が検出された。北西部では古墳時代前期の住居跡も検出されている。

このように芳賀地区の主な遺跡を見てみると、旧石器時代の終わりから縄文・古墳・奈良・平安時代・中近世と、古くから絶えることなく人々が生活をしてきたことが窺える。

III 調査の経過

1 調査方針

委託調査箇所は、五代南部工業団地造成が計画されている地域（約427,600m²）のうち、平成12年度試掘調査の結果、本調査が必要とされた地域（約137,500m²）である。グリッドについては、4mピッチで西から東へX0、X1、X2…と、北から南へY0、Y1、Y2…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。五代中原III遺跡は、本調査が必要とされた地域のうち約2,462m²、五代山街道I遺跡は約5,195.3m²、五代山街道II遺跡は1,000m²である。

各遺跡の公共座標は次のとおりである。

【五代中原III遺跡】(X84・Y52)

+45992.000 (X)	-64364.000 (Y)	【新座標】
+45640.941 (X)	-64082.888 (Y)	【旧座標】
緯度	36°24'44". 6742	経度 139°06'56". 0491
子午線収差角	25°33". 868	増大率 0.999951

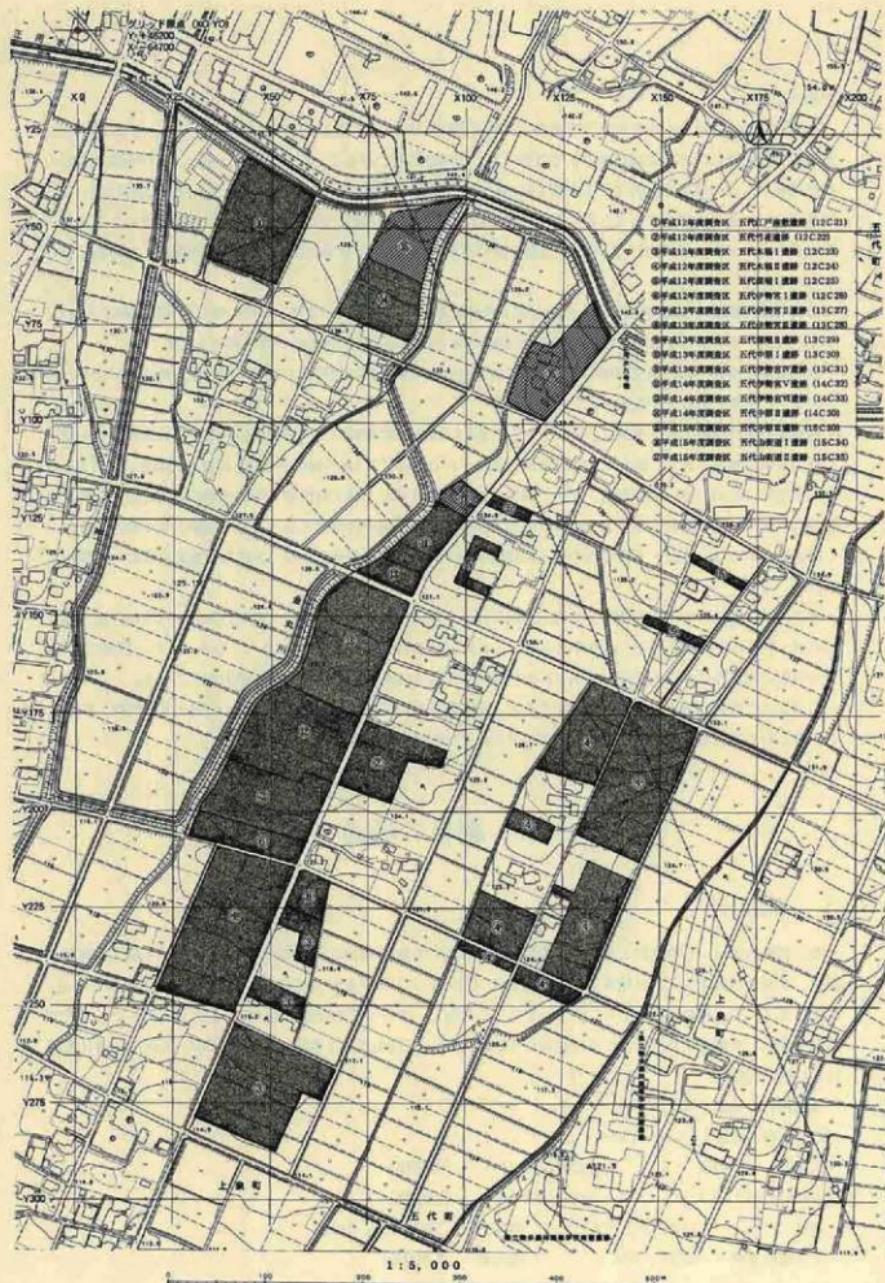


Fig. 3 グリッド設定図

【五代山街道Ⅰ遺跡】(X120・Y88)

+45848.000 (X)	-64220.000 (Y) 【新座標】		
+45496.930 (X)	-63938.884 (Y) 【旧座標】		
緯度	36°24'40". 0366	経度	139°07'01". 8726
子午線収差角	25°30". 365	増大率	0.999951

【五代山街道Ⅱ遺跡】(X100・Y118)

+45782.000 (X)	-64300.000 (Y) 【新座標】		
+45430.927 (X)	-64018.883 (Y) 【旧座標】		
緯度	36°24'37". 8354	経度	139°06'51". 9371
子午線収差角	25°36". 2	増大率	0.999951

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竪は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

本調査は、遺跡が複数あることと、民家移転の関係等で調査区を分割したこともあり、遺跡間の調整を図り一部調査を並行するなどして進めた。5月19日から試掘調査を行い、今年度の発掘調査範囲を確定した。

発掘調査は、五代山街道Ⅰ遺跡から着手することとしたが、五代山街道Ⅰ遺跡には、5月の時点で調査区内に民家が建っていた。そのため、民家移転の時期や残土置き場等を考慮し、調査区を南北に2分し、北半分から発掘調査を進めることとした。

五代山街道Ⅰ遺跡調査区北半分は5月26日から発掘調査を開始した。重機(バックフォー0.7m³、バックフォー0.4m³)各1台を使い、調査区の表土掘削を行った。表土掘削に3日かかり、それと並行して築基による遺構確認を行った。表土下約30cmからローム面が検出された。28・29日に杭打ちを行い、遺構の掘下・精査に入った。この調査区の南西部分には、竹林の根が残り遺構の確認が困難であった。6月19日には前橋市立桂萱中学校の2年生2名が職場体験学習に訪れ、発掘調査の話や出土遺物の説明を受けた後、遺構の掘り下げや土器の注記作業などを体験して、遺物発見の喜びや発掘の苦労を感じて帰校した。遺構精査の結果、調査区北半分では竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡1軒、土坑5基が検出された。7月3日に高所作業車による全体写真撮影を行った。埋め戻しは調査区南半分の表土掘削と並行して行った。

五代山街道Ⅰ遺跡調査区北半分の調査終了の見通しがたったので、6月18日から五代中原Ⅲ遺跡の発掘調査を開始した。重機(バックフォー0.4m³)2台と4tダンプ1台を使い、調査区の表土掘削を行った。表土掘削に5日間かかり、それと並行して、築基による遺構確認を行った。表土下約40cmからローム面が検出された。26日に杭打ちを行い、遺構の掘下・精査に入った。住居はすべて竪を伴わぬ、重複するものも多かった。調査区東壁付近は、遺構の確認が困難であったため、壁に沿ってサブトレンチを入れ、確認・掘り下げを行った。また、過年度の調査で隣接する五代中原Ⅱ遺跡から縄文時代の住居も検出されていたため、縄文時代の遺構を探るサブトレンチも何か所かに設定したが、縄文時代の明確な遺構は検出されなかった。遺構精査の結果、竪穴住居跡45軒、土坑55基、柱穴57基が検出された。

五代中原III遺跡の調査が順調に進む中、並行して五代山街道II遺跡と五代山街道I遺跡南半分の調査を開始した。

五代山街道II遺跡は5月に行った試掘調査で本調査を行うことが決まり、契約変更で追加した調査区である。8月25日から重機（バックフォー0.7m³）1台を使い1日半かけて表土掘削を行った。それと並行して鋤廉による遺構確認を行ったところ、表土下約30cmからローム面が検出された。この調査区では、近年まで建っていた建物に伴うと思われる擾乱が隨所に見られ、遺構の確認が困難であった。遺構精査の結果、土坑11基、溝1条が検出された。

五代山街道I遺跡調査区南半分は、民家移転後試掘調査を行って面積を確定した後、8月26日から発掘調査を開始した。表土掘削は、五代山街道II遺跡の表土掘削に統合して、重機（バックフォー0.7m³）1台を使って開始したが、調査区の南西部が予想より遺構面まで深く土量も増えたため、重機（バックフォー0.4m³）1台と10tクローラー1台を追加し、9日かけて行った。それと並行して鋤廉による遺構確認を行った。ローム面までの深さは、調査区北半分と連続するあたりでは30cm程度だが、南西部は昭和期の排水溝埋設工事により盛土がなされており、遺構面まで1mを越える深さとなった。五代山街道II遺跡の精査終了後、五代山街道I遺跡調査区南半分の掘下・精査に着手した。民家が建っていた付近では、民家に伴うと思われる擾乱が多く、明確な遺構は確認できなかった。遺構精査の結果、調査区南半分では竪穴住居跡4軒、土坑3基が検出され、五代山街道I遺跡全体では竪穴住居跡9軒、掘立柱建物跡1軒、土坑8基の検出となった。

11月13日に、高所作業車を使い、五代中原III遺跡・五代山街道I遺跡調査区南半分・五代山街道II遺跡の全体写真撮影を行った。その後、重機（バックフォー0.4m³）1台、10tダンプ2台、重機（ブルドーザー：BD 2）1台で、五代中原III遺跡・五代山街道I遺跡調査区南半分・五代山街道II遺跡の埋め戻しを8日間かけて行った。

今年の夏は天候不順で雨の日も多く、作業の進捗に多少影響が見られたが、反面気温が低めで作業を行い易かった。変更契約により調査面積が増加したため、9月には作業員を補充して調査を行った。台風等の影響も少なく、11月19日にはすべての遺跡の発掘調査が終了した。20日から現場事務所で土器洗浄や図面整理等を行い、並行して26日・27日に、来年度調査予定地の試掘調査を行った。12月1日をもって現地での調査は終了となった。12月2日から文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業にあたった。3月19日、遺物・図面・写真等の整理作業をすべて終了した。

IV 基本層序

各遺跡地内の地層の堆積は、下のとおりである。

【五代中原Ⅲ遺跡】

1	褐灰色細砂層	(10YR4/1)	締まり○ 粘性× 現耕作土 厚さ30cm前後
2	暗褐色細砂層	(10YR3/3)	締まり○ 粘性○ Hr-FP 軽石・ As-C 軽石含む 厚さ15cm前後
3	にぶい黄褐色細砂層	(10YR5/4)	締まり○ 粘性○ As-C 軽石を含む ローム漸移層 厚さ10cm前後
4	明黄褐色細砂層	(10YR6/6)	締まり○ 粘性○ ローム層

表 土

1
2
3
4

【五代山街道Ⅰ遺跡】

1	褐灰色細砂層	(10YR4/1)	締まり○ 粘性× 現耕作土 厚さ35cm前後
2	褐色細砂層	(10YR4/6)	締まり○ 粘性○ Hr-FP 軽石・ As-C 軽石含む 厚さ15cm前後
3	にぶい黄褐色微砂層	(10YR5/4)	締まり○ 粘性○ As-C 軽石を含む ローム漸移層 厚さ10cm前後
4	明黄褐色細砂層	(10YR6/8)	締まり△ 粘性○ ローム層

表 土

1
2
3
4

【五代山街道Ⅱ遺跡】

1	褐灰色細砂層	(10YR4/1)	締まり○ 粘性× 現耕作土 厚さ25cm前後
2	にぶい黄褐色微砂層	(10YR5/4)	締まり○ 粘性○ As-C 軽石を含む ローム漸移層 厚さ10cm前後
3	明黄褐色微砂層	(10YR6/6)	締まり△ 粘性○ ローム層

表 土

1
2
3

五代中原III遺跡

V 五代中原III遺跡

1 遺構と遺物

(1) 壁穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 5・6、PL. 2)

位置 X81~82、Y46~47グリッド 主軸方向 N-20°-E 形状等 正方形。東西4.90m、南北4.50m、壁現高30cmを測る。貯蔵穴の他に大型の土坑が西壁寄りに2基検出された。面積 19.65m² 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。床面や壁際から炭化物や焼土が検出された。炉 中央やや北寄りに検出され、主軸方向N-5°-Eであり、長径100cm、短径48cm、深さ10cmを測る。焼土範囲が南北に継長になっており、火を焚く場所を移動して使用したか。石が抜けた痕跡と思われる窪みが見られる。時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。出土遺物 総数880点。そのうち小型土器(ミニチュア土器)1点、小型器台3点、壺1点、鉢2点、蓋1点、瓶1点、小型壺1点、壺1点、小型壺1点、壺2点、台付壺3点を図示した。

H-2号住居跡 (Fig. 7、PL. 2・3)

位置 X83~85、Y45~47グリッド 主軸方向 N-10°-W 形状等 正方形。東西6.10m、南北6.92m、壁現高27cmを測る。住居の南の一部分が後世の穴に切られている。面積 [36.36] m² 床面 平坦で堅緻な床面。炉 明確な焼土等は検出されなかった。時期 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。出土遺物 総数257点。そのうち、鉢1点、壺1点、小型壺1点を図示した。

H-3号住居跡 (Fig. 8、PL. 3)

位置 X84~86、Y47~48グリッド 主軸方向 N-18°-E 形状等 正方形。東西5.82m、南北5.10m、壁現高64cmを測る。面積 28.51m² 床面 平坦で全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。炉 中央東寄りより検出され、主軸方向がN-71°-Wであり、長径112cm、短径50cm、深さ8.5cmを測る。扁平な石を伴う。時期 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。出土遺物 総数698点。そのうち、小型器台2点、鉢1点、小型壺1点、壺1点、壺2点、台付壺2点を図示した。

H-4号住居跡 (Fig. 9、PL. 3)

位置 X85~86、Y45~46グリッド 主軸方向 N-5°-E 形状等 正方形と推定される。東西 [3.13] m、南北3.76m、壁現高17cmを測る。面積 [10.36] m² 床面 平坦で堅緻な床面。炉 南西寄りより検出され、主軸方位N-3°-Eであり、長径55cm、短径38cm、深さ1.5cmを測る。重複 H-5と重複しており、新旧関係は本遺構→H-5の順である。時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。出土遺物 総数156点。そのうち、壺1点、壺1点、台付壺1点を図示した。

H-5号住居跡 (Fig. 9、PL. 3)

位置 X85~86、Y45~46グリッド 主軸方向 N-13°-E 形状等 正方形と推定される。東西 [4.90] m、南北 [4.72] m、壁現高14cmを測る。面積 [20.17] m² 床面 平坦で堅緻な床面。炉 一部に焼土が見られたが、明確に炉と判定できるのものは検出されなかった。重複 H-4と重複しており、新旧関係はH-4

→本遺構の順である。時期 墓土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。出土遺物 総数129点。そのうち、鉢1点、蓋1点、壺1点、台付甕？1点を図示した。

H-6号住居跡 (Fig.10・11, PL. 4)

位置 X87~89、Y46~48グリッド 主軸方向 N-10°-E 形状等 正方形と推定される。東西 [6.92] m、南北7.30m、壁現高12cmを測る。面積 [47.34] m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。住居北西側にベッド状遺構と思われる高まりが検出された。炉 中央やや北寄りと南西寄りの2箇所から検出された。北寄りのものは主軸方向が[N-16°-E]で、長径 [194] cm、短径 [85] cm。南西寄りのものは主軸方向が[N-63°-W]で長径 [95] cm、短径 [74] cmを測る。双方ともあまり窓まず、広範囲によく焼けている。双方とも擾乱に切られている。重複 H-7・H-14と重複しており、新旧関係はH-14→本遺構→H-7の順である。時期 墓土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。出土遺物 総数567点。そのうち、高坏1点、鉢1点、壺2点、台付甕？1点を図示した。

H-7号住居跡 (Fig.10・11, PL. 4)

位置 X88~89、Y45~46グリッド 主軸方向 N-33°-E 形状等 長方形。東西4.36m、南北3.70m、壁現高23cmを測る。面積 14.70m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。炉 中央やや東寄りより検出され、主軸方向がN-63°-Eであり、長径93cm、短径80cm、深さ9.5cmを測る。重複 H-6・H-14と重複しており、新旧関係はH-14→H-6→本遺構の順である。時期 墓土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。出土遺物 総数264点。そのうち、壺4点を図示した。

H-8号住居跡 (Fig.12・13, PL. 4)

位置 X89~90、Y46~48グリッド 主軸方向 N-8°-E 形状等 正方形。東西6.64m、南北6.80m、壁現高65cmを測る。面積 43.66m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。間仕切り溝が東壁中央付近・西壁中央付近の2箇所に見られる。炉 中央西寄りより検出され、主軸方向がN-8°-Eであり、長径95cm、短径28cm、深さ3cmを測る。重複 H-9・H-14と重複しており、H-9との新旧関係はH-9→本遺構の順である。H-14との新旧関係は、本遺構と重なる部分のH-14のプランが明確に確認できなかつたので不明。時期 墓土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。出土遺物 総数487点。そのうち、鉢1点、壺1点、壺1点、台付甕？1点、石製模造品1点を図示した。

H-9号住居跡 (Fig.12・13, PL. 4)

位置 X90~91、Y46~47グリッド 主軸方向 N-55°-E 形状等 正方形。東西 [3.60] m、南北3.72m、壁現高25cmを測る。面積 [12.50] m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。炉 中央やや東寄りより検出され、主軸方向N-56°-Eであり、長径90cm、短径52cm、深さ5.5cmを測る。重複 H-8と重複しており、新旧関係は本遺構→H-8の順である。時期 墓土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。出土遺物 総数23点。そのうち、高坏？1点、壺1点を図示した。

H-10号住居跡 (Fig.14・15, PL. 5)

位置 X93~95、Y44~46グリッド 主軸方向 N-44°-W 形状等 長方形と推定される。東西5.30m、南北 [6.38] m、壁現高16cmを測る。面積 [30.00] m² 床面 炉付近に非常に堅緻な床面。炉 中央南寄りより検出され、主軸方向N-45°-Eであり、長径134cm、短径72cm、深さ6.5cmを測る。石を伴う。重複 H-11

と重複しているが、H-11の残りが悪いため新旧関係は不明。 時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。 出土遺物 総数148点。そのうち、高壙1点、鉢1点、小型壺1点、小型甕1点、台付甕1点を図示した。

H-11号住居跡 (Fig.14・15)

位置 X92～94、Y45～47グリッド 主軸方向 [N-26°-E] 形状等 正方形と推定される。東西 [6.58] m、南北 [6.50] m、壁現高0cmを測る。面積 [42.99] m² 床面 炉付近に非常に堅緻な床面。炉 中央北寄りより検出され、主軸方向N-103°-Eであり、長径110cm、短径40cm、深さ3.5cmを測る。重複 H-10・H-12と重複しているが、本遺構の残りが悪いため新旧関係は不明。 時期 平面形態や出土遺物から古墳時代前期と考えられる。 出土遺物 総数11点。

H-12号住居跡 (Fig.16・17、PL. 5)

位置 X92～94、Y46～47グリッド 主軸方向 N-33°-E 形状等 正方形。東西5.10m、南北5.24m、壁現高33cmを測る。面積 24.90m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。炉 中央西寄りより検出され、主軸方向N-35°-Eであり、長径64cm、短径38cmを測る。あまり窪まない。重複 H-11・H-13と重複しており、H-13との新旧関係はH-13→本遺構の順である。H-11との新旧関係は、H-11のプランが明確に確認できなかっただけで不明。 時期 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 出土遺物 総数27点。そのうち、壺3点、甕1点を図示した。

H-13号住居跡 (Fig.16・17、PL. 5)

位置 X92・93、Y46・47グリッド 主軸方向 N-41°-W 形状等 長方形。東西 [4.58] m、南北3.20m、壁現高26cmを測る。面積 [13.57] m² 床面 平坦で全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。炉 中央西寄りより検出され、主軸方向N-1°-Wであり、長径25cm、短径20cmを測る。あまり窪まない。重複 H-12と重複しており、新旧関係は本遺構→H-12の順である。 時期 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 出土遺物 総数66点。そのうち、高壙1点、甕1点、壺1点、台付甕2点を図示した。また、H-12・H-13の重複した部分の埋土から出土し、どちらの遺構に伴うのか判明しなかった遺物が342点出土した。

H-14号住居跡 (PL. 4)

位置 X89・90、Y46・47グリッド 主軸方向 N-5°-E 形状等 正方形と推定される。東西 [4.80] m、南北 [4.54] m、壁現高12cmを測る。面積 [21.93] m² 床面 堅緻な床面。炉 不明。重複 H-6・H-8と重複しており、H-6との新旧関係は本遺構→H-6の順である。H-8との新旧関係は、H-8との重複部分における本遺構のプランが明確に確認できなかっただけで不明。 時期 埋土や平面形態から古墳時代前期と考えられる。 出土遺物 明確な遺物の出土はなかった。

H-15号住居跡 (Fig.18・19、PL. 5)

位置 X89～91、Y49・50グリッド 主軸方向 N-50°-W 形状等 正方形。東西4.02m、南北4.08m、壁現高32cmを測る。面積 14.89m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。床面や壁際から大量の炭化物が検出され、床面に所々焼けたところが見られた。炉 中央東寄りより検出され、主軸方向N-56°-Eであり、長径100cm、短径30cm、深さ4.5cmを測る。重複 H-16と重複しており、新旧関係はH-16→本遺構の順である。 時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。 出土遺物 総数94点。そのうち、小型器台1点、高壙1点、

鉢1点、壺1点、台付壺1点を図示した。

H-16号住居跡 (Fig.18・19、PL. 5)

位置 X89+90、Y49~51グリッド 主軸方向 N-22°-E 形状等 長方形と推定される。東西7.10m、南北[6.50]m、壁現高58cmを測る。面積 (32.96) m² 床面 平坦で全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。床面から大量の炭化物や焼土が検出された。炉 中央東寄りより検出され、主軸方向がN-9°-Eであり、長径106cm、短径62cm、深さ6cmを測る。重複 H-15・H-17と重複しており、新旧関係はそれぞれ本遺構→H-15、本遺構→H-17の順である。時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。出土遺物 総数222点。そのうち、高环1点、壺1点、台付壺1点を図示した。

H-17号住居跡 (Fig.18・19、PL. 5)

位置 X90、Y50~51グリッド 主軸方向 N-39°-E 形状等 正方形と推定される。東西[2.84]m、南北[2.88]m、壁現高16cmを測る。面積 [7.47] m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。炭化物が検出された。炉 中央より検出され、主軸方向N-30°-Wであり、長径110cm、短径80cm、深さ1.5cmを測る。重複 H-16と重複しており、新旧関係はH-16→本遺構の順である。時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。出土遺物 総数213点。そのうち、壺1点、壺1点を図示した。

H-18号住居跡 (Fig.20・21、PL. 6)

位置 X94+95、Y46~47グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 正方形と推定される。東西(3.04)m、南北4.06m、壁現高57cmを測る。面積 (8.77) m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。炉 一部に焼土が見られたが明確に炉と判断できるものは検出されなかった。重複 H-19、H-20と重複しており、新旧関係はH-19→本遺構→H-20の順である。時期 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。出土遺物 総数392点。そのうち、高环2点、鉢1点、壺1点を図示した。

H-19号住居跡 (Fig.20・21、PL. 6)

位置 X93+94、Y47~48グリッド 主軸方向 N-53°-W 形状等 長方形と推定される。東西(5.40)m、南北4.91m、壁現高61cmを測る。面積 (20.46) m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。炉 中央北東寄りより検出されたが、主軸方向N-60°-Eであり、長径(100)cm、短径62cm、深さ2.5cmを測る。重複 H-18、H-20と重複しており、新旧関係は本遺構→H-18→H-20の順である。時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。出土遺物 総数229点。そのうち、鉢3点、壺1点を図示した。

H-20号住居跡 (Fig.20・21、PL. 6)

位置 X94、Y47~48グリッド 主軸方向 N-155°-E 形状等 正方形と推定される。東西(1.20)m、南北[3.92]m、壁現高8cmを測る。面積 (3.69) m² 床面 平坦で堅緻な床面。炉 明確な焼土等は確認されなかつた。重複 H-18、H-19と重複しており、新旧関係はH-19→H-18→本遺構の順である。時期 埋土や平面形態から古墳時代前期と考えられる。出土遺物 本遺構に伴う遺物の出土はなかつた。

H-21号住居跡 (Fig.21)

位置 X93+94、Y48グリッド 主軸方向 [N-57°-W] 形状等 正方形と推定される。東西(0.48)m、南北(2.28)m、壁現高39cmを測る。面積 (0.49) m² 床面 平坦で堅緻な床面。炉 明確な焼土等は確認さ

れなかった。 時期 埋土や平面形態からと古墳時代前期と考えられる。 出土遺物 本遺構に伴う遺物の出土はなかった。

H-22号住居跡 (Fig.22・23、PL. 6)

位置 X79・80、Y48~50グリッド 主軸方向 N-26°-E 形状等 正方形と推定される。東西(5.32)m、南北5.64m、壁現高45cmを測る。 面積 (28.60) m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。 炉 中央やや北寄りより検出され、主軸方向N-22°-Wであり、長径135cm、短径94cm、深さ18cmを測る。石を抜き取ったと思われる稚みが見られる。 重複 H-23と重複しており、新旧関係はH-23→本遺構の順である。 時期 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 出土遺物 総数1,055点。そのうち、壺1点を図示した。

H-23号住居跡 (Fig.22、PL. 6)

位置 X80・81、Y49グリッド 主軸方向 N-37°-E 形状等 正方形。東西 [2.90] m、南北3.50m、壁現高42cmを測る。 面積 [9.36] m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。 炉 中央南西寄りより検出され、主軸方向N-50°-Wであり、長径61cm、短径50cm、深さ2cmを測る。石を伴う。 重複 H-22と重複しており、新旧関係は本遺構→H-22の順である。 時期 出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。 出土遺物 総数131点。そのうち、壺1点を図示した。

H-24号住居跡 (Fig.24、PL. 6)

位置 X80・81、Y50・51グリッド 主軸方向 N-13°-W 形状等 長方形。東西4.40m、南北5.06m、壁現高59cmを測る。 面積 20.09m² 床面 全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。床面から大量の炭化物と焼土が検出された。床面が所々焼けている。 炉 中央やや北寄りより検出され、主軸方向N-43°-W。 時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 出土遺物 総数323点。そのうち、鉢1点を図示した。

H-25号住居跡 (Fig.26・27、PL. 6)

位置 X82~84、Y49~51グリッド 主軸方向 N-31°-E 形状等 正方形。東西6.52m、南北5.72m、壁現高79cmを測る。 面積 34.42m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。 炉 ほぼ中央より検出され、主軸方向N-13°-Wであり、長径57cm、短径40cm、深さ6cmを測る。 重複 H-26と重複しており、新旧関係はH-26→本遺構の順である。 時期 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 出土遺物 総数782点。そのうち、小型器台1点、高环1点、鉢1点、壺1点、小型壺1点、台付壺2点を図示した。

H-26号住居跡 (Fig.26・27、PL. 6)

位置 X84・85、Y49~51グリッド 主軸方向 N-8°-E 形状等 長方形。東西 [4.62] m、南北5.72m、壁現高51cmを測る。 面積 (18.71) m² 床面 平坦で全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。南壁西寄りから内側に向かって間仕切りの溝が見られる。 炉 ほぼ中央より検出され、主軸方向N-30°-Eであり、長径160cm、短径97cm、深さ7cmを測る。 重複 H-25と重複しており、新旧関係は本遺構→H-25の順である。 時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 出土遺物 総数314点。そのうち、壺1点を図示した。

H-27号住居跡 (Fig.25、PL. 7)

位置 X82~84、Y51・52グリッド 主軸方向 N-21°-E 形状等 正方形。東西 [4.10] m、南北4.70m、壁現高20cmを測る。 面積 [17.72] m² 床面 平坦で堅緻な床面。 炉 中央南寄りより検出され、主軸方向

がN-63°-Wであり、長径82cm、短径62cm、深さ5cmを測る。 時期 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 出土遺物 総数77点。そのうち、小型壺1点を図示した。

H-28号住居跡 (Fig.28, PL. 7)

位置 X87~89、Y51~53グリッド 主軸方向 N-127°-E 形状等 正方形と推定される。東西(7.98)m、南北7.58m、壁現高76cmを測る。 面積(33.98)m² 床面 全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。南壁中央付近から内側に向かって間仕切り溝が見られる。床面から大量の炭化物と焼土が検出された。床面が所々焼けている。 炉 中央やや東寄りより検出され、主軸方向がN-94°-Eであり、長径(110)cm、短径90cm、深さ18cmを測る。 時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 出土遺物 総数886点。そのうち、鉢1点を図示した。

H-29号住居跡 (Fig.29, PL. 7)

位置 X89・90、Y52~54グリッド 主軸方向 N-35°-E 形状等 正方形。東西[5.24]m、南北5.20m、壁現高11cmを測る。 面積 [25.51]m² 床面 平坦で堅緻な床面。 炉 明確な焼土等は確認されなかった。重複 H-39と重複しており、新旧関係は本遺構→H-39の順である。 時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 出土遺物 総数33点。そのうち、壺1点を図示した。

H-30号住居跡 (Fig.30, PL. 7)

位置 X88・89、Y53・54グリッド 主軸方向 N-36°-E 形状等 正方形。東西3.30m、南北3.76m、壁現高27cmを測る。 面積 11.21m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。 炉 中央やや北寄りに検出され、主軸方向N-38°-Eであり、長径80cm、短径50cm、深さ2.5cmを測る。 時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。 出土遺物 総数95点。そのうち、小型壺1点を図示した。

H-31号住居跡 (Fig.30, PL. 7)

位置 X89・90、Y54・55グリッド 主軸方向 N-25°-E 形状等 正方形。東西2.74m、南北3.00m、壁現高35cmを測る。 面積 7.15m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。 炉 中央北寄りより検出され、主軸方向N-27°-Wであり、長径25cm、短径18cm、深さ1cmを測る。 時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 出土遺物 総数92点。そのうち、壺1点を図示した。

H-32号住居跡 (Fig.31, PL. 8)

位置 X78~80、Y51~52グリッド 主軸方向 N-27°-E 形状等 正方形。東西[5.42]m、南北5.22m、壁現高28cmを測る。 面積 [25.96]m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。 炉 中央やや南寄りより検出され、主軸方向N-55°-Wであり、長径66cm、短径50cm、深さ4cmを測る。 時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 出土遺物 総数661点。そのうち、鉢1点を図示した。

H-33号住居跡 (Fig.32, PL. 8)

位置 X80・81、Y51~53グリッド 主軸方向 N-27°-E 形状 正方形。東西6.70m、南北6.56m、壁現高55cmを測る。 面積 41.25m² 床面 全面に渡り非常に堅緻な床面。周溝有。 炉 中央東寄りより検出され、主軸方向N-26°-Eであり、長径87cm、短径75cm、深さ10cmを測る。石を伴う。 時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 出土遺物 総数632点。そのうち、壺1点、土製紡錘車1点を図示した。

H-34号住居跡 (Fig.33、PL.8)

位置 X82~84、Y53~55グリッド 主軸方向 N-61°-W 形状等 長方形。東西5.74m、南北6.90m、壁現高35cmを測る。面積 37.61m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。炉 中央やや北寄りより検出され、主軸方向N-27°-Eであり、長径147cm、短径130cm、深さ7cmを測る。時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃～後半と考えられる。出土遺物 総数501点。そのうち、小型器台1点、台付壺1点、訪姫車1点、土製訪姫車1点を図示した。

H-35号住居跡 (Fig.34・35、PL.8・9)

位置 X84~86、Y53~55グリッド 主軸方向 N-43°-E 形状等 正方形。東西[6.50]m、南北[5.90]m、壁現高20cmを測る。面積 [34.45]m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。炉 中央やや東寄りより検出され、主軸方向N-53°-Wであり、長径193cm、短径68cm、深さ9cmを測る。重複 H-36・H-37と重複しており、新旧関係は本遺構→H-37→H-36の順である。時期 埋土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。出土遺物 総数246点。そのうち、壺1点を図示した。

H-36号住居跡 (Fig.34・35、PL.8・9)

位置 X84~85、Y54~55グリッド 主軸方向 N-10°-E 形状等 長方形。東西5.14m、南北4.26m、壁現高25cmを測る。面積 22.61m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。炉 中央北寄りより検出され、主軸方向N-45°-Eであり、長径107cm、短径76cm、深さ9cmを測る。重複 H-35・H-37と重複しており、新旧関係はH-35→H-37→本遺構の順である。時期 埋土や出土遺物から4世紀末と考えられる。出土遺物 総数242点。そのうち、小型壺1点を図示した。

H-37号住居跡 (Fig.34・35、PL.9)

位置 X85~86、Y54~55グリッド 主軸方向 N-32°-E 形状等 正方形。東西5.26m、南北5.12m、壁現高15cmを測る。面積 [24.98]m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。ベッド状遺構あり。炉 中央北寄りより検出され、主軸方向N-70°-Eであり、長径90cm、短径60cm、深さ6cmを測る。重複 H-35・H-36と重複しており、新旧関係はH-35→本遺構→H-36の順である。時期 埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。出土遺物 総数250点。そのうち、壺1点を図示した。また、H-35・H-36・H-37の重複した部分の埋土から出土し、どの遺構に伴うのか判明しなかった遺物が253点出土した。

H-38号住居跡 (Fig.36、PL.9)

位置 X87~88、Y55~56グリッド 主軸方向 N-32°-E 形状等 長方形。東西4.94m、南北6.16m、壁現高20cmを測る。面積 27.79m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。炉 ほぼ中央と中央やや南寄りより検出され、中央のものが主軸方向N-20°-Eであり、長径170cm、短径111cm、深さ5.5cmを測る。南寄りのものが主軸方向N-79°-Wであり、長径102cm、短径45cm、を測り、ほとんど窪みない。時期 埋土や出土遺物から4世紀末頃と考えられる。出土遺物 総数334点。そのうち、高壺1点を図示した。

H-39号住居跡 (Fig.29、PL.7)

位置 X89~90、Y52~54グリッド 主軸方向 N-35°-E 形状等 正方形と推定される。東西[4.70]m、南北[4.70]m、壁現高0cmを測る。面積 [24.82]m² 床面 平坦で堅緻な床面。炉 中央やや東寄りより検出され、主軸方向N-55°-Wであり、長径62cm、短径38cm、深さ1.5cmを測る。重複 H-29と重複しており、

新旧関係はH-29→本遺構の順である。 時期 墓土や平面形態から古墳時代前期と考えられる。 出土遺物 本遺構に伴う遺物の出土はなかった。

H-40号住居跡 (Fig.37, PL.10)

位置 X79・80、Y53・54グリッド 主軸方向 N-25°-E 形状等 正方形。東西5.34m、南北4.60m、壁現高55cmを測る。 面積 [22.59] m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。 炉 中央西寄りより検出されたが、擾乱により半分程度失われている。主軸方向[N-67°-W]であり、長径57cm、短径[17]cm、深さ3.5cmを測る。 時期 墓土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 出土遺物 総数366点。そのうち、高坏2点を図示した。

H-41号住居跡 (Fig.38・39, PL.10)

位置 X80・81、Y54・55グリッド 主軸方向 N-33°-E 形状等 正方形。東西3.40m、南北3.50m、壁現高26cmを測る。 面積 [10.91] m² 床面 平坦で堅緻な床面。 炉 ほぼ中央と中央南寄りより検出され、中央のものが主軸方向N-4°-Eであり、長径90cm、短径40cm、深さ3.5cmを測る。南寄りのものが主軸方向N-60°-Wであり、長径60cm、短径50cm、深さ2cmを測る。 重複 H-42と重複しており、新旧関係は本遺構→H-42の順である。 時期 墓土や出土遺物から4世紀末頃と考えられる。 出土遺物 総数84点。そのうち、高坏1点を図示した。

H-42号住居跡 (Fig.38・39, PL.10)

位置 X81・82、Y55・56グリッド 主軸方向 N-9°-E 形状等 正方形。東西5.16m、南北5.62m、壁現高66cmを測る。 面積 27.00m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。周溝有。 炉 中央北寄りより検出され、主軸方向N-7°-Eであり、長径102cm、短径50cm、深さ6cmを測る。 重複 H-41と重複しており、新旧関係はH-41→本遺構の順である。 時期 墓土や出土遺物から4世紀末頃と考えられる。 出土遺物 総数247点。そのうち、鉢1点、石製品1点を図示した。

H-43号住居跡 (Fig.40, PL.10)

位置 X84・85、Y56・57グリッド 主軸方向 N-25°-E 形状等 正方形。東西4.82m、南北5.16m、壁現高30cmを測る。 面積 [22.65] m² 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。 炉 ほぼ中央とやや北寄りより検出され、中央のものが主軸方向N-60°-Wであり、長径90cm、短径(53)cm、深さ8cmを測る。北寄りのものが主軸方向N-48°-Wであり、長径83cm、短径(52)cm、深さ5cmを測る。双方とも擾乱で一部切られている。 重複 D-15と重複しており、新旧関係は本遺構→D-15の順である。 時期 墓土や出土遺物から4世紀中頃と考えられる。 出土遺物 総数943点。そのうち、小型器台3点、高坏1点、甌1点、壺1点、甕1点、台付甕1点を図示した。

H-44号住居跡 (Fig.41, PL.11)

位置 X86~88、Y56~58グリッド 主軸方向 N-29°-E 形状等 正方形。東西6.04m、南北5.78m、壁現高27cmを測る。 面積 32.47m² 床面 平坦で一部非常に堅緻な床面。 炉 中央やや西寄りより検出され、主軸方向N-55°-Wであり、長径112cm、短径70cm、深さ10cmを測る。 時期 墓土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。 出土遺物 総数640点。そのうち、高坏1点を図示した。

H-45号住居跡 (Fig.42、PL.11)

位置 X88・89、Y59グリッド 主軸方向 N-89°-W 形状等 正方形と推定される。東西(1.94)m、南北3.26m、壁現高38cmを測る。面積 (5.42)m² 床面 平坦で堅致な床面。炉 明確な焼土等は確認されなかつた。時期 埋土や平面形態から古墳時代前期と推測される。出土遺物 本遺構に伴う遺物の出土はなかつた。

(2) 土坑・柱穴 (Fig.42・43、PL.11)

Tab.3 土坑計測表、Tab.4柱穴計測表を参照のこと。

(3) グリッド等出土遺物

小破片を含め総数2,503点の遺物を出土した。

Tab. 2 五代中原III遺跡住居跡一覧表

遺跡名	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	戸		周囲	出土 遺物
	東西	南北	更現高			位置・木材等			
H-1	4.90	4.50	0.30	19.65	N-20°-E	中央北寄り・石の抜けた痕跡		○	小型土器・小型器台・高坏・鉢・壺・瓶・ 小型壺・壺・小型壺・壺・台付壺
H-2	6.10	6.92	0.27	[36.96]	N-10°-W	検出されず		×	鉢・壺・小型壺
H-3	5.82	5.10	0.64	28.51	N-18°-E	中央東寄り・肩平な石		○	小型器台・鉢・小型壺・ 壺・壺・台付壺
H-4	(3.13)	3.76	0.17	[10.36]	N-5°-E	中央西寄り		×	壺・瓶・台付壺?
H-5	(4.90)	(4.72)	0.14	[20.17]	N-13°-E	検出されず		×	鉢・壺・瓶・台付壺?
H-6	(5.92)	7.30	0.12	[47.34]	N-10°-E	中央北寄りと中央南寄りの2ヶ所		○	高坏・鉢・壺・台付壺?
H-7	4.36	3.70	0.23	14.70	N-33°-E	中央東寄り		○	壺
H-8	6.64	6.80	0.65	43.66	N-8°-E	中央西寄り		○	鉢・壺・壺・台付壺?・石製模造品
H-9	(3.60)	3.72	0.25	[12.50]	N-55°-E	中央東寄り		×	高坏?・壺
H-10	5.30	(6.38)	0.16	[30.00]	N-44°-W	中央東寄り		×	高坏・鉢・小型壺・小型壺・台付壺
H-11	(6.58)	(6.50)	0.00	[42.99]	[N-26°-E]	中央北寄り		×	
H-12	5.10	5.24	0.33	24.90	N-33°-E	中央西寄り		○	壺・壺
H-13	(4.58)	3.20	0.26	[13.57]	N-41°-W	中央西寄り		○	高坏・瓶・壺・台付壺
H-14	(4.80)	(4.54)	0.12	[21.93]	N-5°-E	不明		×	
H-15	4.02	4.08	0.32	14.89	N-50°-W	中央東寄り		×	小型器台・高坏・鉢・壺
H-16	7.10	(6.30)	0.58	[32.96]	N-22°-E	中央東寄り		○	高坏・壺・台付壺
H-17	(2.84)	(2.88)	0.16	[7.47]	N-39°-E	中央		×	壺・壺
H-18	(3.04)	4.06	0.57	(8.77)	N-98°-E	検出されず		×	高坏・鉢・壺?
H-19	(5.40)	4.91	0.61	[20.46]	N-53°-W	中央東寄り		○	鉢・壺
H-20	(1.20)	(3.92)	0.08	(3.69)	N-155°-E	検出されず		×	
H-21	(0.48)	(2.28)	0.39	(0.49)	[N-57°-W]	検出されず		×	
H-22	(5.32)	5.64	0.45	[28.60]	N-26°-E	中央北寄り		○	壺
H-23	(2.90)	3.50	0.42	(9.36)	N-37°-E	中央南寄り		×	壺
H-24	4.40	5.06	0.59	20.09	N-13°-W	中央北寄り		○	鉢
H-25	6.52	5.72	0.79	34.42	N-31°-E	中央		○	小型器台・高坏・鉢・壺・小型壺・台付壺
H-26	(4.62)	5.72	0.51	(18.71)	N-8°-E	中央		○	壺
H-27	(4.10)	4.70	0.02	[17.72]	N-21°-E	中央南寄り		○	小型壺
H-28	(7.98)	7.58	0.76	(33.98)	N-127°-E	中央東寄り		○	鉢
H-29	(5.24)	5.20	0.11	(25.51)	N-35°-E	検出されず		×	壺
H-30	3.30	3.76	0.27	11.21	N-36°-E	中央北寄り		×	小型壺
H-31	2.74	3.00	0.35	7.15	N-25°-E	中央東寄り		×	壺
H-32	(5.42)	5.22	0.28	(25.96)	N-27°-E	中央南寄り		○	鉢
H-33	6.70	6.56	0.55	41.25	N-27°-E	中央東寄り・石		○	壺?・土製防護車

遺構名	規模(m)			面積 (m ²)	主軸方向	炉		周溝	出土遺物
	東西	南北	基壇高			位置・素材等			
H-34	5.74	6.90	0.35	37.61	N-61°-W	中央北寄り		×	小型舞台・台付窓・紡錘車・土製埴輪車
H-35	[6.50]	[5.90]	0.20	[34.45]	N-43°-E	中央東寄り		×	甕
H-36	5.14	4.26	0.25	22.61	N-10°-E	中央北寄り		×	小窓
H-37	5.26	5.12	0.15	[24.96]	N-32°-E	中央北寄り		×	甕
H-38	4.94	6.16	0.20	27.79	N-32°-E	中央と中央南寄りの2ヶ所		×	窓
H-39	[4.70]	[4.70]	0.00	[24.82]	N-35°-E	中央東寄り		×	
H-40	5.34	4.60	0.55	[22.59]	N-25°-E	中央西寄り		×	窓
H-41	3.40	3.50	0.26	[10.91]	N-33°-E	中央と中央南寄りの2ヶ所		×	窓
H-42	[5.16]	5.63	0.66	27.00	N-9°-E	中央北寄り		○	鉢・石製品
H-43	4.82	5.16	0.30	[22.65]	N-23°-E	中央と中央北寄りの2ヶ所		×	小型舞台・窓・甕・壺・甕・臺・台付窓
H-44	6.04	5.78	0.27	32.47	N-29°-E	中央西寄り		×	窓
H-45	(1.94)	3.26	0.38	(5.42)	N-89°-W	検出されず		×	

注) 現存値を()、復元値を[]で示した。

Tab. 3 五代中原III遺跡土坑計測表

遺構名	位 置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形 状	出土遺物等
D-1	X91・92	Y52	300	(150)	89	橢円形	
D-2	X91	Y53	225	(50)	135	不整形	
D-3	X83	Y45・46	92	87	71	円形	
D-4	X82	Y49	163	92	69	橢円形	
D-5	X86・87	Y46	117	100	39.5	橢円形	
D-6	X86・87	Y47・48	210	120	57	長方形	
D-7	X90・91	Y50	132	60	31	長方形	
D-8	X81・82	Y50	142	74	41	長方形	
D-9	X84	Y51	76	72	32	円形	
D-10	X85	Y51	88	80	27.5	橢円形	
D-11	X85	Y51	96	64	36	橢円形	
D-12	X85	Y52・53	208	150	84.5	橢円形	
D-13	X87	Y54	255	117	76.5	長方形	
D-14	X81・82	Y53・54	266	207	111	橢円形	
D-15	X84・85	Y56	182	130	37.5	橢円形	
D-16	X82	Y45	88	80	39	橢円形	
D-17	X82	Y46	64	60	43	円形	
D-18	X81	Y48	80	70	41.5	橢円形	
D-19	X81	Y48	74	60	21	橢円形	
D-20	X82	Y49	64	53	27	橢円形	

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形 状	出土遺物等
D-21	X84 Y49	65	56	24.5	楕円形	
D-22	X87 Y46・47	90	78	39	楕円形	
D-23	X87 Y47	62	62	39	円形	
D-24	X86 Y47	56	54	38	円形	
D-25	X86 Y47	80	76	52	円形	
D-26	X86 Y48	66	64	39	円形	
D-27	X86 Y48	60	54	29	楕円形	
D-28	X88 Y48	69	52	25.5	楕円形	
D-29	X89 Y48	50	49	46.5	円形	
D-30	X89 Y48	62	49	44.5	楕円形	
D-31	X89 Y48	53	50	23.5	円形	
D-32	X90 Y48	67	48	18	楕円形	
D-33	X92 Y50	90	80	52	楕円形	
D-34	X91 Y50	76	72	40	円形	
D-35	X91 Y50・51	74	62	28.5	楕円形	
D-36	X91 Y51	62	60	22.5	円形	
D-37	X91 Y51	88	63	34	楕円形	
D-38	X91 Y52	75	25	19	不整形	
D-39	X90 Y52	53	48	24	円形	
D-40	X80 Y51	66	50	24	楕円形	
D-41	X80 Y51	78	59	25	楕円形	
D-42	X85 Y51	60	58	36.5	円形	
D-43	X84 Y52	100	80	37	楕円形	
D-44	X86 Y53	100	48	16	不整形	
D-45	X86 Y53	62	56	30	楕円形	
D-46	X88 Y53	58	50	22	楕円形	
D-47	X90 Y54	79	75	32.5	円形	
D-48	X82 Y53	70	70	29	円形	
D-49	X83 Y55	87	54	21	楕円形	
D-50	X83 Y55	90	68	36	楕円形	
D-51	X83 Y56	112	60	37.5	楕円形	
D-52	X85 Y56	70	67	30	円形	
D-53	X86 Y56	70	51	31	楕円形	
D-54	X86 Y58	66	50	29	楕円形	
D-55	X84 Y46・47	340	100	22	楕円形	

Tab. 4 五代中原III遺跡柱穴計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状
P-1	X82 Y46	48	44	32	円形	P-30	X79 Y51	56	45	22	橢円形
P-2	X82 Y47	53	46	29	橢円形	P-31	X80 Y51	95	62	62.5	橢円形
P-3	X81 Y47	50	45	23	円形	P-32	X84 Y51	70	56	47	橢円形
P-4	X81 Y47	48	40	30	橢円形	P-33	X86 Y52	49	44	33	円形
P-5	X81 Y47	52	43	36	橢円形	P-34	X87 Y54	32	30	34	円形
P-6	X81 Y48	48	48	26	円形	P-35	X88 Y55	40	38	48.5	円形
P-7	X82 Y48・49	55	48	22.5	橢円形	P-36	X87 Y55	33	30	41	円形
P-8	X86 Y48	52	50	23	円形	P-37	X77・78 Y53	50	52	56	円形
P-9	X90 Y45	54	44	22.5	橢円形	P-38	X77 Y54	34	32	51	円形
P-10	X90 Y45	50	40	27	橢円形	P-39	X78 Y54	39	37	42.5	円形
P-11	X91 Y45	35	31	16	円形	P-40	X81 Y54	36	34	25	円形
P-12	X92 Y45	33	26	26.5	橢円形	P-41	X81 Y54	52	47	20.5	円形
P-13	X92 Y47	46	44	110	円形	P-42	X81 Y55	42	38	33.5	円形
P-14	X89 Y48	54	45	36.5	橢円形	P-43	X82 Y55	35	28	13.5	橢円形
P-15	X89・90 Y49	43	42	25	円形	P-44	X82・83 Y55	45	39	62.5	橢円形
P-16	X90 Y48・49	46	44	24	円形	P-45	X83 Y55	38	35	21.5	円形
P-17	X92 Y49	60	50	94	橢円形	P-46	X83 Y56	48	44	39.5	円形
P-18	X92 Y49	56	52	82.5	円形	P-47	X84 Y56	33	30	23	円形
P-19	X92 Y50	53	46	21	橢円形	P-48	X86 Y56	48	47	41	円形
P-20	X91 Y50	57	47	40	橢円形	P-49	X85 Y57	50	50	57.5	円形
P-21	X91 Y50	44	35	52	橢円形	P-50	X85・86 Y57	54	40	33.5	橢円形
P-22	X91 Y50・51	60	44	49	橢円形	P-51	X87 Y58	33	30	28	円形
P-23	X90・91 Y50	40	38	97	円形	P-52	X87 Y58	40	32	32	橢円形
P-24	X90 Y50	50	44	50	橢円形	P-53	X88 Y58	50	38	39.5	橢円形
P-25	X91 Y51	46	46	20	円形	P-54	X88 Y57・58	46	45	25	円形
P-26	X90 Y52	49	34	23	橢円形	P-55	X94 Y47	66	57	37	橢円形
P-27	X90・91 Y52	50	40	36	橢円形	P-56	X94 Y47	56	52	81.5	円形
P-28	X90 Y52	60	48	51	橢円形	P-57	X87 Y53	42	38	31.5	円形
P-29	X79 Y51	50	43	33	橢円形						

Tab. 5 五代中原遺跡古墳時代出土遺物観察表

番号	遺物番号・位置	種類	目次番号	出土状況・色調・形状	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H-1-1 床直	土器裏 土師器	① [2.6] ② [2.6]	①織紋②良好③明黄色 色④ぼか形	手捏ね土器。鉢形を意識。指捺で。	
2	H-1-2 床直	小型腰台 土師器	① 7.8 ② 10.6	①織紋②良好 色④ぼか形	器部：輪郭模様で。内外面削磨き。脚部：接合部から直接張へ向かって八の字状に大きく聞く。外面削磨き。内面ハケ目調整後捺磨。4孔穿孔。	
3	H-1-3 床直	小腰台 土師器	① 8.3 ② 10.6	①織紋②良好③によい 脚④ぼか形	器部：輪郭模様で。内外面削磨き。脚部：接合部から直接張へ向かって八の字状に大きく聞く。外面削磨き。内面ハケ目調整後捺磨。4孔穿孔。	
4	H-1-4 床直	小型腰台 土師器	① — ② (7.0)	①織紋②良好③によい 脚④良好	器部欠損。脚部：柱次に伸び急激に筋が聞く。筋の辺りは弱い。外面ハケ目調整後削磨。内面ハケ目調整後捺磨。3孔穿孔。	
5	H-1-5 床直	高环 土師器	① 22.1 ② 13.7	①織紋②良好③浅黄色 色④脚⑤一部欠損	环部：器外に弱い段を有し大きく外へ聞く。環部に横溝で。外面ハケ目調整。内面ハケ目調整後脚部。脚部：内面気味に聞く。内外面ハケ目調整。3孔穿孔。	
6	H-1-6 床直	鉢 土師器	① 8.5 ② 4.6	①浅黄色②良好 色④ぼか形	精緻土器。全体に施形。口部部：鋸まりの弱い頸部から内面気味に外傾。体部：浅黄。内外面削磨。底部：指捺压。	
7	H-1-7 床直	鉢 土師器	① (12.4) ② 5.0	① (12.4)良好 色③良好④1/3	口腰部：横溝で。体部：やや内面しながら立ち上がる。内外面ハケ目調整後削磨。底部：平坦。	
8	H-1-8 床直	蓋 土師器	① 17.7 ② 5.0	①織紋②良好 色③良好④1/3	つまみ部：広い接合部から環状に立つ。端部横溝で。中央に穿孔。器表：扁平。輪郭模様で。内外面ハケ目調整後削磨。	
9	H-1-9 床直	蓋 土師器	① 15.4 ② 8	①織紋②良好③浅黄色 色④ぼか形	口腰部：端部に取り立つ。横溝で。体部：小さな底部から直線的に大きく外へ聞く。内外面ハケ目調整後削磨。底部：中央に内面から1孔穿孔。	
10	H-1-10 床直	小皿盖 土師器	① 7.3 ② 14.7	①織紋②良好 色④ぼか形	口縁部：短く外反。横溝で。体部：中位に最大径を持つ長脚。外面ハケ目調整後削磨。内面ハケ目調整。底部：出先。	
11	H-1-11 床直	蓋 土師器	① — ② (17.2)	①中位②良好 色③良好④2/3	口腰部欠損。残存部からくの字状の短い口縁が付くと思われる。体部：浅黄。下腹れ状。外面ハケ目調整後削磨。内面に輪積み模様。	
12	H-1-12 床直	小筒型 土師器	① 10.8 ② 12.4	①織紋②良好 色④浅黄色④ぼか形	口縁部：外傾。端部に面取り。横溝で。器内部にはいくつもの字状。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整。体部下半に二次焼成。内面削。底部：突出部。	
13	H-1-13 床直	甕 土師器	① — ② (20.2)	①織紋②良好 色③浅黄色④2/3	口腰部欠損。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整後削磨。内面削。底部：出先。	
14	H-1-14 床直	甕 土師器	① 16.4 ② 16.8	①牛軒②良好 色③良好④完形	口縁部：縫よりの弱い頸部から緩く外反。横溝で。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整後捺磨。内面削。底部：突出。	
15	H-1-15 床直	台付甕 土師器	① 14.8 ② 23.9	①織紋②良好③浅黄色 色④ぼか形	口縁部：受け口気味に短く外へ聞く。横溝で。体部：肩が張った球形。器形に汲み。外面ハケ目調整。体部上半に保有層、下半に二次焼成。内面削。台部：内面気味に外へ聞く。	
16	H-1-16 床直	台付甕 土師器	① 18.5 ② 29.3	①中位②良好③浅黄色 色④ぼか形	口縁部：くの字状を呈す。端部に周目。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整。体部上半に保有層、下半に二次焼成。内面削。台部：体部に対しやや引きき。外へ聞く。	
17	H-1-17 床直	台付甕 土師器	① 21.0 ② 34.0	①織紋②良好③によい 脚④ぼか形	口縁部：くの字状を呈す。端部に面取り。体部：球形を呈す。外面ハケ目調整。内面削。	
18	H-2-1 床直	土師器	① 15 ② 5.9	①織紋②良好 色④ぼか形	精緻土器。全体に施形。口部部：内面気味に外傾。体部：浅い鉢状。内面削磨。	
19	H-2-2 埋土	甕 土師器	① (15.4) ② (4.6)	①織紋②良好③によい 脚④良好⑤1/4	口縁部：單口縁。外傾して聞く。横溝で。下部にハケ目。体部欠損。	
20	H-2-3 埋土	甕 土師器	① (8.8) ② (4.7)	①織紋②良好 色④1/4	口縁部：横溝で。体部：下半欠損。肩部に最大径。外面ハケ目調整。内面削。	
21	H-3-1 床直	小腰台 土師器	① 7.2 ② 7.1	①織紋②良好③織色④ 色⑤一部欠損	器部：輪郭模様で。外面削磨。脚部：接合部から直線張へ向かって八の字状に大きく聞く。外面削磨。接合部に豊て。内面削。3孔穿孔。	
22	H-3-2 床直	小腰台 土師器	① — ② (6.7)	①織紋②良好 色④腰色④2/3	器部欠損。脚部：柱次に伸び急激に筋が聞く。筋の辺りは弱い。外面ハケ目調整後捺磨。内面ハケ目調整。3孔穿孔。	
23	H-3-3 埋土	甕 土師器	① (8.4) ② 4.1	①織紋②良好 色④浅黄色④1/5	小甕。口縁部：やや外反。横溝で。体部：外面ハケ目調整後捺磨。内面ハケ目調整。底部：平底。	
24	H-3-4 床直	小筒型 土師器	① — ② (9.7)	①中位②良好 色④1/2	口縁部欠損。体部：球形を呈す。頭部の縫よりが強い。外面削。内面削。	
25	H-3-5 埋土	甕 土師器	① — ② (9.9)	①中位②良好 色④浅黄色④1/5	上部欠損。体部：下半に最大径を持つと思われる。外面ハケ目調整後捺磨。内面ハケ目調整。底部：突出底。	
26	H-3-6 埋土	甕 土師器	① (14.4) ② (8.8)	①織紋②良好 色④1/3	口縁部：やや外傾。横溝で。体部：肩部以下欠損。外面ハケ目調整。内面削。	
27	H-3-7 埋土	甕 土師器	① — ② (7.8)	①織紋②良好 色④1/5	上部欠損。体部：内外面削。内面に縦積み痕が残る。底部：突出底。	
28	H-3-8 床直	台付甕 土師器	① — ② (7.0)	①織紋②良好 色④浅黄色④1/4	上部・台付欠損。体部：器壁薄い。外面ハケ目調整。内面削。	
29	H-3-9 床直	台付甕 土師器	① — ② (7.1)	①中位②良好 色④台部のみ	上部欠損。台部：内面気味に外へ聞く。外面接合部付近にハケ目調整。内面削。	
30	H-4-1 甕土	甕 土師器	① — ② (3.5)	①織紋②良好 色④頭部1/4	頭部のみ。頭部：段を持ち、一段目はほぼ垂直に立ち上がり、外反。	

番号	通称名/種名	特徴	①頭部	②軸部	③側面	④底部	種類の特徴・形態・調整技術		備考
							⑤軸部	⑥側面	
31	H-4-2 床底	蝶	① — ② (2.1)	①中性②良好 ③浅黃褐色④底部1/2	上部欠損。底部:突出底。				
32	H-4-3 床底	台付蝶?	① — ② (8.7)	①細軟②良好③によい ④黃褐色⑤軸部1/5	上部・台部欠損。体部:側壁薄い。外面ハケ目調整。内面薄で。				
33	H-5-1 床底	蝶	① (13.9) ② (4.0)	①細軟②良好 ③橙色④底部1/6	底部欠損。口輪部:外反氣味に聞く。端部横擦で。内外面磨き。体部:浅い。				
34	H-5-2 P4埋土	蝶	① [16.1] ② (4.8)	①細軟②良好③によい ④黃褐色⑤軸部1/3	つまみ部:やや外反。端部横擦で。器底:扁平。端部分側に折り返し。端部横擦で。内外面ハケ目調整。				
35	H-5-3 床底	蝶	① [16.0] ② (5.0)	①細軟②良好 ③橙色④口輪1/6	下部欠損。口輪部:やや外傾。横擦で。体部:外面ハケ目調整。内面薄で。				
36	H-5-4 床底	台付蝶?	① (15.4) ② (3.5)	①細軟②良好 ③明黄色④口輪1/5	下部欠損。口輪部: S字状を呈す。一段目が外に聞く。横擦で。体部:外面ハケ目調整。内面薄で。				
37	H-6-1 壇土	高坏	① — ② (4.2)	①細軟②良好 ③明黄色④脚部1/3	器受部上半・脚部下半欠損。器受部:内面ハケ目調整後底面。脚部:3孔残存。4単位か。外側ハケ目調整。内面ハケ目調整後底面。				
38	H-6-2 床底	蝶	① 16.1 ② 6.1	①細軟②良好③暗赤褐色 ④色⑤はは完形	口輪部:綻びを持つ。端部に押さえの沈線を残す。横擦で。体部:内外面磨で。底部:指揮底。				
39	H-6-3 埋土	蝶	① (21.2) ② (5.2)	①細軟②良好 ③明赤褐色④口輪1/6	下部欠損。口輪部:外反氣味に外へ聞く。横擦で。類部から下部へ就方のハケ。				
40	H-6-4 床底	蝶	① [15.7] ② (4.1)	①細軟②良好 ③橙色④口輪1/6	下部欠損。口輪部:外傾。類部内面は強いくの字状。内外面ハケ目調整。				
41	H-6-5 埋土	台付蝶?	① — ② (2.9)	①細軟②良好 ③黒褐色④口輪1/6	口輪部のみ。口輪部: S字状を呈し、一段目が外に聞く。器底にハケ目調整。				
42	H-7-1 床底	蝶	① (17.2) ② (5.3)	①細軟②良好 ③明赤褐色④口輪1/4	下部欠損。口輪部:大きく外反。端部から約1cm下に2孔穿孔有り。端部横擦で。外面ハケ目調整。内面磨き。				
43	H-7-2 床底	蝶	① — ② (8.0)	①中性②良好 ③黒褐色④口輪1/4	上部欠損。体部:底部から大きく聞く。外面ハケ目調整後底面。底部:突出底。				
44	H-7-3 壇土	蝶?	① — ② (2.5)	①細軟②良好③明赤褐色 ④色⑤底部のみ	底部のみ。底部:突出底。内面ハケ目調整。				
45	H-7-4 床底	蝶	① — ② (19.2)	①細軟②良好③によい ② (19.2) 黄褐色④1/5	体部のみ。体部:外面ハケ目調整後底面。内面ハケ目調整。一部その上に無す。				
46	H-8-1 壇土	蝶	① [12.0] ② 5.4	①細軟②良好 ③橙色④1/4	口輪:やや内薄。横擦で。体部:外表面。底部:丸底気味。				
47	H-8-2 壇土	蝶	① [14.6] ② (5.7)	①細軟②良好 ③浅黃褐色④口輪1/4	口輪部のみ。口輪部:やや外傾。絞状口輪。外側横擦で。内面磨き。				
48	H-8-3 壇土	蝶	① (22.2) ② (4.7)	①細軟②良好③によい ② (4.7) 橙色④口輪1/4	口輪部のみ。口輪部:やや外傾。横擦で。類部:類部から体部へかけて縱方向のハケ。				
49	H-8-4 床底	台付蝶?	① [12.6] ② (5.9)	①細軟②良好 ③浅黃褐色④1/5	下部欠損。口輪部: S字状を呈す。横擦で。体部:外面ハケ目調整。内面磨で。				
50	H-9-1 埋土	高坏?	① [23.0] ② (2.5)	①細軟②良好③によい ② (2.5) 赤褐色④口輪1/9	口輪部のみ。口輪部:端部横擦で。内外面磨き。				
51	H-9-2 床底	蝶?	① — ② (3.2)	①細軟②良好 ③橙色④底部のみ	底部のみ。体部は底部から大きく聞くと思われる。底部:平底。				
52	H-10-1 床底	高坏	① [24.2] ② (2.1)	①細軟②良好 ③によい黄褐色④1/2	脚部下半欠損。研磨:類部に段を有し、大きく外に聞く。端部に横擦で。外面ハケ目調整後底面。内面磨で。脚部:3孔穿孔。外側磨き。				
53	H-10-2 床底	蝶	① [10.1] ② 8.2	①細軟②良好 ③明赤褐色④1/2	口輪部:やや内薄。口輪部内面に輪渦み抵を残す。竿部:丸みを帯びる。外側ハケ目調整。内面磨で。底部:突出底。				
54	H-10-3 床底	小型蝶?	① [11.6] ② (12.1)	①細軟②良好 ③浅黃褐色④2/3	底部欠損。口輪部:強くしまった頭部から大きく外反。横擦で。体部:中腰や下に最大幅を持ち、映影を呈す。外側磨き。外面磨で。				
55	H-10-4 床底	小型蝶?	① 12.0 ② 11.3	①細軟②良好 ③によい橙色④2/3	口輪部:弱めの弱い頭部からやや外傾。横擦で。体部:上位に最大径。外側ハケ目調整。内面磨で。底部:突出底。				
56	H-10-5 床底	台付蝶?	① — ② (8.2)	①細軟②良好③によい ④橙色⑤台部のみ	台部のみ。台部:ほぼ直線的に聞く。大型の台付蝶に付属するものと思われる。内面ハケ目調整。				
57	H-12-1 壇土	蝶?	① [14.8] ② (1.8)	①細軟②良好③によい ② (3.4) 赤褐色④底部1/2	口輪部のみ。口輪部:折り返し口輪。大きく外に聞く。横擦で。内面に輪渦み痕が残る。				
58	H-12-2 壇土	蝶?	① — ② (3.4)	①細軟②良好③によい ③赤褐色④底部1/2	底部のみ。底部:突出底。				
59	H-12-3 埋土	蝶	① — ② (18.0)	①細軟②良好 ③によい黄褐色④1/8	体部のみ。体部:外側上部に縱方向のハケ目。下部に横方向のハケ目。内面横方向のハケ目、一部擦で。				
60	H-12-4 床底	蝶?	① [22.4] ② (3.7)	①細軟②良好 ③浅黃褐色④口輪1/5	口輪部のみ。口輪部:外傾。類部内面は強いくの字状。外側横擦で。				
61	H-13-1 埋土	高坏	① — ② (7.1)	①細軟②良好③によい ② (7.1) 橙色④底部のみ	底部欠損。脚部:柱状に伸び後に向かって八の字状に大きく聞く。3孔穿孔。4孔単位か。外側磨き。内面磨で。				

番号	遺傳子名/型	學種	計測部位	①歯数②色調③底	解説	形態的特徴・整形・調整技術	備考
62	H-13-2 床直	齒 土鈍器	① (2.3) ② (2.3)	① 0歯数②良好 ③ 深色④底部のみ	底部のみ。底部：ほぼ中央に内面から1孔穿孔。上げ底。		
63	H-13-3 床直	歯 土鈍器	① (12.6) ② (7.8)	①歯数②良好 ③によい赤褐色④1/6	下半欠歯。口縁部：外傾する。横撫で、内凹底磨き。体部：内外面ハケ目調整。頭部内面に輪構み直が残る。		
64	H-13-4 床直	台付歯 土鈍器	① (2.6) ② (2.6)	① 0歯数②良好 ③ 深色④台付歯部	台付付添のみ。台部の接合部分はやや広め。体部外面底方向のハケ目。		
65	H-13-5 床直	歯 土鈍器	① (10.0) ② (10.0)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④1/3	体部下半のみ。体部：内外面ハケ目調整。		
66	H-15-1 床直	小型静歯 土鈍器	① (6.7) ② (7.3)	①歯数②良好 ③ 深色④完形	歯受部：端部横底で。内外面底磨き。底部：状態に伴い急速に唇が開く。3孔穿孔。外凹底磨き。内面ハケ目調整。		
67	H-15-2 床直	歯 土鈍器	① (14.4) ② (9.7)	①歯数②良好 ③によい褐色④完形	环部：抱歎。端部横底で。外面部ハケ目調整後底磨き。内面底で。脚部：内汚氣味。外面部ハケ目調整後底磨き。内面ハケ目調整。歪み有り。		
68	H-15-3 床直	歯 土鈍器	① (8.0) ② (7.4)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④完形	滑底土器。口縁部内面から体部外面向けて走影。口縁部：内汚氣味に立ち上る。端部横底で。外凹底磨き。体部：外凹底磨き。底部：上げ底黒味の平底。		
69	H-15-4 床直	歯 土鈍器	① (6.8) ② (6.8)	①歯数②良好 ③によい赤褐色④1/4	上部欠歯。体部：小さな底部から大きくなれる。外面部ハケ目調整後横撫で。内面ハケ目調整。底部：上げ底黒味の小さい平底。		
70	H-15-5 台付歯 床直	歯 土鈍器	① (15.3) ② (15.3)	① 0歯数②良好 ③ 深色④1/3	上部欠歯。体部：外面部ハケ目調整。台部：台部に対して小さめ。直線的に開く。		
71	H-16-1 床直	高杯 土鈍器	① (7.7) ② (7.7)	① 0歯数②良好 ③ 深赤褐色④脚部2/3	环部・脚部下部欠歯。脚部：柱状に伸び、急激に唇が開く。唇の開きは弱い。3孔穿孔。外凹底磨き。		
72	H-16-2 床直	歯 土鈍器	① (7.8) ② (7.9)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④1/4	下部欠歯。口縁部：近く直に立つ。横撫で。体部：外凹底磨き。内面底で。		
73	H-16-3 台付歯 床直	歯 土鈍器	① (4.4) ② (4.4)	①歯数②良好 ③ 深色④台部2/3	台部のみ。台部：内汚氣味。外面部ハケ目調整。内面底で。		
74	H-17-1 床直	歯 土鈍器	① (9.3) ② (9.3)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④1/3	上部欠歯。体部：珠形を呈すと思われる。外面部ハケ目調整後底磨き。内面ハケ目調整。底部：突出底。		
75	H-17-2 床直	歯 土鈍器	① (15.3) ② (15.3)	①歯数②良好 ③によい赤褐色④1/2	下部欠歯。口縁部：外傾。横撫で。頭部内面は強いくの字状。体部：外面部ハケ目調整。		
76	H-18-1 高杯 土鈍器	歯 土鈍器	① (8.6) ② (8.6)	① 0歯数②良好③によい ② 黄褐色④脚部2/3	环部欠歯。脚部：結合部から直接唇へ向かって八の字状に大きく開く。3孔穿孔。外凹底磨き。内面底で。		
77	H-18-2 床直	歯 土鈍器	① (8.6) ② (8.6)	①歯数②良好③によい ② 黄褐色③脚部のみ	环部欠歯。脚部：底部は急速に外に開く。内外面底で。端部横底で。		
78	H-18-3 鉢土 床直	歯 土鈍器	① (21.4) ② (11.5)	①歯数②良好③によい ② 黄褐色③脚部のみ	底部欠歯。大型。口縁部：縫部内面。浅めの体部から大きくなり開く。外面部横底で。外面部ハケ目調整後底磨き。内面底磨き。		
79	H-18-4 歯 床直	歯 土鈍器	① (3.5) ② (3.5)	①歯数②良好③によい ② 黄褐色③脚部のみ	底部のみ。底部：尖出底。体部に近い外側に観方向のハケ目。		
80	H-19-1 床直	歯 土鈍器	① (6.5) ② (5.2)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④完形	手挫ね土器。体部：外面部不定方向指撫で。内面指撫で。底部：平底。		
81	H-19-2 床直	歯 土鈍器	① (6.4) ② (5.2)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④完形	手挫ね土器。体部：外面部不定方向指撫で。内面指撫で。底部：平底。		
82	H-19-3 床直	歯 土鈍器	① (5.8) ② (4.2)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④1/4	手挫ね土器。体部：外面部不定方向指撫で。内面指撫で。底部：平底。		
83	H-19-4 床直	歯 土鈍器	① (17.2) ② (15.4)	①歯数②良好 ③ 黑褐色④2/3	底部欠歯。口縁部：刻み目あり。外面部横撫で。内面横方向のハケ目。体部：内外面ハケ目調整。		
84	H-21-1 床直	歯 土鈍器	① (12.8) ② (9.3)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④1/3	下部欠歯。口縁部：折り返し口縫。外反。横撫で。体部：瓶部から大きくなり開く。外面部ハケ目調整後横撫で。内面ハケ目調整。		
85	H-23-1 床直	歯 土鈍器	① (9.2) ② (9.2)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④1/4	上部欠歯。体部：底部から大きくなれる。内外面ハケ目調整。底部：突出底。		
86	H-24-1 床直	歯 土鈍器	① (13.0) ② (4.3)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④1/2	精製土器。全体に瘤影。口縁部：縫部横底で。体部：小さい底部から直後大きくなれる。内外面歯方向の底磨き。底部：平底。		
87	H-25-1 床直	歯 土鈍器	① (8.4) ② (8.7)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④4/5	歯受部：内外面底磨き。脚部：柱状に伸び瘤が八の字状に開く。4孔穿孔。外面部底磨き。内面底で。歯受部外面部、脚部外間に瘤影。		
88	H-25-2 高杯 床直	歯 土鈍器	① (4.2) ② (4.2)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④脚部のみ	环部欠歯。脚部：最も大きくなれる。6孔穿孔。外面部ハケ目調整後底磨き。内面底で。		
89	H-25-3 床直	歯 土鈍器	① (15.0) ② (5.3)	①歯数②良好③によい ② 黄褐色③脚部のみ	口縁部：外傾。内外面底磨き。体部：外面部底磨き。底部：箇割り。		
90	H-25-4 床直	歯 土鈍器	① (25.3) ② (25.3)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④4/5	口縁部：外傾気味。横撫で。体部：珠形を呈す。内外面ハケ目調整。内面に2箇所合合底。底部：突出底。		
91	H-25-5 小型覆 床直	歯 土鈍器	① (9.4) ② (10.1)	①歯数②良好③によい ② 黄褐色③2/3	口縁部：やや外傾する。横撫で。体部：ほぼ中位に最大径。内外面ハケ目調整。底部：突出底。		
92	H-25-6 床直	台付歯 土鈍器	① (13.1) ② (16.6)	①歯数②良好 ③ 深赤褐色④完形	口縁部：横底。壘部面取り。体部：珠形を呈す。外面部ハケ目調整。内面底で。台部：外に開く。外面部ハケ目調整。		

番号	種類名/層位	要種	計数	計上2枚目から後部	標識の特徴・型式・調査技術	備考
93	H-25-7 床直	台付窓 二重窓	① 14.0 ② 19.5	①細粒②良好③明赤褐色 ④ぼは完形	口縁部：くの字状を呈す。横断で。体部：肩部に最大径を持ついちじく形。外面ハケ目調査後抜取。2次巣成を受ける。内面難で。台部：小さい。内外面ハケ目調査。	
94	H-26-1 埋土	窓 土御墨	① [11.6] ② (2.1)	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁片	口縁片のみ。口縁部：口唇部に刻み目。外延横縫で。内面横方向の認書き。	
95	H-27-1 灰直	小窓 二重窓	① [12.0] ② (6.0)	①細粒②良好 ③黒褐色④/5	下部欠損。口縁部：やや外傾。横断で。体部：肩部に最大径を持つと思われる。内外面ハケ目調査。	
96	H-28-1 灰直	井 土御墨	① 11.6 ② 4.1	①細粒②良好 ③性色④完形	口縁部：横断で。体部：大きく外に聞く。外延ハケ目調査後無で。底部：突出気味の平底。	
97	H-29-1 埋土	窓 土御墨	① [8.0] ② (3.5)	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁片	口縁片のみ。口縁部：瘤状凹取り。大きく外反。二重口縁。口唇部：中段又刻み目。内面にやや外傾。横縫で。波状文。部分的に施影が残る。	
98	H-30-1 灰直	小窓 二重窓	① 11.2 ② 10.9	①細粒②良好③によい ④ぼは完形	口縁部：外傾。横断で。体部：肩位に最大径を持つ。外延ハケ目調査後無で。内面難で。底部：突出出。	
99	H-31-1 埋土	窓 土御墨	① — ② (3.3)	①細粒②良好 ③性色④口縁片	口縁片のみ。口縁部：口唇部で波状凹取り。大きめ外反。二重口縁。内面横方向に認書き。	
100	H-32-1 灰直	井 土御墨	① 8.4 ② 4.0	①細粒②良好③浅黄褐色 ④ぼは完形	口縁部：端部に刻み目。横断で。体部：内外面ハケ目調査後無で。底部：平底。	
101	H-33-1 埋土	窓 土御墨	① — ② (3.2)	①細粒②良好 ③褐灰色④口縁破片	破片のみ。5条の比較による波状文。	
102	H-34-1 埋土	小窓耐台 土御墨	① 9.0 ② 8.7	①細粒②良好 ③によい黄褐色④/1	舌表面：肩部横断で。尾端：接合部から直巣部へ向かって八の字状に開く。2孔穿孔。3孔単位か。外延ハケ目調査後尾巣き。内面ハケ目調査。	
103	H-34-2 床直	台付窓 土御墨	① 21.2 ② 37.2	①細粒②良好 ③黄褐色④/4	口縁部：肩部に刻み目。面取り。体部：球形を呈す。外延ハケ目調査。内面中央部で後ハケ。台部：体部に対し小さめ。外に聞く。内外面ハケ目調査。	
104	H-35-1 窓 庫直	① [22.2] ② (4.4)	①細粒②良好 ③性色④口縁片	口縁片のみ。口縁部：やや外反。端部に刻み目。外延ハケ目調査。内面ハケ目調査後尾巣き。		
105	H-36-1 小窓 床直	① 11.5 ② 11.5	①細粒②良好 ③性色④完形	口縁部：瘤よりの弱い環状から外傾気味に立ち上がる。横断で。体部：肩部に最大径。外延ハケ目調査後尾巣孔。3孔単位か。底部：突出能。		
106	H-37-1 床直	窓 土御墨	① 18.3 ② 26.8	①細粒②良好 ③黄褐色④ぼは完形	口縁部：横断で。体部：球形を呈す。外延ハケ目調査。内面中央部で、上部、下部ハケ目調査。底部：突出能。	
107	H-38-1 床直	窓 土御墨	① [23.0] ② (7)	①細粒②良好 ③赤黄褐色④/3	肩部欠損。环状：瓶部に段を有し大きく聞く。端部横断で。外延ハケ目調査後尾巣き。内面横方向。	
108	H-40-1 埋土	窓 土御墨	① [17.7] ② (8.8)	①細粒②良好 ③性色④/1	环状：下部に段を有し、そこから大きく外反。4孔穿孔。肩部：下半欠損。柱状に伸び、舌が聞くと思われる。4孔穿孔。	
109	H-40-2 床直	窓 土御墨	① — ② (3.1)	①細粒②良好 ③性色④/1	环部欠損。瓶部：瓶ぐら大きめ聞く。4孔穿孔。6孔単位か。外延横縫き、難。	
110	H-41-1 床直	窓 土御墨	① 13.0 ② (4.5)	①細粒②良好 ③明赤褐色④/1	肩部欠損。全面に垂れ。环状：瓶部：瓶部に段を持ち外へ聞く。内外面距離き。接合部小さい。	
111	H-42-1 床直	窓 土御墨	① 11.5 ② 3.8	①細粒②良好③によい ③黄褐色④/5	口縁部：横断で。体部：小さな底部から大きく聞く。外延ハケ目調査。内面横方向で。底部：上方に底氣味の平底。	
112	H-43-1 床直	小窓耐台 土御墨	① 9.6 ② 8.8	①細粒②良好③によい ③黄褐色④完形	舌表面：端部横断で。外延ハケ目調査後尾巣き。内面気泡き。脚部：接合部から直巣部へ向かって内海気味に聞く。4孔穿孔。外延ハケ目調査後尾巣き。	
113	H-43-2 床直	小窓耐台 土御墨	① 8.0 ② 8.5	①細粒②良好 ③明黄褐色④完形	舌表面：端部横断で。外延ハケ目調査後尾巣き。内面横方向で。肩部：瓶部から直巣部へ向かって内海気味に聞く。4孔穿孔。外延ハケ目調査後尾巣き。内面難で。	
114	H-43-3 床直	小窓耐台 土御墨	① 8.9 ② 8.8	①細粒②良好 ③浅黄褐色④完形	舌表面：端部横断で。外延ハケ目調査後尾巣き。脚部：接合部から直巣部へ向かって内海気味に聞く。4孔穿孔。外延ハケ目調査後尾巣き。下部に難。	
115	H-43-4 床直	窓 土御墨	① 18.4 ② 12.0	①細粒②良好③によい ③黄褐色④ぼは完形	环状：瓶部横断で。外延ハケ目調査後尾巣き。脚部：接合部から直巣部へ向かって八の字状に聞く。3孔穿孔。外延ハケ目調査後尾巣き。内面ハケ目調査。	
116	H-43-5 床直	窓 土御墨	① [16.4] ② 5.3	①細粒②良好③によい ③黄褐色④ぼは完形	口縁部：折り返し口縁。外延ハケ目調査後尾巣き。脚部：直巣部から直巣部へ向かって内海気味に聞く。4孔穿孔。外延ハケ目調査後尾巣き。底部：中央に内面から1孔穿孔。	
117	H-43-6 床直	窓 土御墨	① — ② (23.0)	①細粒②良好 ③性色④口縁部欠損	口縁部欠損。体部：球形を呈す。外延ハケ目調査後尾巣き。内面ハケ目調査。底部：突出能。中央部欠損。焼成後に穿孔の可経性もあり。	
118	H-43-7 床直	窓 土御墨	① 11.6 ② 15.3	①細粒②良好③によい ③黄褐色④/1	口縁部：外傾側。注口が片側に付く。横断で。体部：球形を呈す。外延ハケ目調査後尾巣き。内面難で。底部：突出能。	
119	H-43-8 床直	台付窓 土御墨	① 15.6 ② 24.5	①細粒②良好③浅黄褐色 ② (5.5) ③性色④坏部欠損	口縁部：くの字状を呈す。端部横断で。体部：肩位に最大径を持つ、やや弱気。外延ハケ目調査。内面難割り後巣で。台部：外へ聞く。内外面ハケ目調査。	
120	H-44-1 床直	窓 土御墨	① — ② (5.5)	①細粒②良好 ③性色④坏部欠損	坏部欠損。脚部：瓶ぐら向かって八の字状に大きく聞く。外延距離き。内面ハケ目調査後巣で。	

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以上の覆土からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の覆土からの検出の2段階に分けた。
 ②口径、器高の単位はcmである。東洋便を()、復元便を()で示した。
 ③粘土は、泥質(0.9mm以下)、中質(1.0~1.9mm以下)、粗粘(2.0mm以上)とし、特徴的な気泡が入る場合に気泡名等を記載した。
 ④焼成は、焼成、良好、不良の三段階とした。
 ⑤色調は土器外側で観察し、色名は日本標準土色板(小山・竹原1976)によった。

Tab. 6 五代中原III遺跡石製品観察表

No	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
1	H-8	石製模造品(勾玉)	2.4	1.3	0.5	2.2	滑石	一部欠損
2	H-34	紡錘車	(2.5)	(2.5)	1.2	10.8	滑石	3/4残存
3	H-42	耳環	(4.3)	(1.8)	0.8	5.6	滑石	1/2残存

注) 長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab. 7 五代中原III遺跡土製品観察表

No	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	備考
1	H-33	紡錘車	6.2	6.1	1.7	完形
2	H-34	紡錘車	5.6	5.4	1.1	完形

注) 長さ・幅・厚さの単位はcmである。現存値を()で示した。

2 考 察

今回の調査の結果、五代中原III遺跡では、竪穴住居跡45軒、土坑55基、柱穴57基を検出した。検出された住居跡は、すべて竪を伴わず、住居形態や出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。ここでは、まず本遺跡の遺構・遺物について概観し、次に、本遺跡と連続する五代中原II遺跡（平成14年度調査）とあわせて両遺跡の時期等について考えたい。そして、最後に当遺跡を含む赤城南麓地域の古墳時代前期の様相について考察していきたい。

（1）五代中原III遺跡の遺構と遺物について

検出された住居跡は45軒であるが、そのうち重複が見られたのは27軒で、半数以上が重なり合っていたことになる。これらの重複の内、一番多く重なりが見られたのはH-11・12・13号住居跡、H-35・36・37住居跡の3軒重複であった。3軒が同時期に存在することは考えにくい。したがって本遺跡には少なくとも3時期以上に渡って住居が営まれていたことが推測される。そこで、本遺跡の住居跡を大まかに分類してみると、やはり3時期から4時期に分けることができるようである。

まず、古い段階（1段階）では、住居の施設として間仕切りやベッド状遺構が伴い、大型土坑を持つものも見られる。主軸方向はややまちまちである。土器では、小型器台で脚部が器受部より大きく内湾気味に開くもの（H-43-1、2、3）や椀型高坏（H-43-4）が見られる。北陸系の影響を受けた高坏（H-40-1）も見られる。壺は口唇部に刻み目を残すものがある。樽系の破片が少量混ざる。中段階（2段階）では住居の主軸方向がまとまる傾向を見せる。小型器台は脚が接合部から直接大きく聞くものが出てくる。壺部の深い有段高坏（H-1-5、H-10-1）や、小型精製土器が見られる。台付壺は「く」の字壺で、台部の接合面が小さめで、口唇部の押さえがしっかりと施され、丁寧なつくりである（H-1-17、H-34-2）。新しい段階（3段階）になると住居の主軸方向はほぼ一定となる。台付壺の台部接合部が広くなり、壺や壺の底部が小さめになる。新しい段階以降（4段階）になると、住居の施設に間仕切りやベッド状遺構は見られなくなり、柱状の脚部が付くと思われる高坏が出現していく。軒数はぐっと減る。このように4時期に区分できそうであるが、全体を通じ時間幅はあまり広くないものと思われる。

今回の調査で特筆されるのはH-1号住居跡である。この住居跡からはほぼ完形の土器を含め多数の土器が一括して出土した（Fig.5）。主なものは、小型土器（ミニチュア土器）・小型器台・鉢・甑・壺・壺・台付壺で、当該期の土器の主な器種を網羅する形となっている。台付壺は3個体がほぼ完形で出土し、大きさが3個体とも異なる。この住居跡からは炭化材や焼土が検出されており、その検出されたレベルが床面より少し高い位置にあるので、住居廃絶後少し時間を置いてから焼失したものと思われる。炭の直上の覆土にはAs-C軽石（供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉）に混ざって多量の砂が見られた。As-C軽石は比較的細かく、周辺の地表に堆積した軽石混ざりの土が流れ込んだ状況がうかがえる。床面上にAs-C軽石粒子がほとんど見られないことから、H-1号住居跡はAs-C軽石下後の住居の可能性が高い。このH-1号住居跡は、上記の時期の分類では2段階に属するものと考えられる。そのことから、2段階の住居跡はAs-C軽石下後のものである可能性が高いと思われる。

出土土器全体の傾向として、台付壺にS字口縁のものは少なく「く」の字壺が主流であること、在地の樽式土器の他に南関東の吉ヶ谷式系の土器と思われる破片も見られることなどがあげられる。樽式系、赤井戸式・吉ヶ谷式系の系譜に属する、在地系を主体としながら外來系の土器を受容していく様相を見てとることができる。これらの土器の中には、荒砥上ノ坊遺跡I・荒砥前原遺跡・中屋敷I遺跡や、柏川村西迎遺跡などの関連が認め

られる土器も多いことから、利根川以東の平地部を中心に分布を持つ系譜に属するものと推察される。県内において、本遺跡と近い時期の土器が出土している高崎市の下佐野遺跡や新保遺跡など、井野川流域のS字壇を多く持つ遺跡とは多少様相が異なるようである。南関東系の影響を示す土器や、北陸系の影響を受けたと思われる土器も出土しており、様々な地域から土器文化が流入してきた様子が読みとれる。

また、本遺跡では住居ごとの遺物量に偏りが見られ、H-1・25・43号住居跡などでは良好な資料が大量に検出されたが、逆に住居の規模の割に遺物数が少ないところも見られた。こうした住居跡の中には、覆土中に多量のロームブロックを含み、一気に埋まった様相を示すものもある。H-25・26号住居跡は重複しており、H-25号住居跡がH-26号住居跡を切って造られている。H-26号住居跡は覆土にロームブロックを多量に含み、遺物は破片資料ばかりなのに対し、H-25号住居跡は完形に近いものを含めた土器が多量に出土し、覆土もレンズ状に堆積していた。このことから、H-25号住居跡はH-26号住居跡を意図的に埋め戻して造られた可能性もある。また、本遺跡では焼失住居と思われるものが6軒検出された。H-16号住居跡では住居中央の炭化材の上に焼土が乗った状態で検出され、土乗せ屋根を持つ上屋構造が想定される。埋土にロームブロックを多く含む住居跡や焼失住居は1段階と2段階に集中している。古い時期の住居は意図的に廃棄された可能性もあり、厳しい社会情勢や自然環境の中で変化をとげる集落の様子が推察される。

(2) 五代中原II遺跡・五代中原III遺跡

五代中原II遺跡・五代中原III遺跡は調査年度は異なるが同じ台地上に連続しており、遺構の時期も近いことからひとつの遺跡と考えてもよいだろう。五代中原II遺跡が約6,000m²、その北側に五代中原III遺跡が約2,500m²、あわせて約8,500m²で、南北に長い調査区となる。この2遺跡の位置する台地は南に向かって緩やかに下がっており、一番高いところ（中原III遺跡の北辺）と一番低いところ（中原II遺跡の南辺）の比高差は5mほどである。

五代中原II遺跡で検出された土師器を伴う住居跡は39軒で、うち竈を伴うものは1軒であった。中原II遺跡の住居跡は北側、すなわち中原III遺跡と接するあたりほど密度が濃く、南へ下るとまばらになる。竈の付いた住居跡は最も南側に位置している。中原II遺跡の住居跡の内、重複しているのは6軒である。中原II遺跡に比べ、中原III遺跡は住居跡の密度が非常に濃く、この台地上では北に集落の中枢があったと見られる。

ここで2遺跡の遺構と遺物の傾向を比較してみたい。まず、中原II遺跡の住居跡も、土器や遺構の形態から大きく4時期に分類できそうである。上記の中原III遺跡の分類とはば重なるが、住居の軒数は中原III遺跡と比べ後半に多くなる傾向が見られる。

Tab. 8 住居跡の時期と軒数

	五代中原II遺跡		五代中原III遺跡	
1段階（古い段階）	H-2、15、16、23、33	5軒	H-4、6、16、24、26、28、29、31、32、33、35、40、43	13軒
2段階（中段階）	H-1、5、7、21、27、28、29	7軒	H-1、5、7、9、10、15、17、19、23、30、34	11軒
3段階（新しい段階）	H-9、12、14、18、19、24、25	7軒	H-2、3、8、12、13、18、22、25、27、37、44	11軒
4段階（3段階以降）	H-3、13、22、26、30、(11、39)	5軒 (7軒)	H-36、38、41、42	4軒

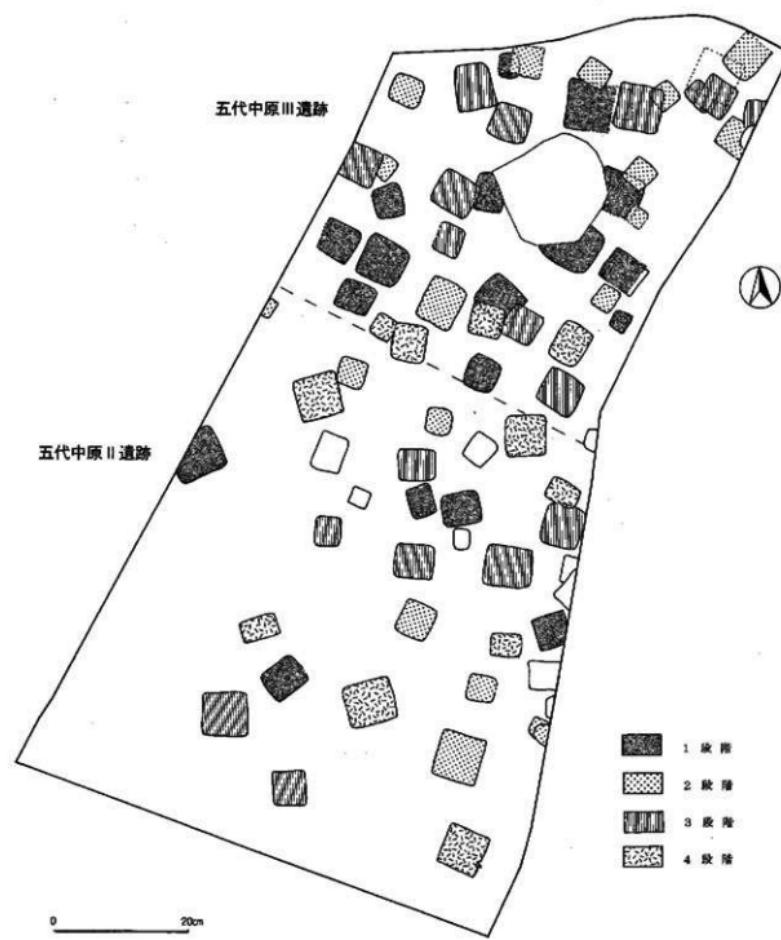


Fig. 4 五代中原II・III遺跡住跡時期別分布図

中原II・III遺跡の4段階にはさらにもう一段階新しくなる可能性のあるH-11、39住居跡がある。H-39住居跡は中原II・III遺跡を通じて唯一竈が付く住居跡である。

中原II・III遺跡の住居跡の時期ごとの分布を見てみたい(Fig. 4)。1段階は住居跡が北に集中する傾向がうかがえる。2段階になると分布の広がりが南に下がってきて、3段階になるとさらに全体に拡散する。4段階になると住居数が減り、分布が南寄りになる。中原II・III遺跡の住居の変遷は、中原III遺跡から始まってだんだん周囲へと拡散していく様子がうかがえよう。住居の営まれた時期の中心は1～3段階と思われる。

1・2段階の一群には弥生系の棒式系の土器の破片が含まれるが、ごく少量で、3段階になると見られなくなってくる。4段階の終わりになると竈が出現する。(1)で述べたように2段階に属すると考えられる中原III遺跡のH-1号住居跡は、As-C軽石降下後の住居跡と考えられる。したがって中原II・III遺跡の住居群の営まれた時期は、棒式土器の減少する頃・As-C軽石降下後・竈出現前、すなわち4世紀中頃から5世紀初頭にかけてと考えられるのではないか。

(3) 当該地における古墳時代前期の様相

本遺跡の北側には、昭和51～55年度にかけて調査が行われた芳賀東部団地遺跡が位置している。芳賀東部団地遺跡では縄文時代から奈良・平安時代にかけての遺構が多数検出されているが、本遺跡と大正用水を挟んで接している調査区(芳賀東部団地遺跡の南端部分)では、古墳時代前期の住居跡が71軒検出されている。それらの住居跡に重複はあまり見られず、重複しているのは4軒のみである。土器の様子も近似しており、大正用水が建設される前、すなわち古墳時代前期には、芳賀東部団地遺跡のこれらの住居群と五代中原II・III遺跡の住居群は一連のものであったと考えられる。調査区が上武道路建設予定地で分断されているためはっきりとしないが、芳賀東部団地遺跡の古墳時代前期の住居群は、分布状況から大きく北と南に分けられるようであり、南側の一群が五代中原II・III遺跡と連続している。南側の一群と五代中原II・III遺跡をあわせた部分は、赤城南面特有の開析谷に挟まれた小舌状台地上に展開される集落であったと考えられ、範囲は南北約250m、東西約60m、住居数は合計104軒である。北側の一群はそれとは異なる台地上に所在し、南北約100m、東西約200mの範囲内に51軒の住居跡が検出されている。

ここで五代中原II・III遺跡・芳賀東部団地遺跡の住居跡の分布状況を見てみると、五代中原III遺跡で住居跡の重複の割合が最も高く、時期は上記の分類の1段階から3段階にかけてのものが中心である。五代中原III遺跡と同じ台地上に乗る芳賀東部団地遺跡の住居群や五代中原II・III遺跡では、住居の重なりは少なく、時期は2段階から3・4段階にかけてのものが多い。さらに、芳賀東部団地遺跡の北側の住居群は比較的広い範囲内に住居がやや拡散した状態で営まれており、時期は3～4段階を中心としていて、支群的な要素が強い。このことから、当該地の集落は五代中原III遺跡を中心にして営まれ始め、時間を経るに従って周辺へと集落が拡散し、次第に中心は周辺部へ推移していったことが推測される。また、この3遺跡の住居群は台地上に立地しており、すぐ脇には開析谷の低地が広がる。具体的な遺構等は検出されていないが、この低地が集落の生産域であった可能性を指摘できよう。

これらの3遺跡の当該期の住居群の共通した特徴として、それ以降の時代の住居跡の重複が見られず、集落が終焉してしまうことがあげられる。その原因として、地形の変化が背景としてあったものと考えられる。特に東側の谷の開析の進度が速く、居住域との比高が拡大する中で、より南部の比高差の少ない地点に集落を移動したこととも考えられる。

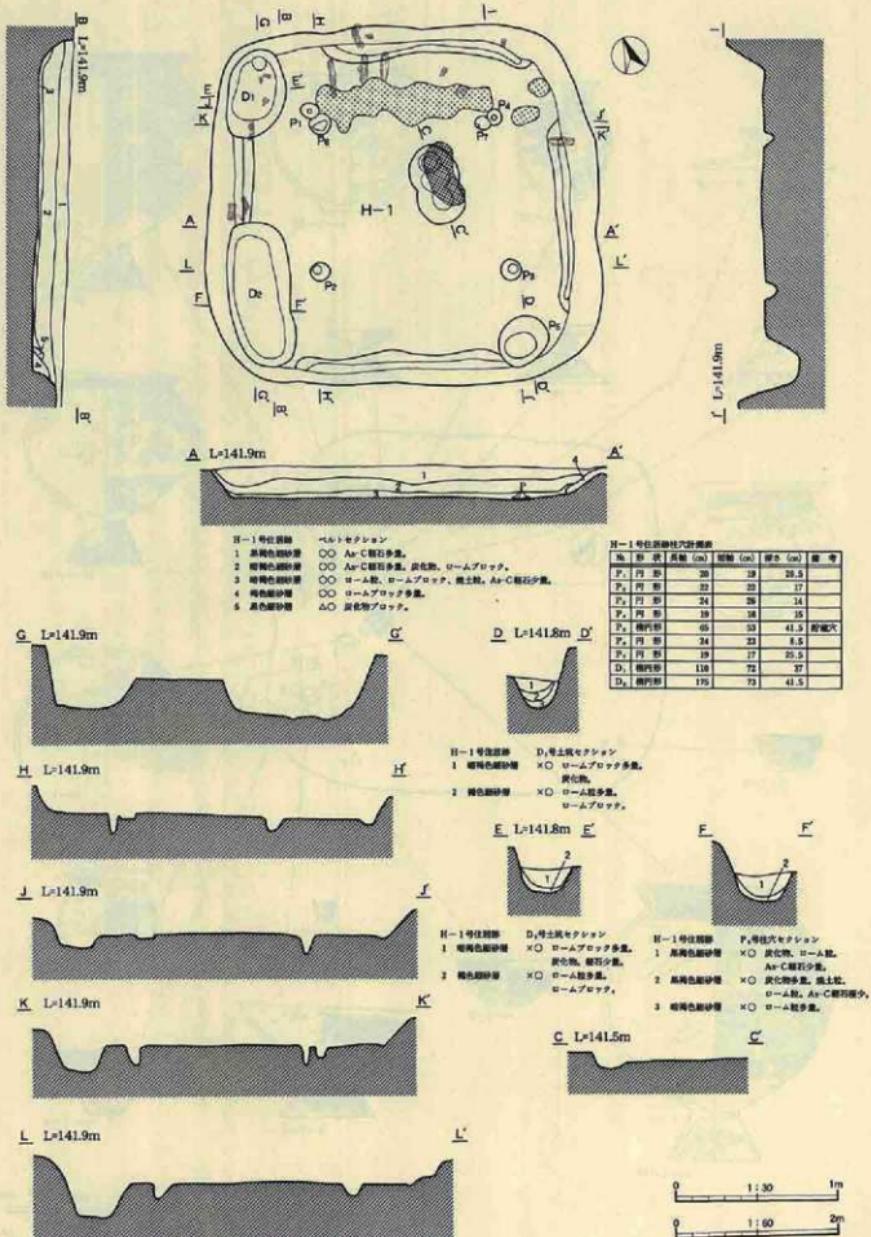


Fig. 5 H-1号住居跡

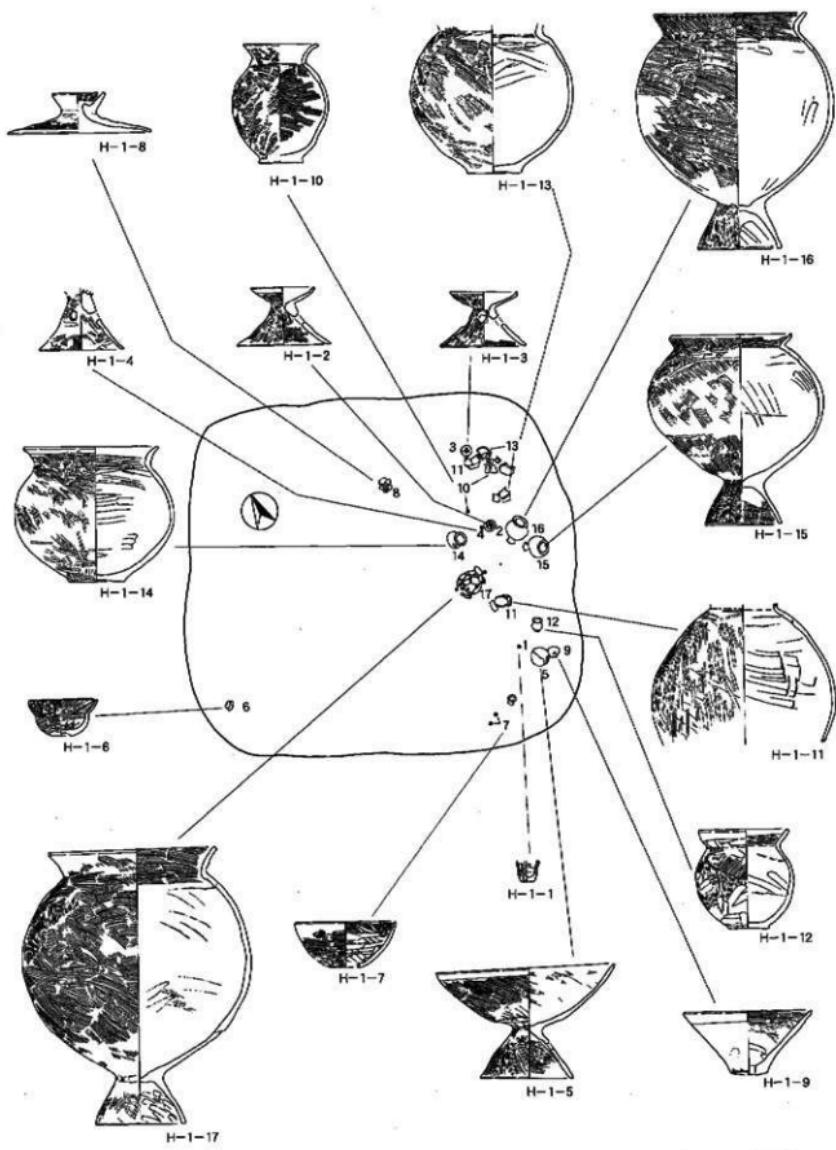
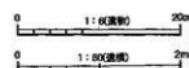


Fig. 6 H-1号住居跡遺物出土状態



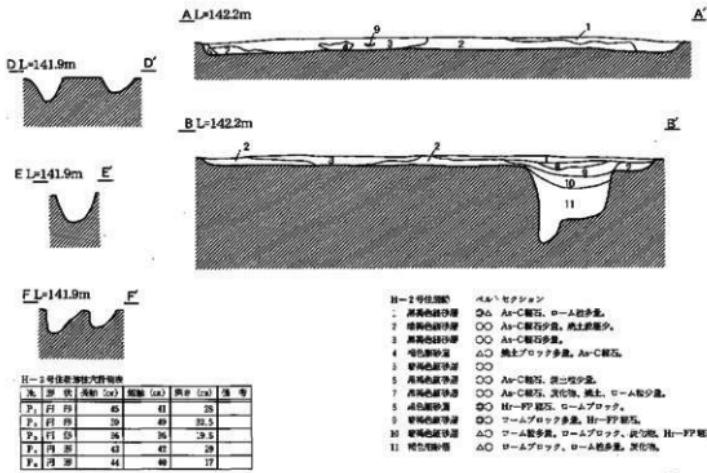
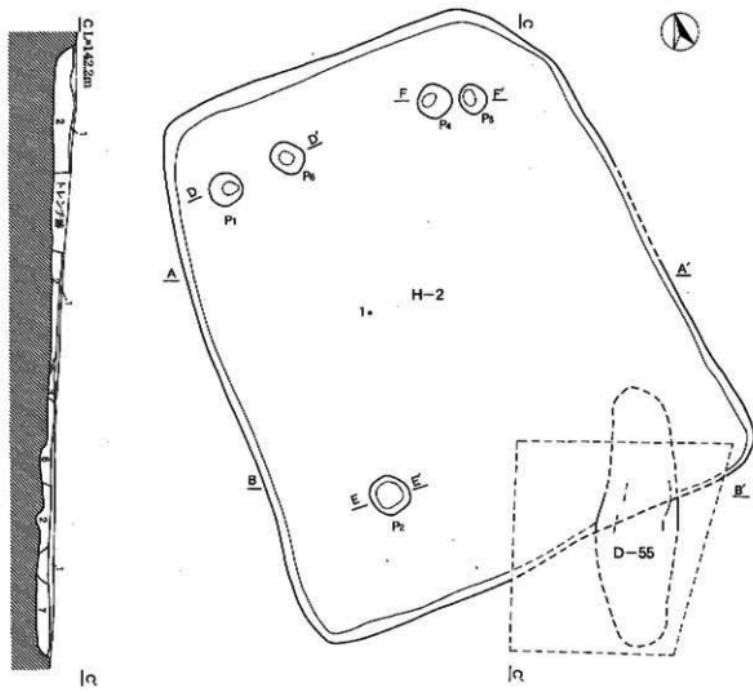


Fig. 7 H-2号住居跡

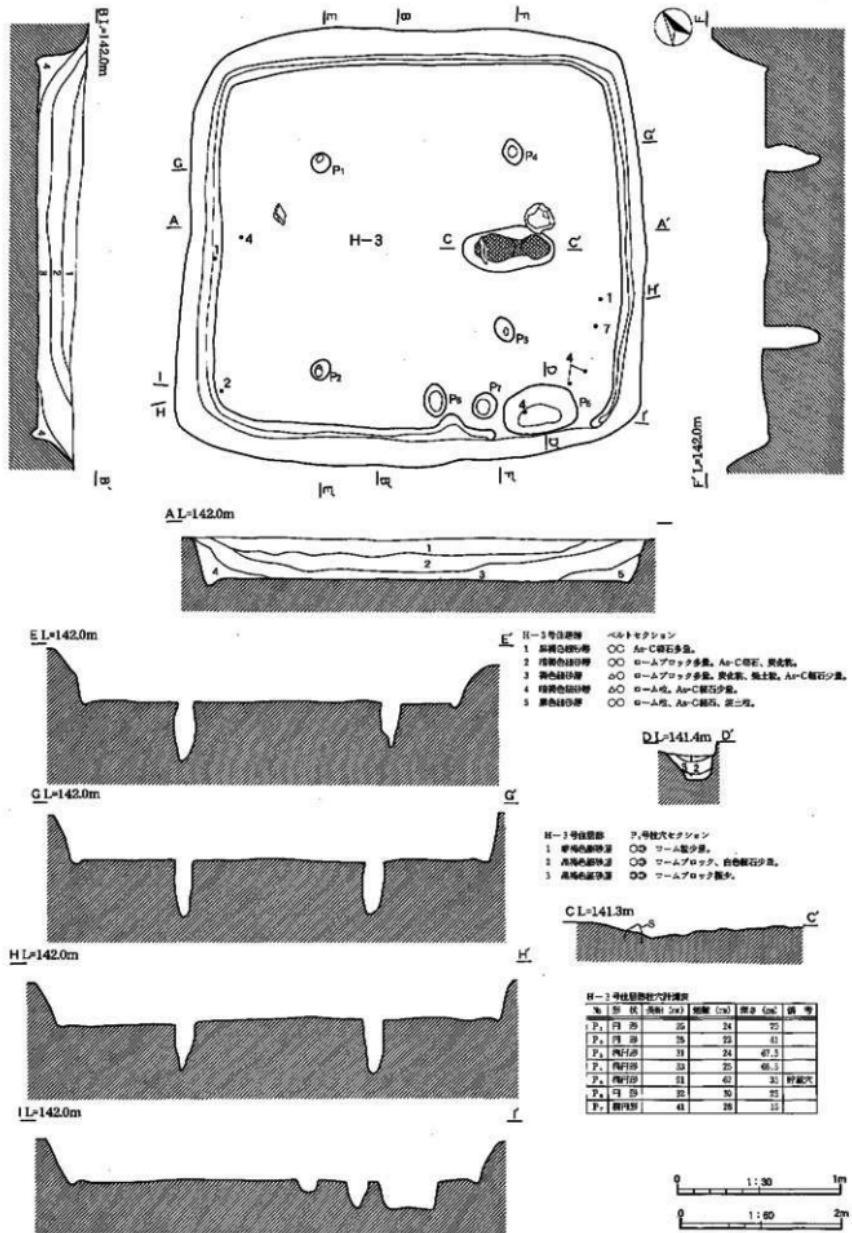


Fig. 8 H-3号住居跡

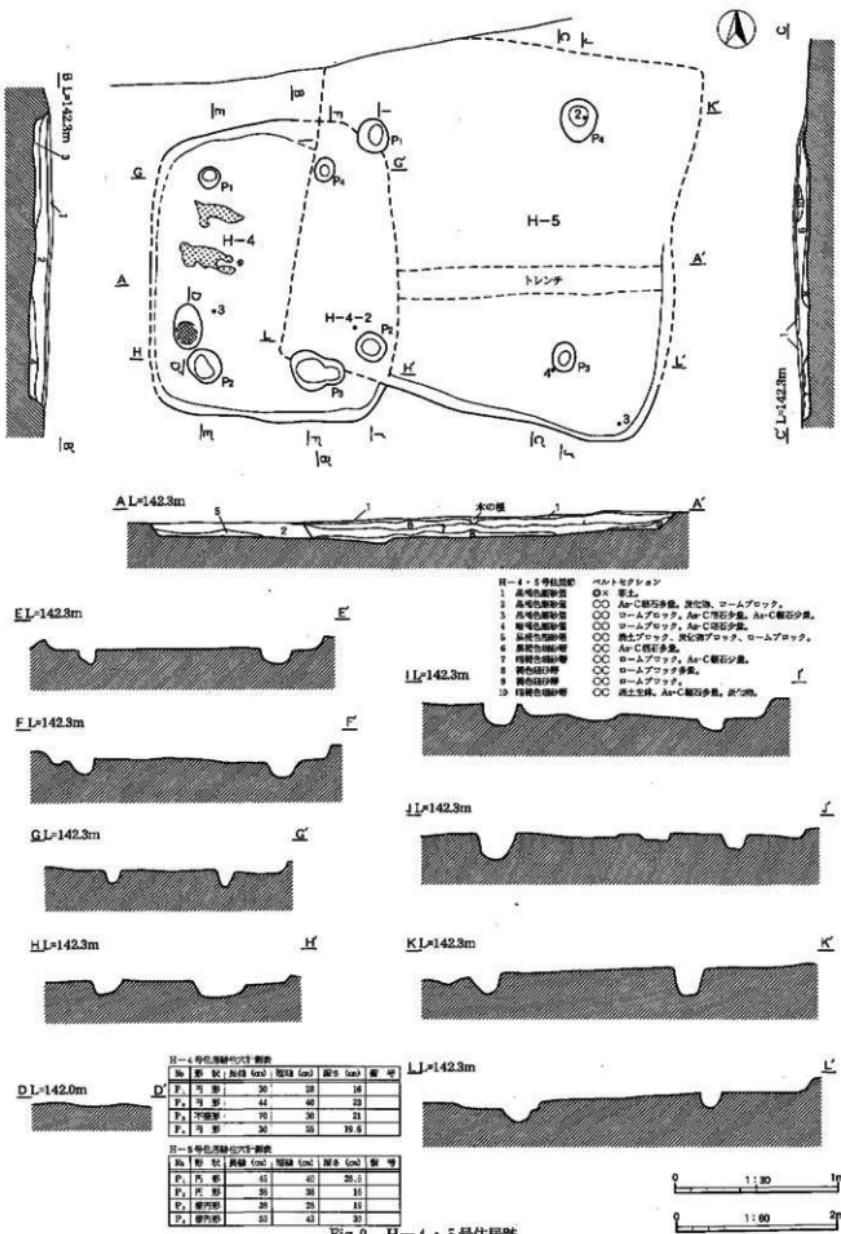
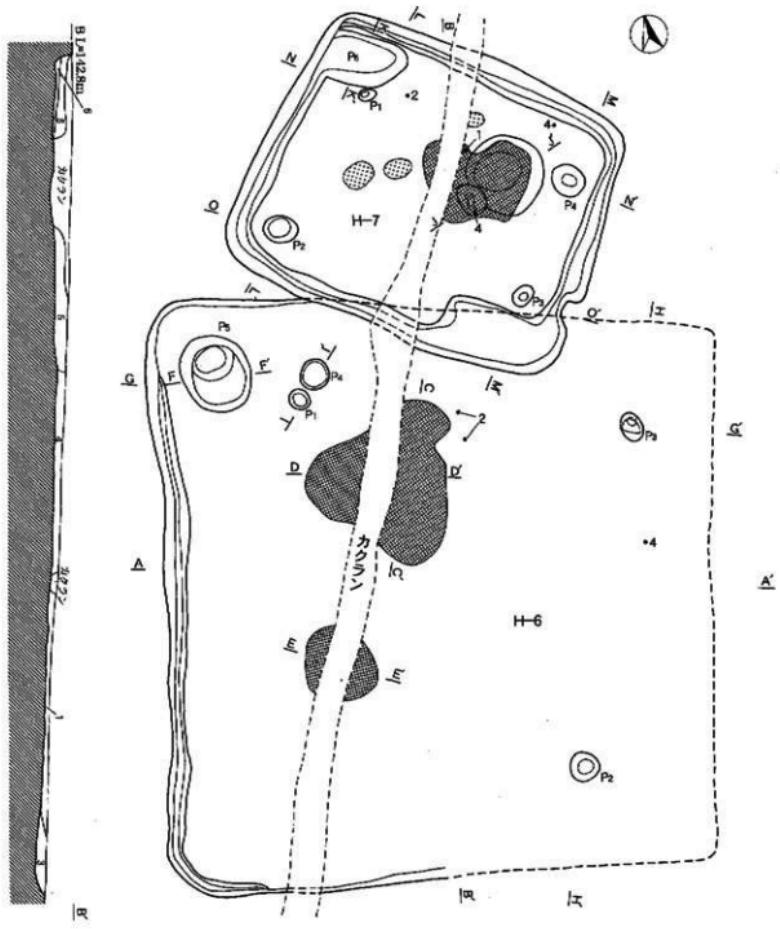


Fig. 9 H-4·5号住居跡



- 図-6・7号住居跡 ベクトセクション
 1 窓枠跡手足 ① リームブロック。
 2 高床柱跡手足 ② 磚瓦、リームブロック。
 3 窓枠跡手足 ③ リームブロック。
 4 高床柱跡手足 ④ 砖瓦多孔、ロームブロック、透土粘土量。
 5 窓枠跡手足 △ 磚瓦、ロームブロック。
 6 窓枠跡手足 △○ ロームブロック多量。

Fig.10 H-6・7号住居跡

0 1:60 2m

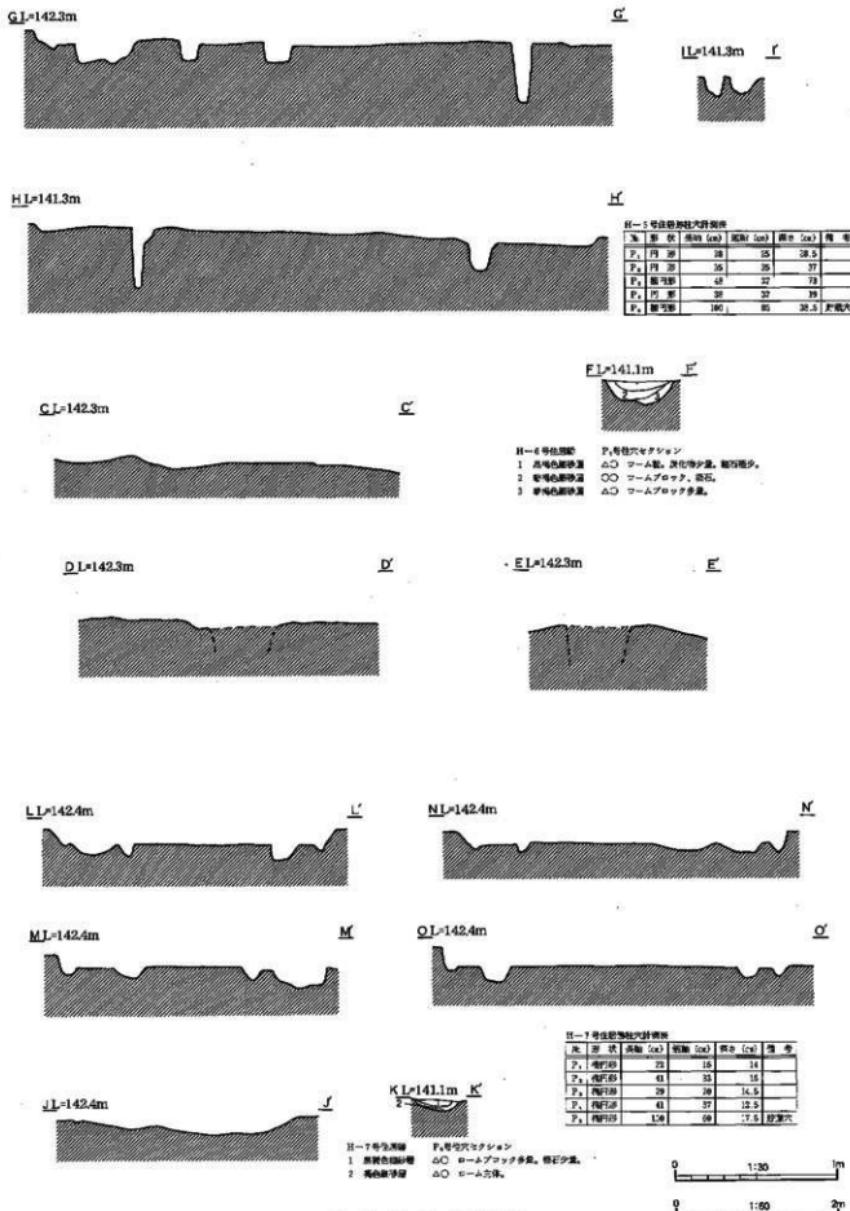


Fig.11 H-6・7号住居跡

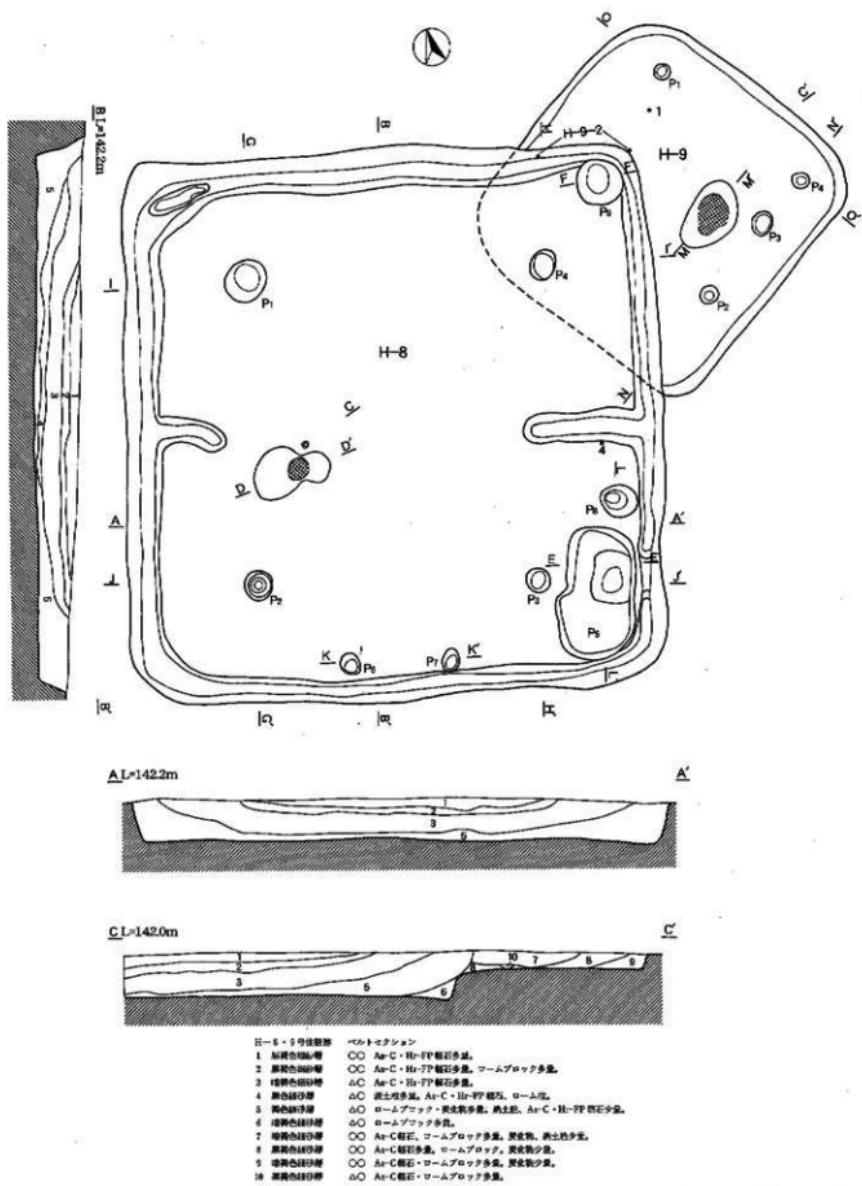


Fig.12 H-8·9号住居跡

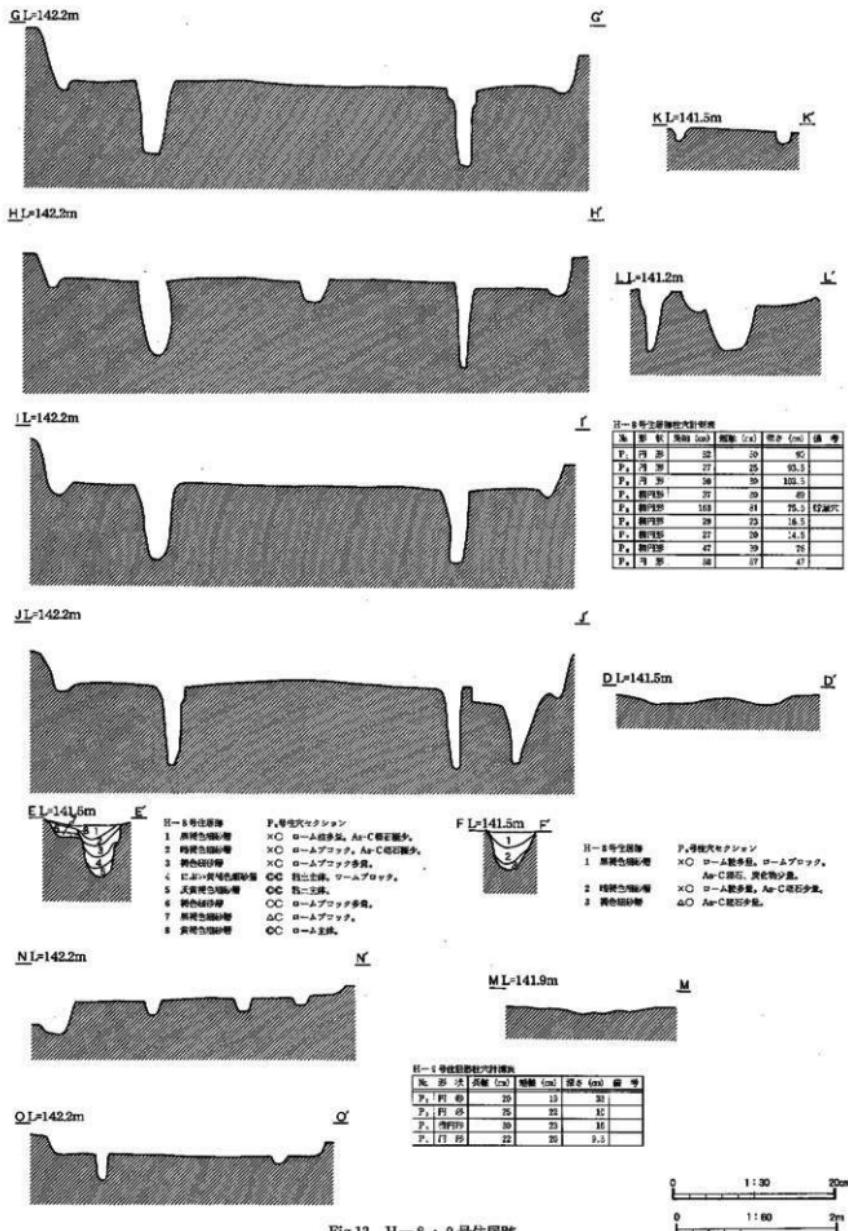


Fig.13 H-8·9号住居跡

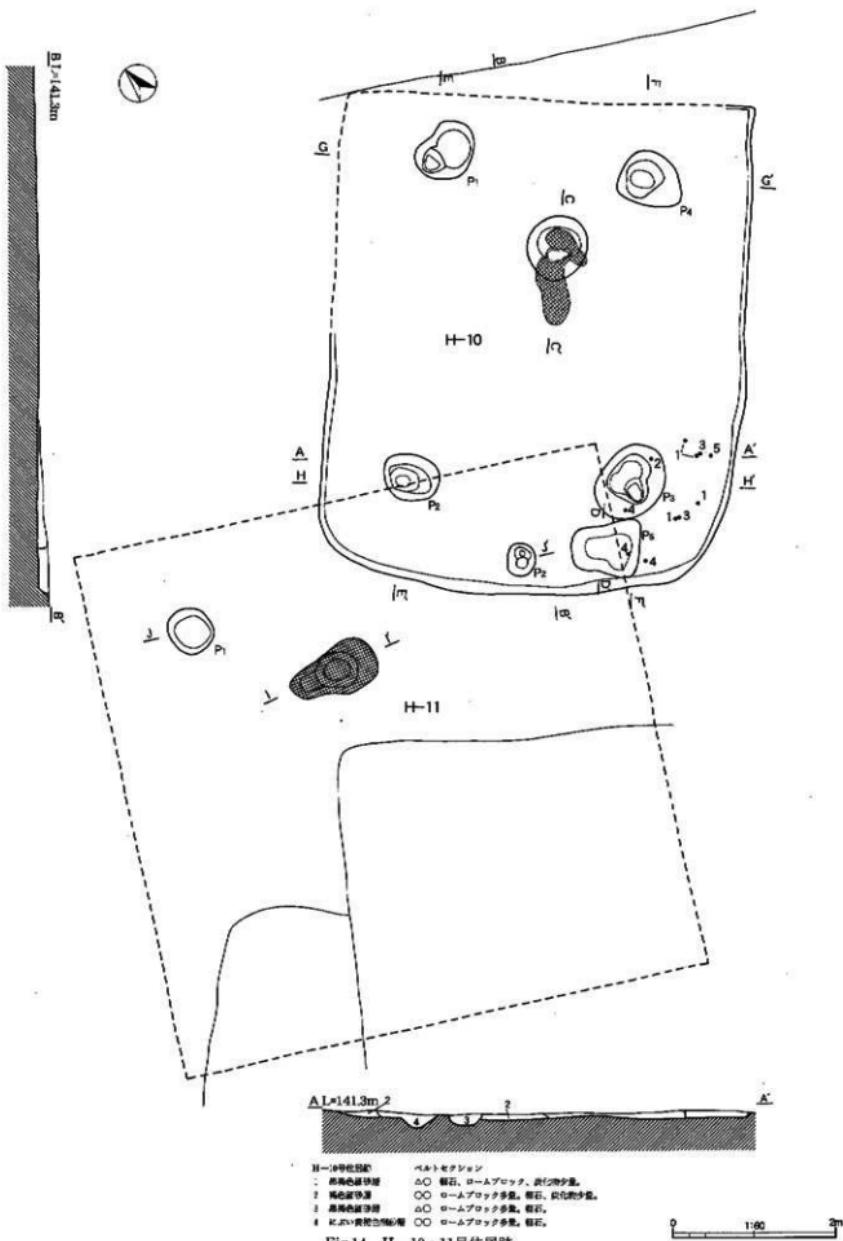
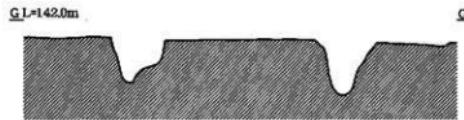


Fig.14 H-10・H-11号住居跡



H-10号住居跡六井測量				
%	形狀	実積 (m ²)	面積 (m ²)	積分 (m ²)
P ₁	不規則	26	37	56
P ₂	矩形	68	55	64
P ₃	扇形	100	75	48.3
P ₄	四角形	89	64	78.5
P ₅	不規則	75	69	45



D L=141.8m D'

- 3-12号住居跡
 1 内褐色陶器
 2 外褐色陶器
 3 黄色陶器
 P₄号生穴セクション
 △C 洗化室。コームブロック壁。Ar-C壁瓦甚少。
 △C ローストブロック。Ar-C壁瓦甚少。
 OC 粘土室。コームブロック。

C L=142.0m

C



H-11号住居跡六井測量				
%	形狀	実積 (m ²)	面積 (m ²)	積分 (m ²)
P ₁	不規則	38	55	15
P ₂	不規則	38	35	44.5

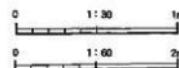
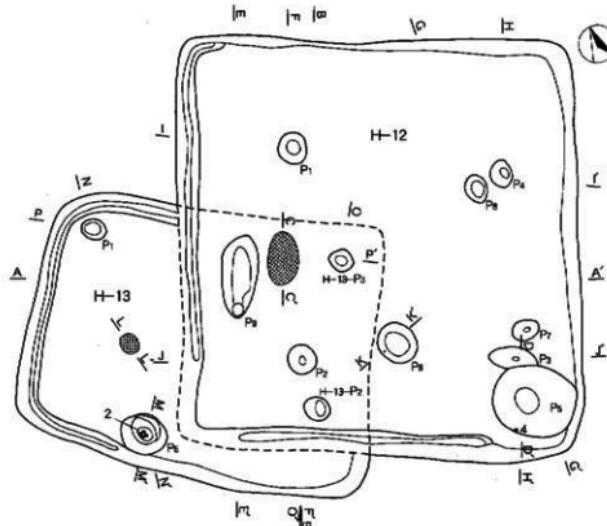


Fig.15 H-10・11号住居跡



図一12・13号住居断面

- 1 黄褐色砂質土
 - 2 深褐色砂質土
 - 3 黑褐色砂質土
 - 4 墓色砂質土
 - 5 墓褐色砂質土
 - 6 黑褐色砂質土
 - 7 墓褐色砂質土
 - 8 黑褐色砂質土
- As-C型石多量、ローム層、炭土層少。
 - △△ As-C型石少、ローム層、サームブロック、鰐土層。
 - ロームブロック、As-C型石、炭土層、黄赤色。
 - フーム多量、As-C型石。
 - △○ ロームブロック多量、鰐土ブロック。
 - As-C型石多量、炭土層、灰土層、ロームブロック多量。
 - ロームブロック多量、炭土層。
 - △○ ローム多量、灰土層少。



- H-12号住居断面
- 1 黑褐色砂質土
 - 2 黑褐色砂質土
 - 3 墓色砂質土
- 硫化物、鉄化物。
 - △○ 灰土、サームブロック。
 - ローム多量。



- H-13号住居断面
- 1 黑褐色砂質土
 - 2 黑褐色砂質土
 - 3 墓色砂質土
- ×○ 硫化物。
 - ×○ 灰土、サームブロック。
 - ×○ ロームブロック多量。

0 1:50 2m

Fig.16 H-12・13号住居跡

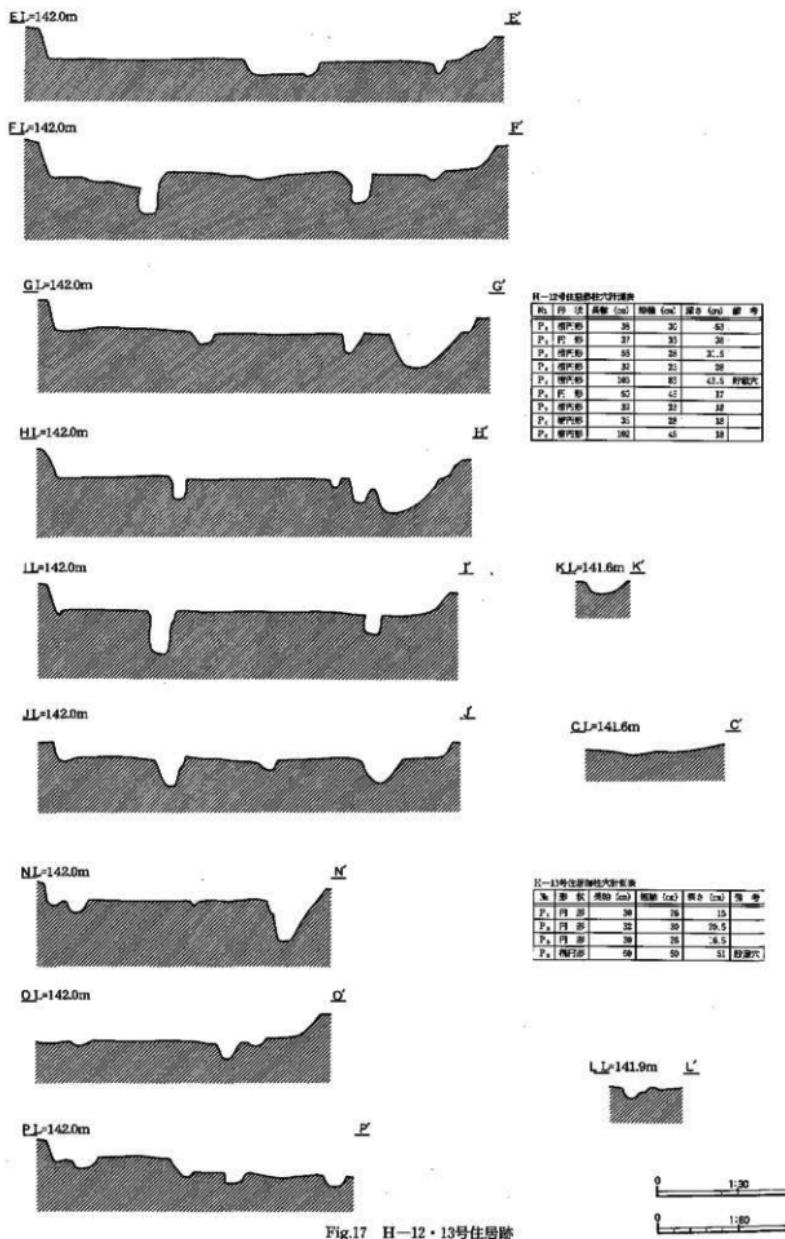
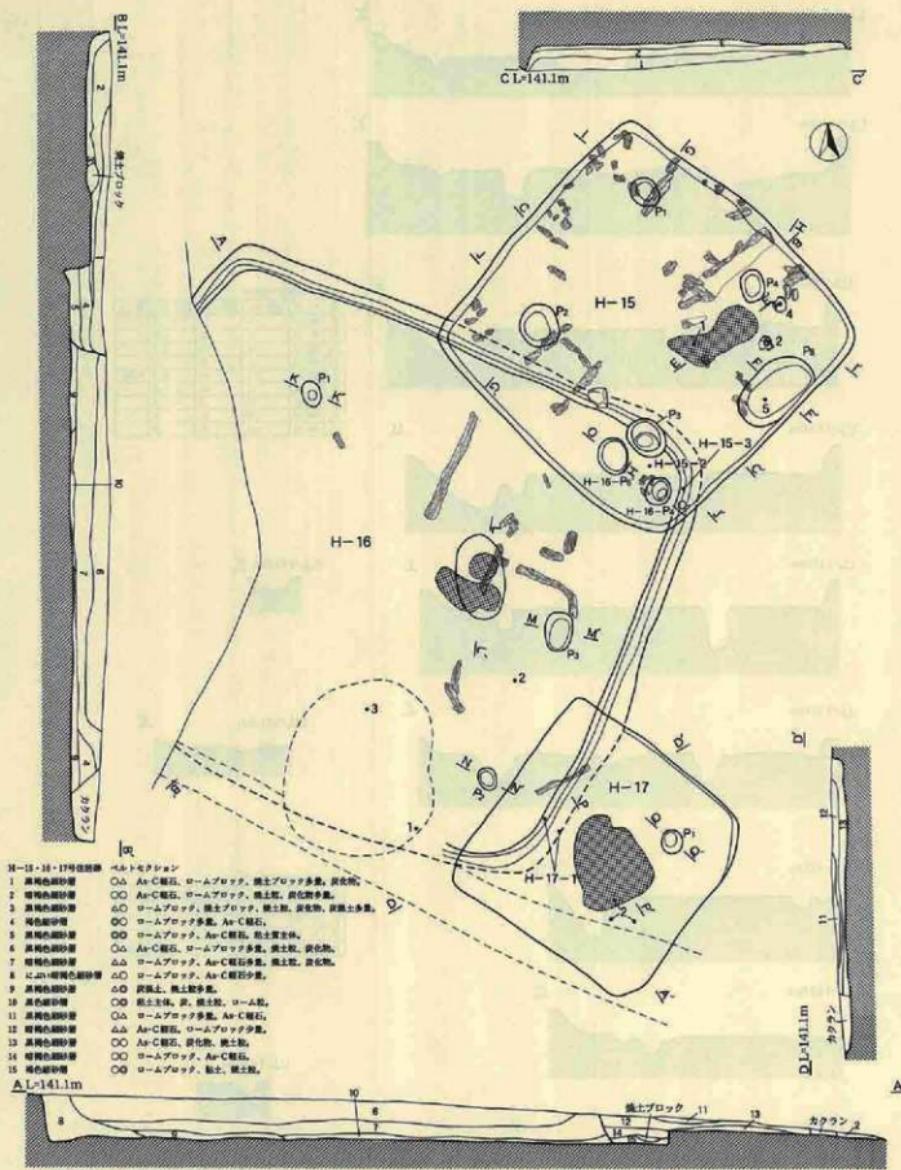
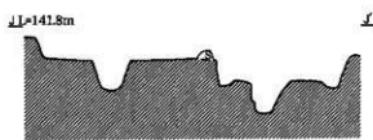
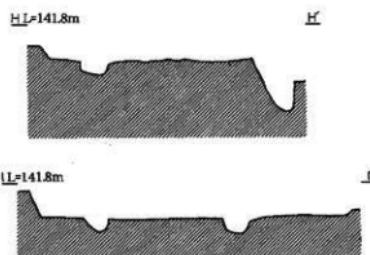


Fig.17 H-12 • 13号住宅断面





H-15号住居跡穴井調査

地	形	状	底面 (cm)	周囲 (cm)	深さ (cm)	性	号
P ₁	倒円角	43	35	15.3			
P ₂	円形	50	47	30			
P ₃	内凹形	48	45	36.5			
P ₄	倒円角	38	29	17.5			
P ₅	角円形	103	59	25.5	斜壁穴		



H-15号住居跡
△、号柱穴セクション
1 白色粘土層
2 黑褐色粘土層
3 灰色粘土層

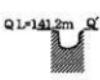
○、白色粘土層
△、ロームブロック多量、白色粘土層少
○、ローム主張

K'L=141.2m K' M'L=141.2m M' N'L=141.2m N'



H-16号住居跡穴井調査

地	形	状	底面 (cm)	周囲 (cm)	深さ (cm)	性	号
P ₁	倒円角	32	28	34			
P ₂	倒円角	27	22	33			
P ₃	倒円角	47	34	23			
P ₄	円形	32	31	32			
P ₅	倒円角	32	30	32.5			



H-17号住居跡穴井調査

地	形	状	底面 (cm)	周囲 (cm)	深さ (cm)	性	号
P ₁	円形	29	24	21			

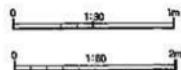


Fig.19 H-15~17号住居跡

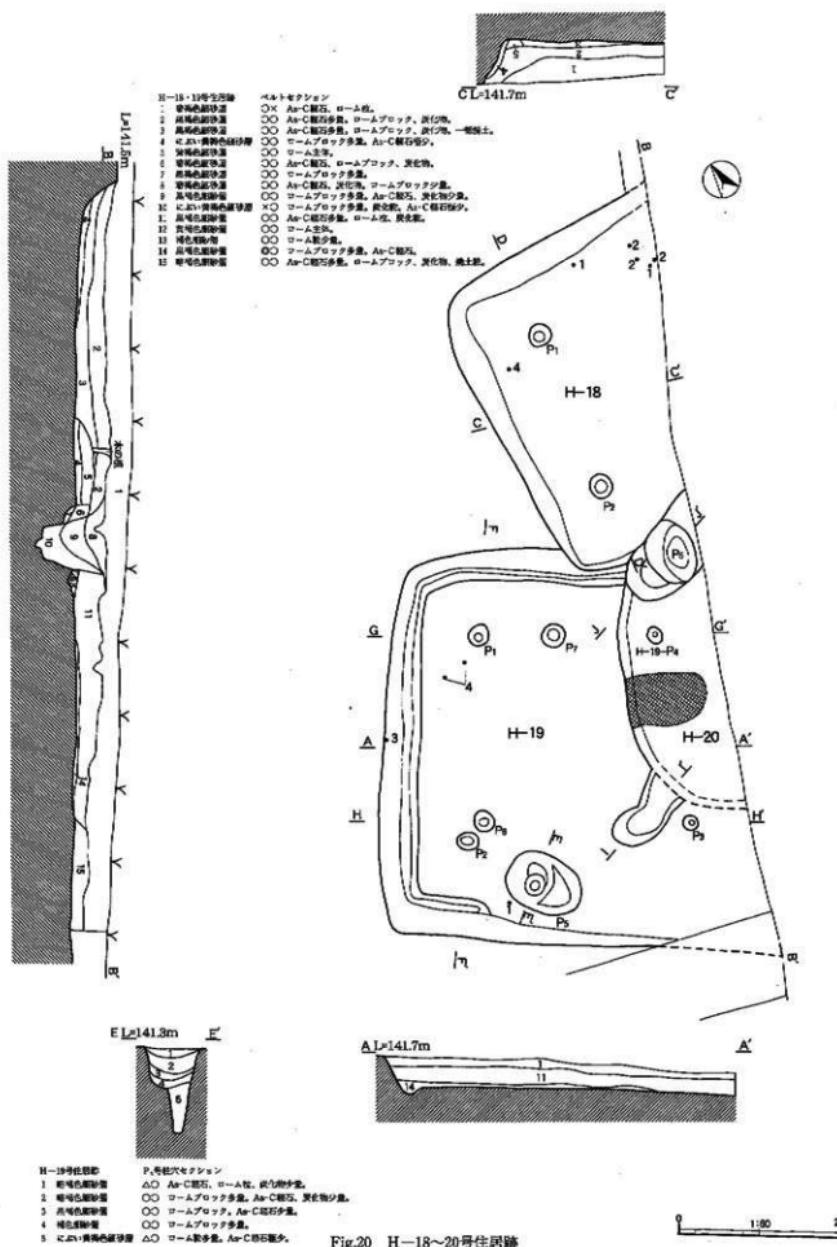


Fig.20 H-18~20号住居跡



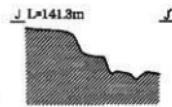
H-18号住居跡地六針測定				
No.	形狀	高輪 (cm)	深幅 (cm)	厚さ (cm)
F ₁	弓 形	20	27	14
F ₂	弓 形	20	36	22



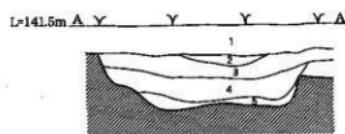
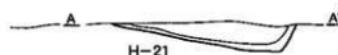
L=141.3m



H-19号住居跡地六針測定				
No.	形狀	高輪 (cm)	深幅 (cm)	厚さ (cm)
F ₁	弓 形	25	25	21.0
F ₂	腰刀形	25	20	22.0
F ₃	弓 形	18	18	17
F ₄	弓 形	20	18	17.5
F ₅	腰刀形	35	30	19.5
F ₆	弓 形	25	24	14
F ₇	弓 形	30	20	25



H-21号住居跡地六針測定				
No.	形狀	高輪 (cm)	深幅 (cm)	厚さ (cm)
J	平盤形	140.0	71	45



- H-21号住居跡
 1 布モザイク層
 2 おせい色陶器層
 3 黄褐色陶器層
 4 黑褐色陶器層
 5 青色陶器層
- ベルトセクション
 ○× As-C範囲、ローム層。
 ○○ As-C範囲多孔質。
 ○△ As-C範囲多孔質。
 △△ As-C範囲多孔質。ロームブロック。
 ○○ ロームブロック。As-C範囲少。

0 1:60 2m

Fig.21 H-18~21号住居跡

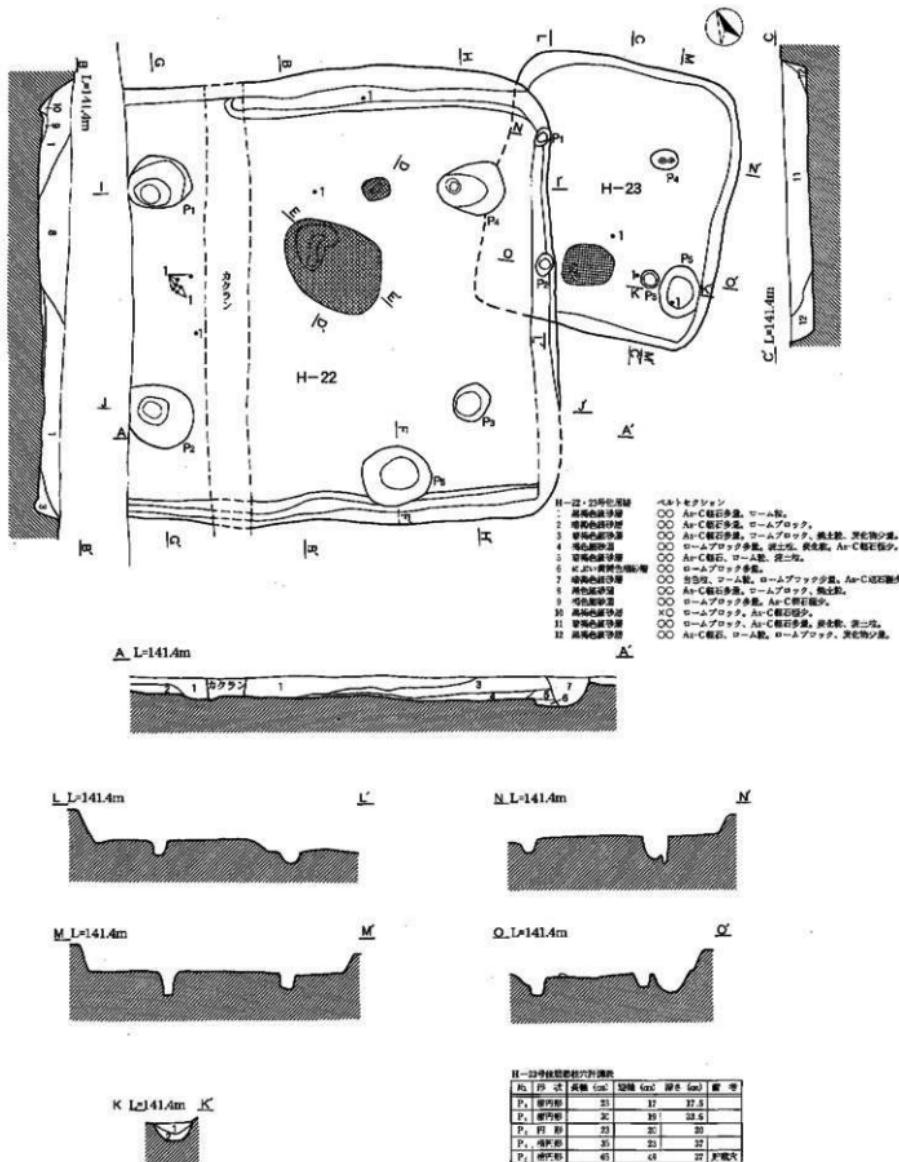


Fig 22 H=22-23是住民略

G_L=141.8m

G'



H_L=141.8m

H'



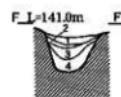
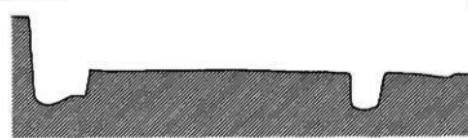
I_L=141.8m

I'



J_L=141.8m

J'



H-22号住居跡

- 1 線状合組砂層
- 2 黒色砂質層
- 3 暗褐色砂質層
- 4 棕褐色砂質層
- F₁ 寄生穴セクション
- △○ Aa-C般岩、コーム粒、泥土少。
- ×○ 泥化物、発土。
- △○ ロームブロック、Aa-C般岩、泥化物。
- ロームなど多量、炭化物、泥土少。Aa-C般岩少。

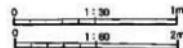


Fig.23 H-22号住居跡

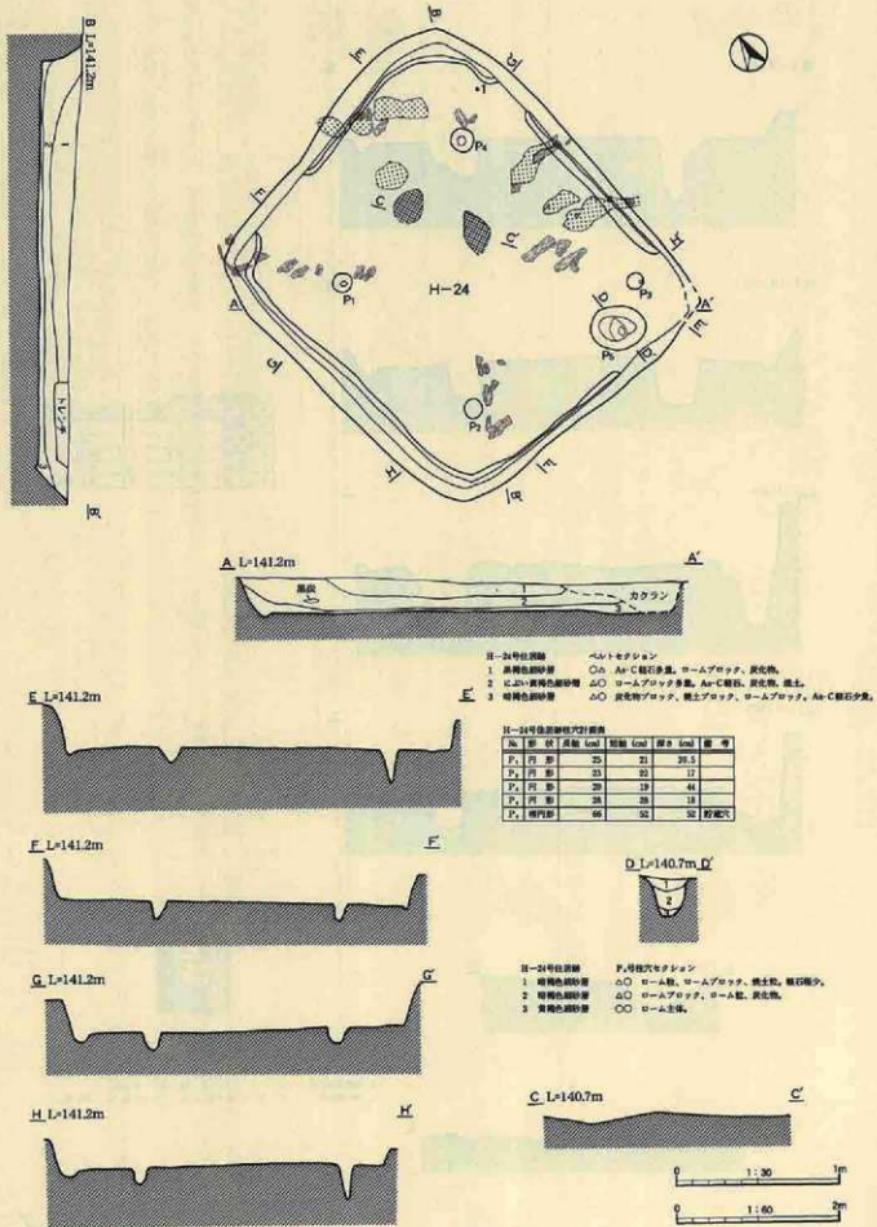


Fig.24 H-24号住居跡

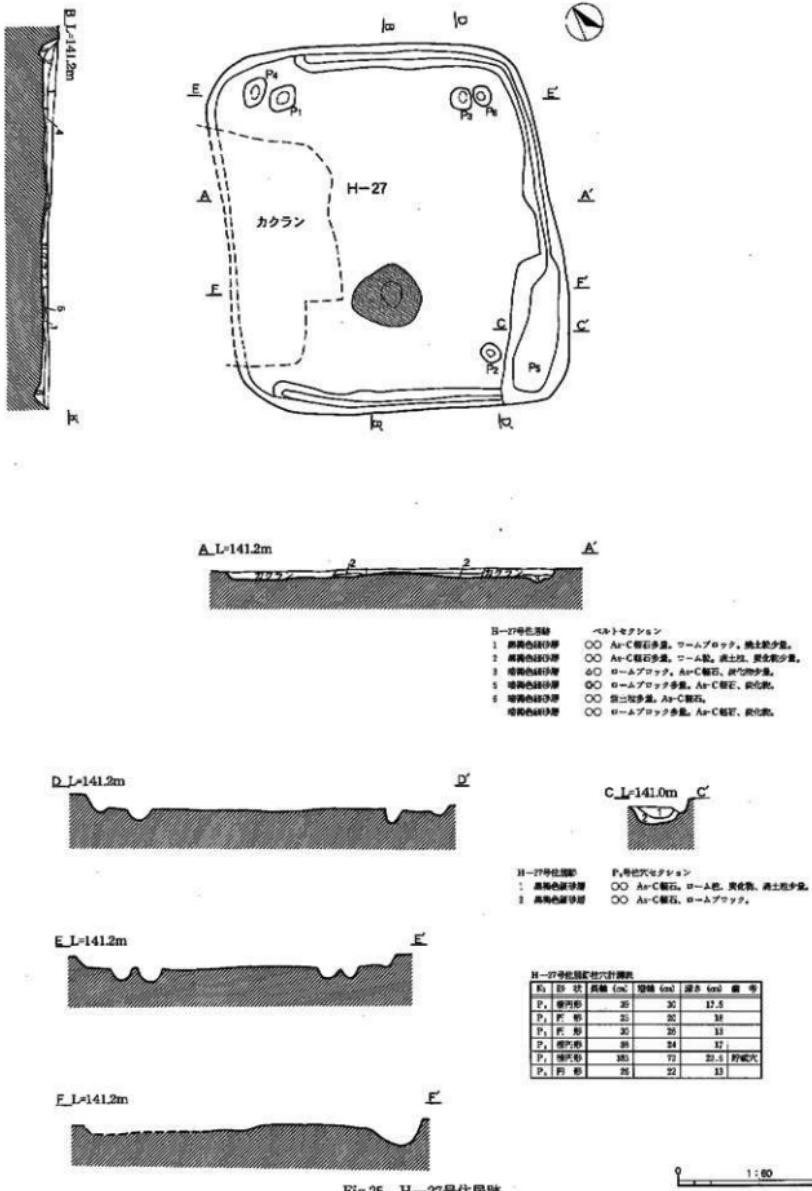


Fig.25 H-27号住居跡

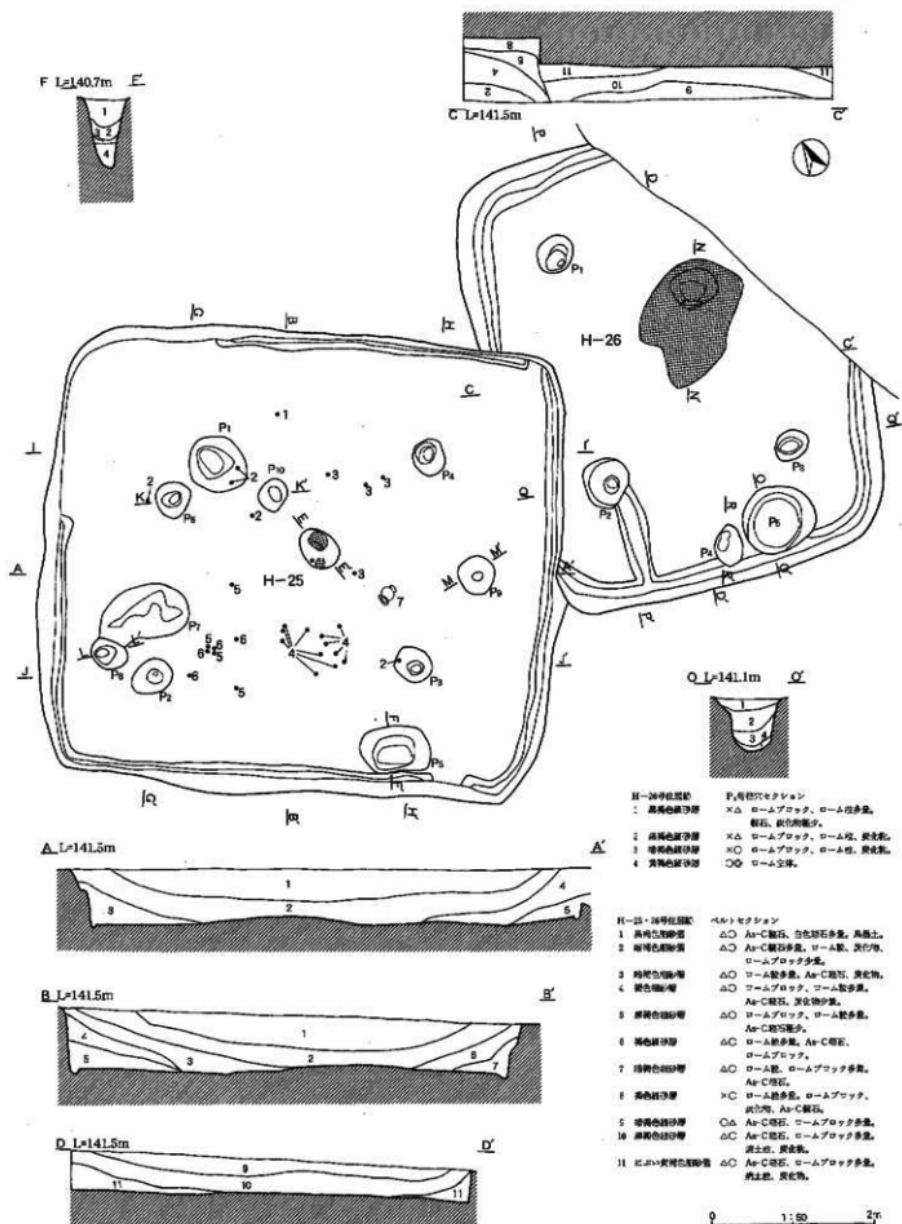


Fig.26 H-25·26号住居跡

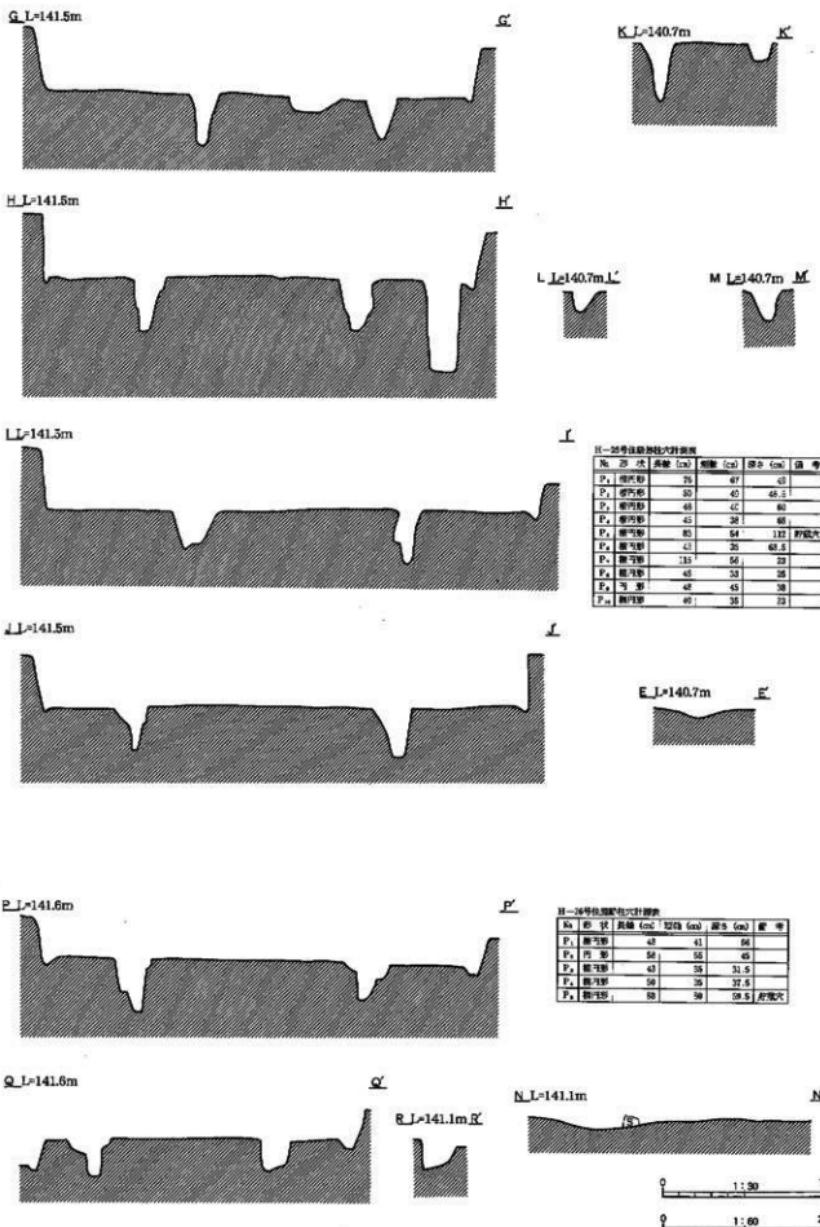
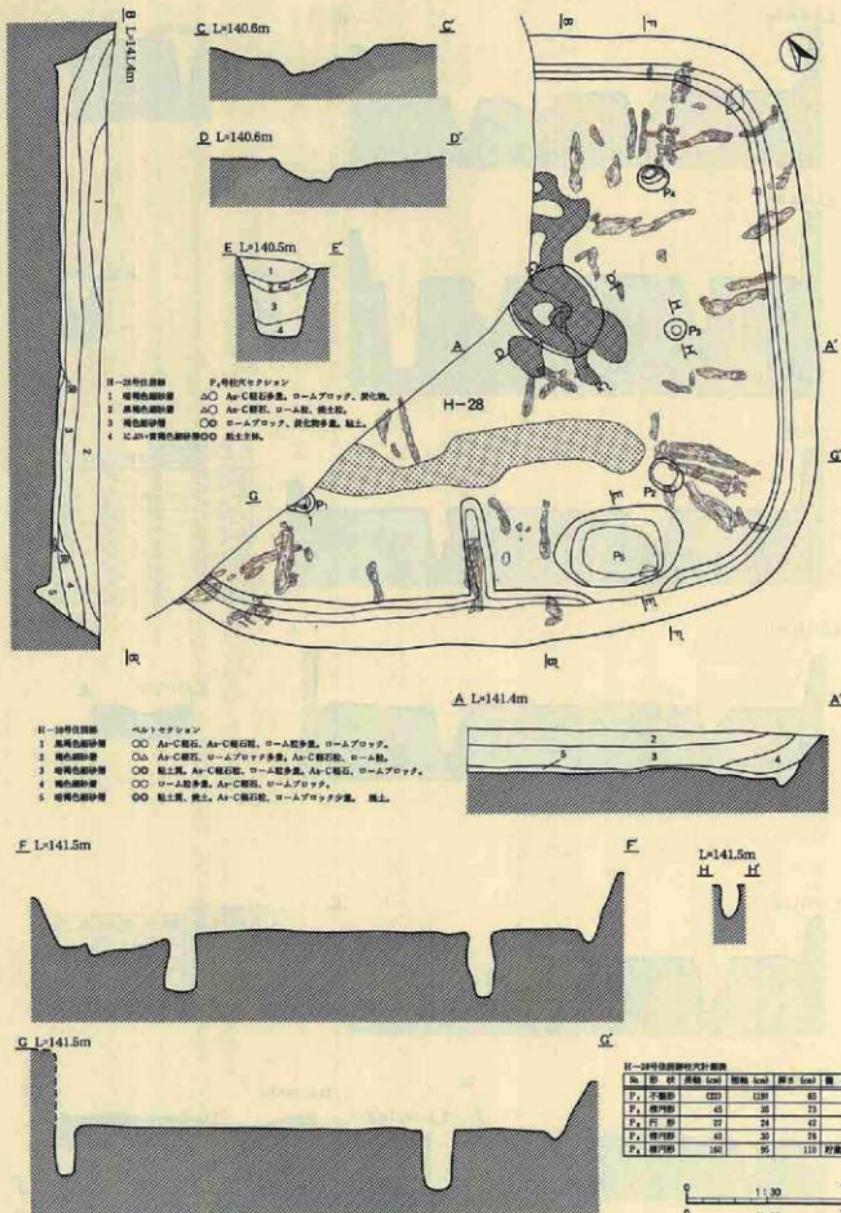


Fig. 27 H-25・26号住居跡



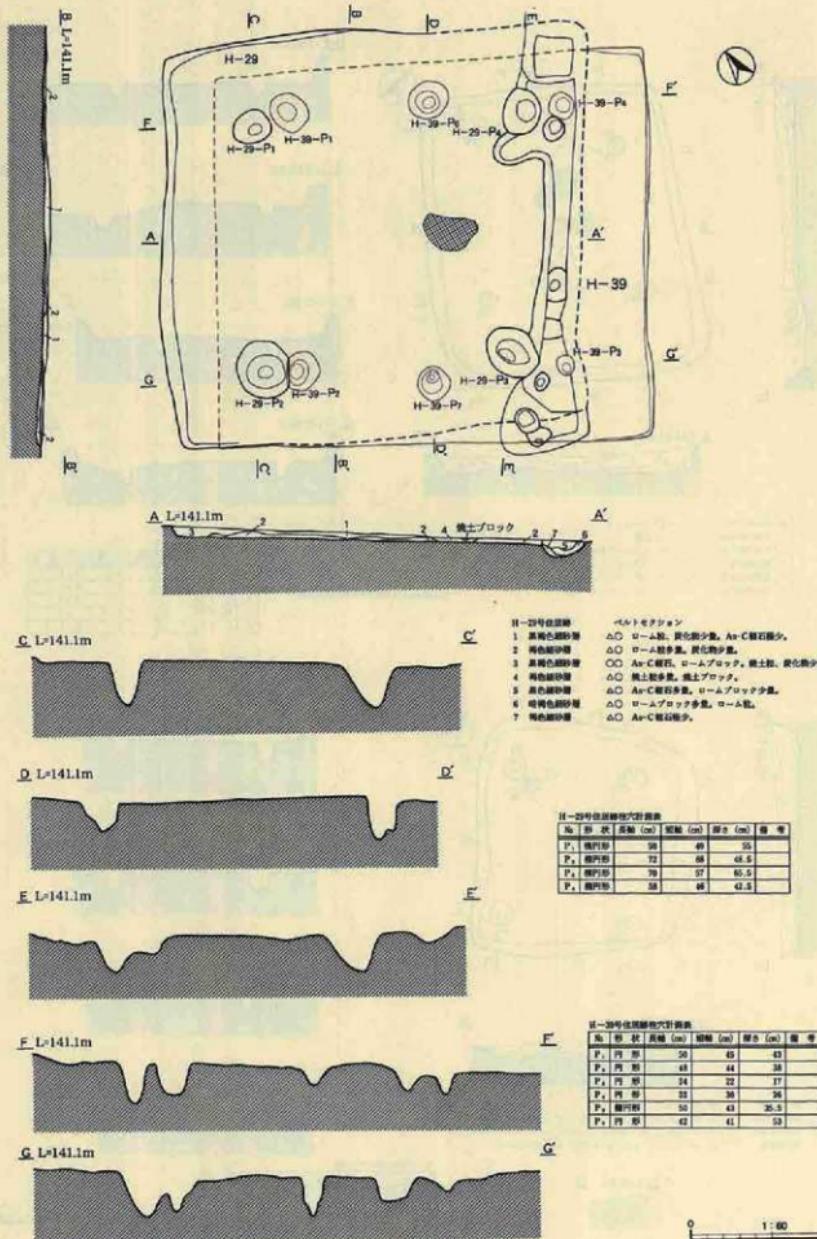


Fig. 29 H-29・39号住居跡

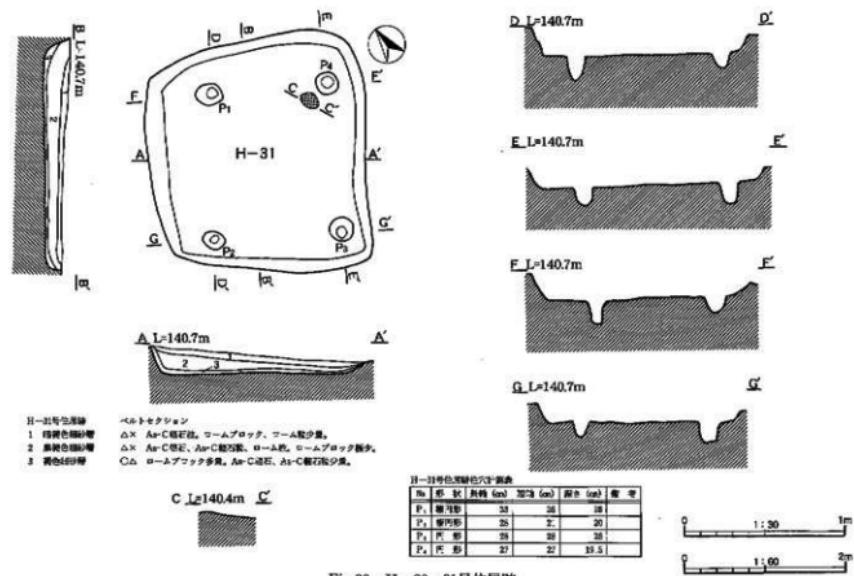
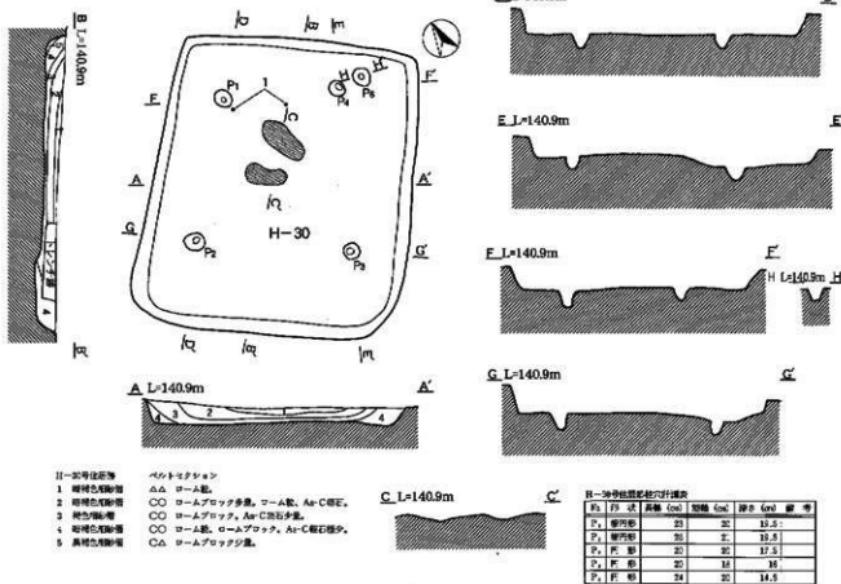


Fig.30 H-30・31号住居跡

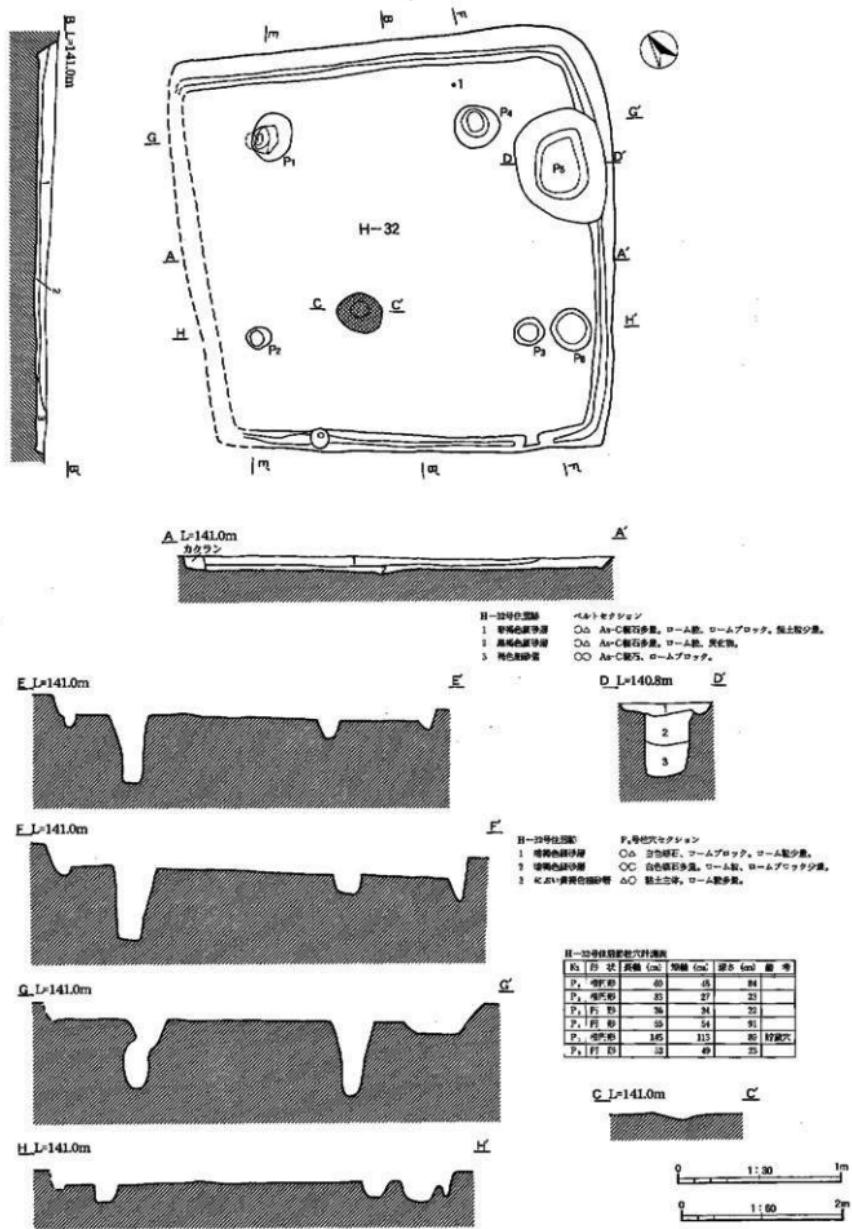


Fig.31 H-32号住居跡

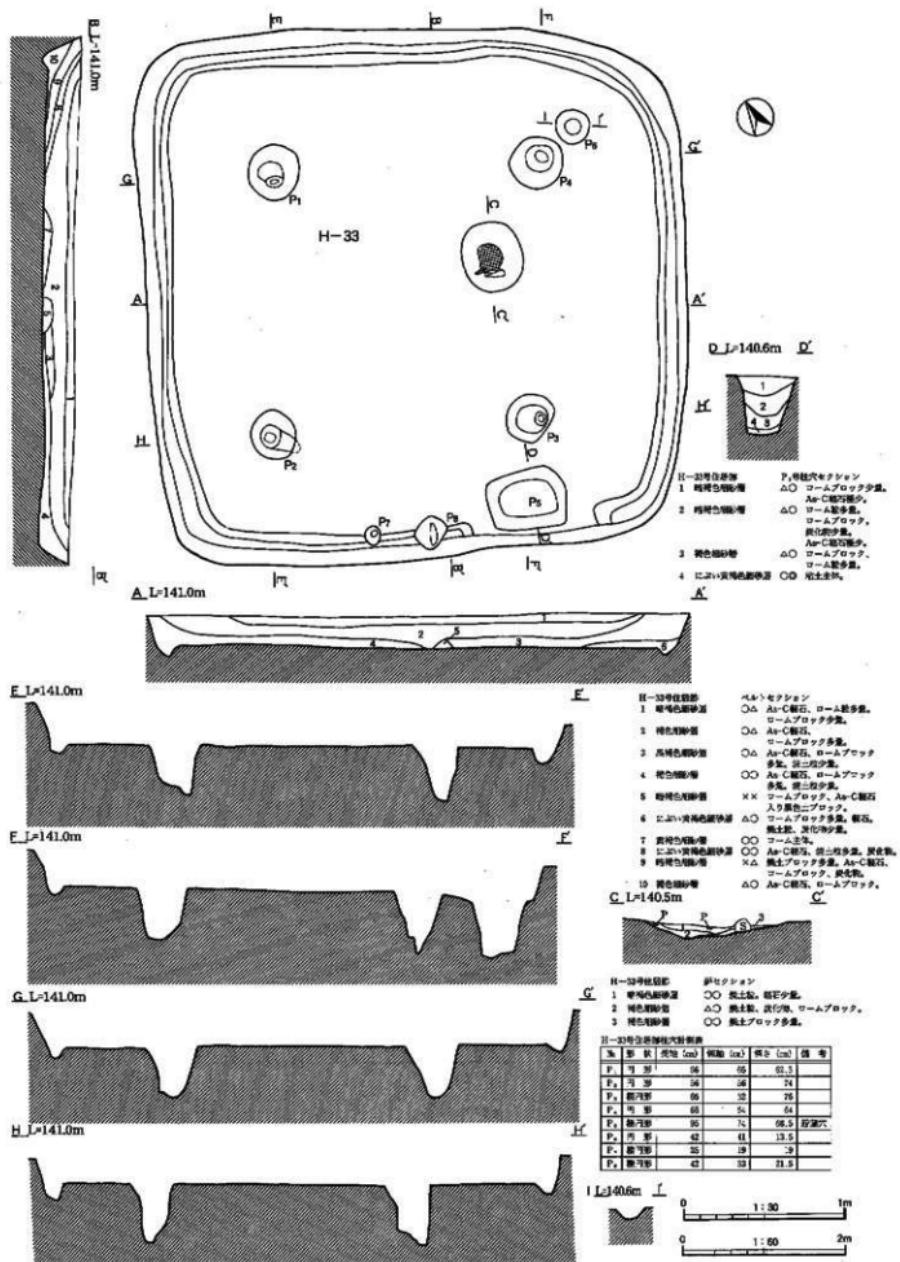


Fig.32 H-33号住居跡

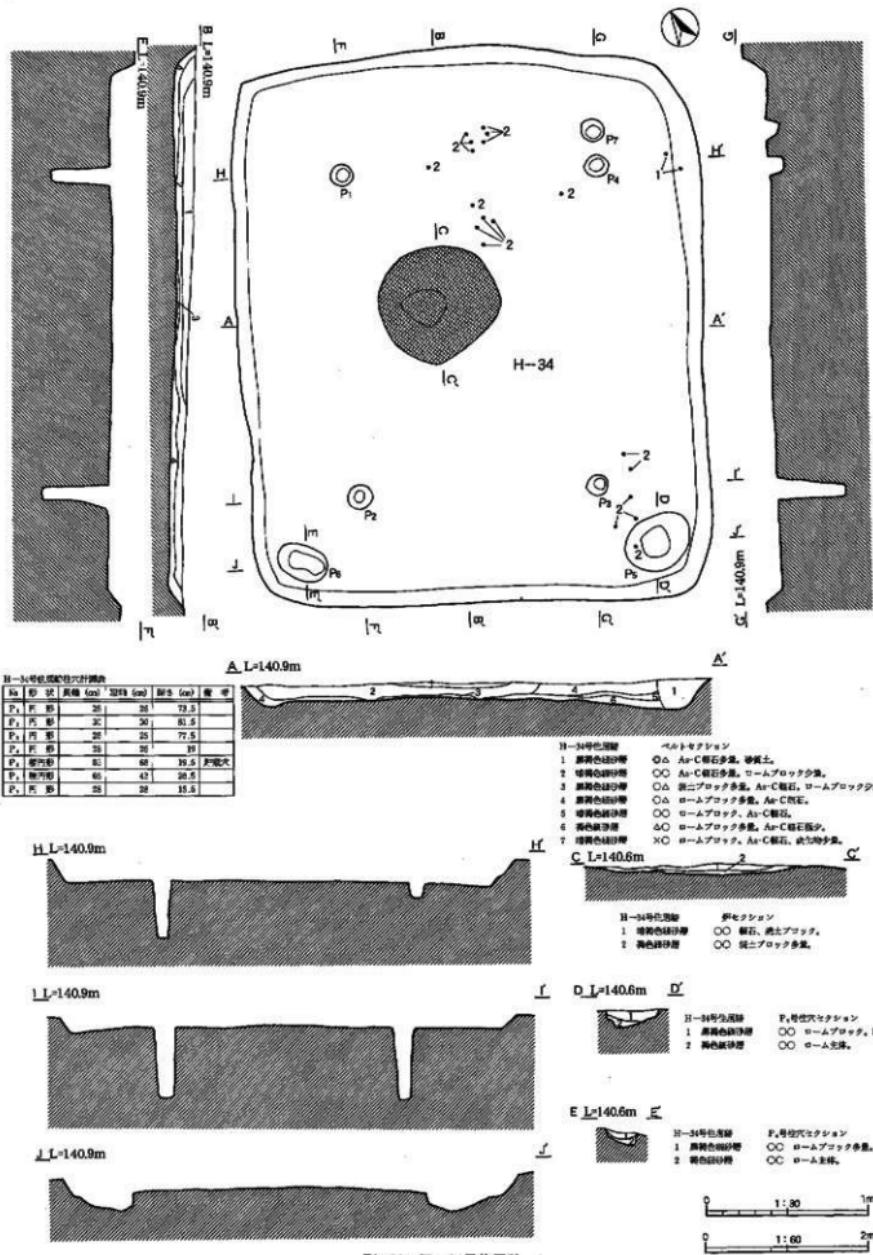
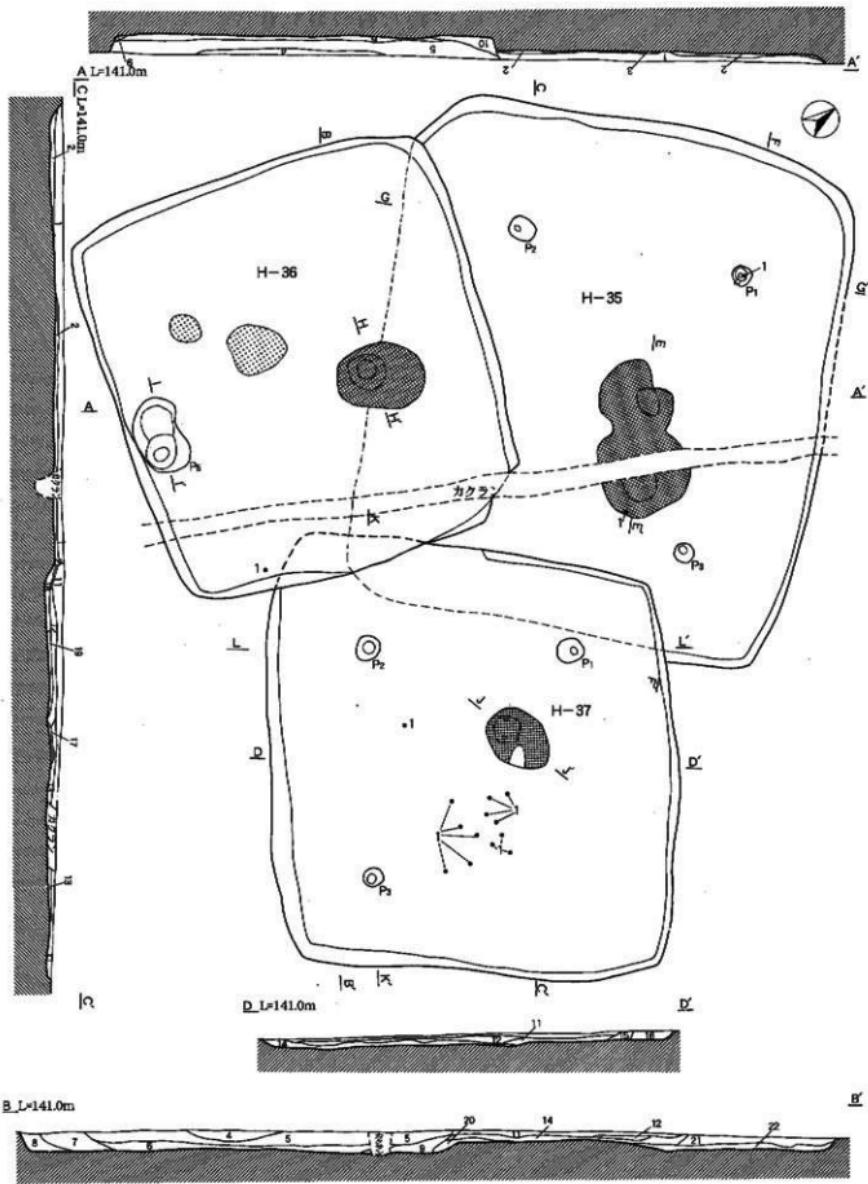


Fig.33 H-34号住居跡



- H-35・36・37号住跡図 ベルトセクション
- 1 暗褐色砂岩層 ○△ A-C板石多量、ロームブロック、炭化物、黄土粒。
 - 2 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、黄土粒。
 - 3 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、黄土粒、灰土粒。
 - 4 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、白色砂岩多量、ローム粒。
 - 5 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、白色砂岩多量、ローム粒、炭化物。
 - 6 黄褐色砂岩層 △○ A-C板石、白色砂岩多量、灰土粒。
 - 7 にかい黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、ロームブロック、ヨーロッパ貝殻。
 - 8 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、ロームブロック、ヨーロッパ貝殻。
 - 9 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、白色砂岩多量、ローム粒。
 - 10 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、白色砂岩多量、ロームブロック。
 - 11 黄褐色砂岩層 ○△ A-C板石、黄土粒、灰土粒。

- 12 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、黄土粒、ロームブロック多量。
- 13 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、ロームブロック、灰土粒。
- 14 黄褐色砂岩層 ○△ A-C板石、ローム粒、ロームブロック、炭化物。
- 15 黄褐色砂岩層 ○△ A-C板石、ローム粒、灰土粒。
- 16 にかい黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、ローム粒、ロームブロック。
- 17 黄褐色砂岩層 ○○ 灰土粒、黄土粒、A-C板石少量。
- 18 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、ローム粒、ロームブロック、ヨーロッパ貝殻。
- 19 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、ローム粒。
- 20 黄褐色砂岩層 ○○ ヨーロッパ貝殻。
- 21 黄褐色砂岩層 ○○ A-C板石、ローム粒。
- 22 C, D, E, F, G, H, I, J, K, L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U, V, W, X, Y, Z 黄褐色砂岩層 ○○ ロームブロック多量、A-C板石、ローム粒。

F L=141.0m



F'

H-35号住跡地六丁目断面				
地	形	状	高	幅
F ₁	内	壁	30	22 43
F ₂	内	内	30	27 50
F ₃	外	壁	25	23 47

G L=141.0m



G'

E L=141.0m



E'

I L=140.8m



H-36号住跡地穴井横断面				
地	形	状	高	幅
P ₁ , 4F19	井	底	55	35 30.5 斜壁

H L=140.8m



H'

H-36号住跡地穴井横断面				
地	形	状	高	幅
F ₁	井	壁	35	30 45
F ₂	井	底	37	25 38
F ₃	井	壁	23	25 38

K L=140.8m



K'

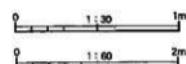
L L=140.8m



L'



Fig.35 H-35～37号住跡



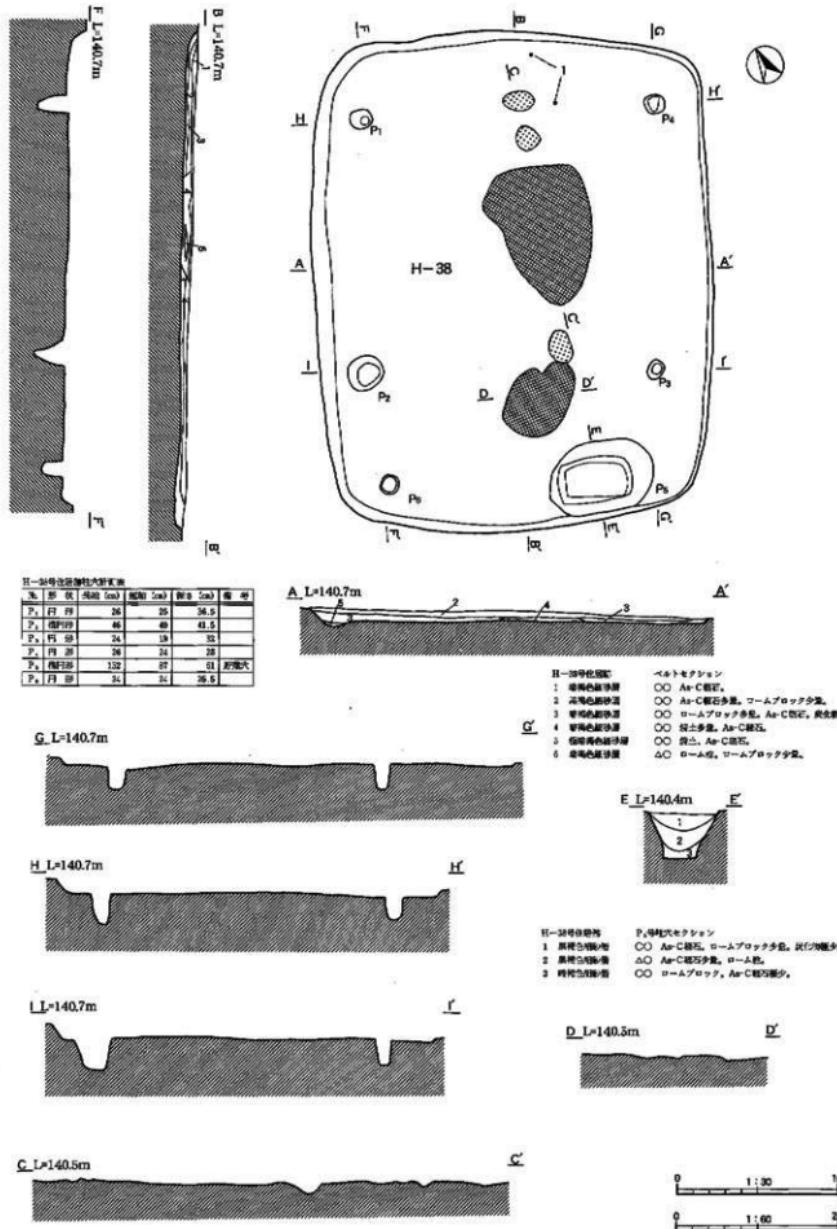


Fig.36 H-38号住居跡

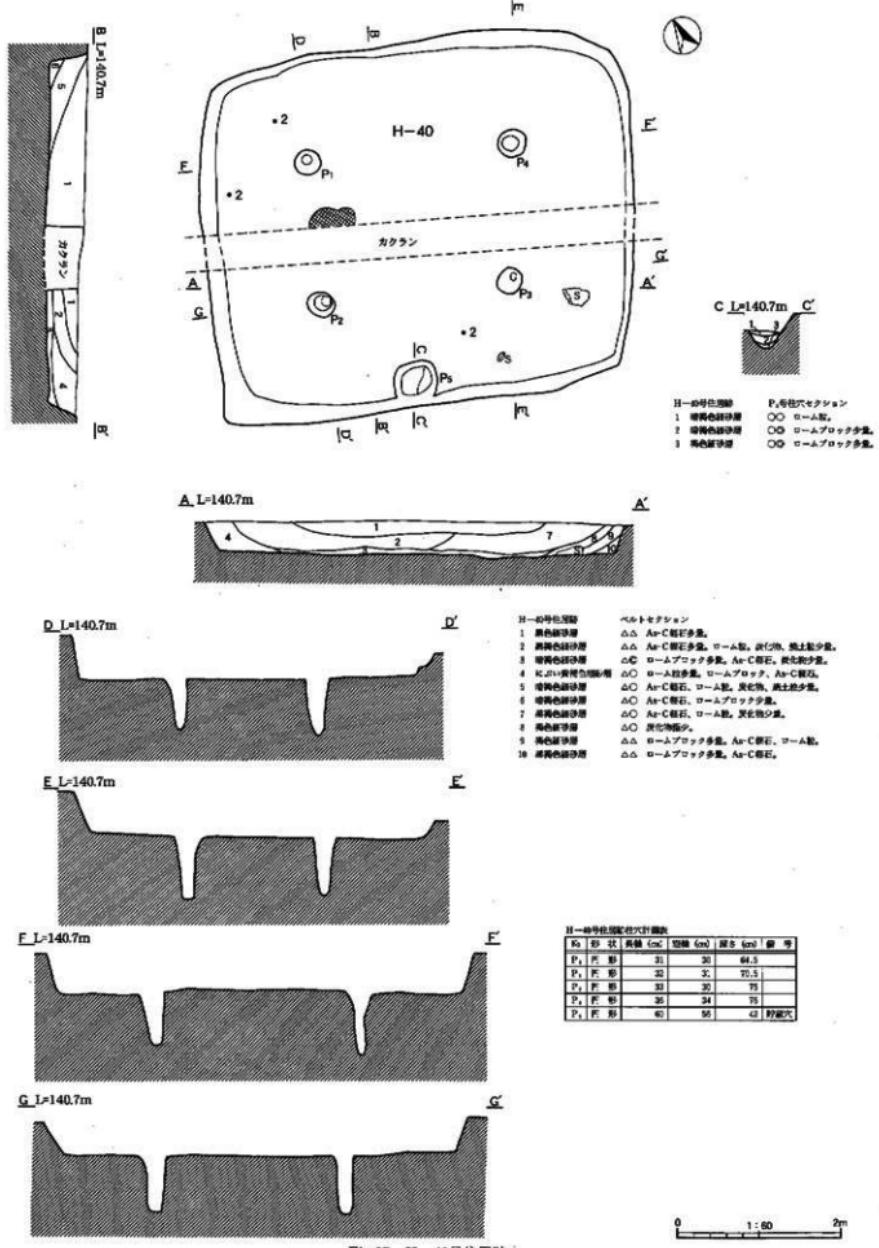
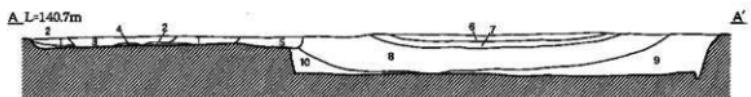
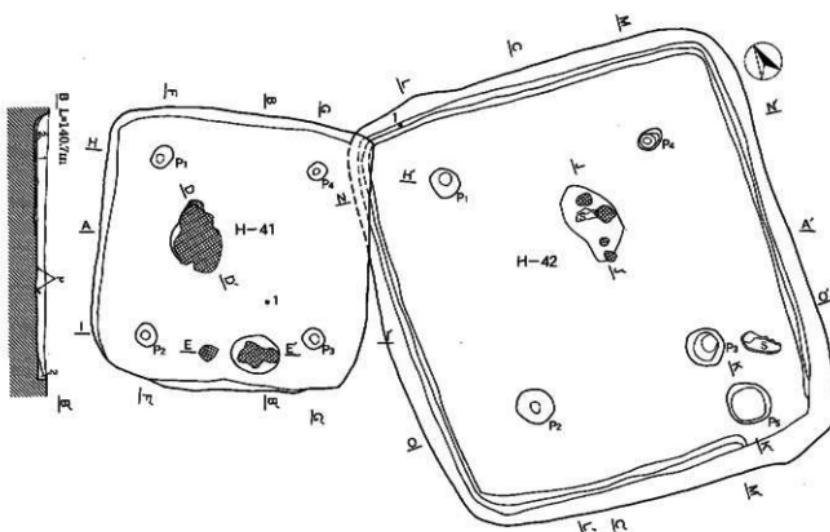
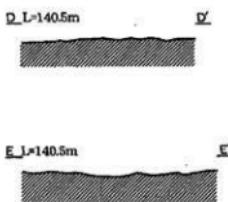


Fig.37 H-40号住居跡





- | | |
|----------|--------------|
| H-42号生活舎 | 伊セクション |
| 1 烟褐色砂砾層 | ×C 透土性、ローム粒。 |
| 2 黄色砂砾層 | ○○ 第二ブロック多量。 |

Fig.38 H-41·42号住居跡



E_L=140.7m E'



H_L=140.7m H'



G_L=140.7m G'



L_L=140.7m L'



H-41号柱洞跡柱穴寸法表

No.	形 状	直径 (cm)	壁厚 (cm)	深さ (cm)	備 考
P ₁	円 形	30	25	24.5	
P ₂	円 形	29	25	23.5	
P ₃	円 形	27	25	23.5	
P ₄	円 形	27	25	23.5	

L_L=140.7m L'



H-42号柱洞跡柱穴寸法表

No.	形 状	直径 (cm)	壁厚 (cm)	深さ (cm)	備 考
P ₁	円 形	37	21	32	
P ₂	円 形	37	21	27.5	
P ₃	円 形	49	49	21	
P ₄	円 形	32	25	46.5	
P ₅	円 形	54	59	32	壁面欠

M_L=140.7m M'



N_L=140.7m N'



K_L=140.7m K'



- H-40号柱洞跡 P₄号柱穴セクション
 1 黒褐色柱分層 △○ ラーメン孔、Ae-C透石量少。
 2 暗褐色柱分層 △○ ロームブロック多量。
 3 馬色柱分層 ○○ ロームブロック多量。

O_L=140.7m O'



Fig.39 H-41・42号柱洞跡

0 1:80 2m

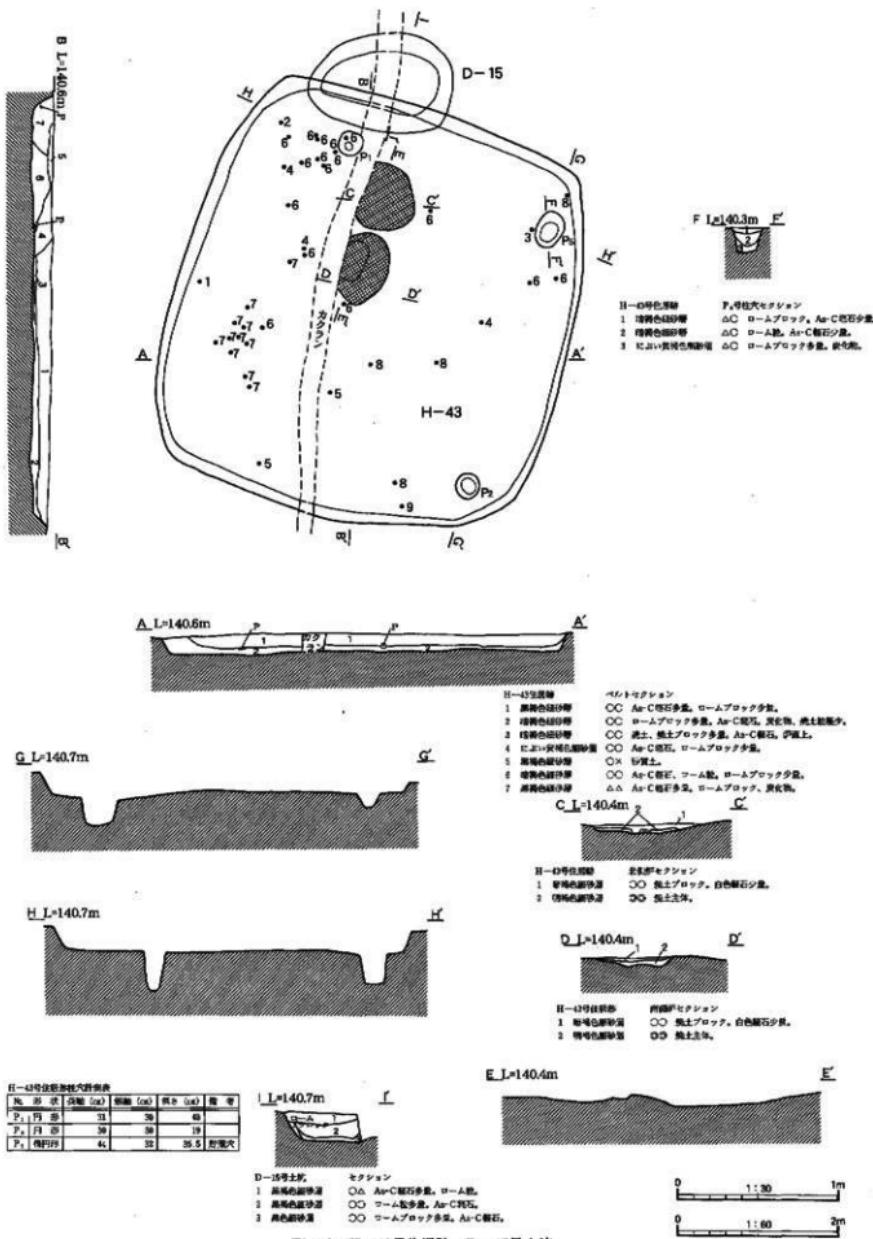


Fig.40 H—43号住居跡、D—15号土坑

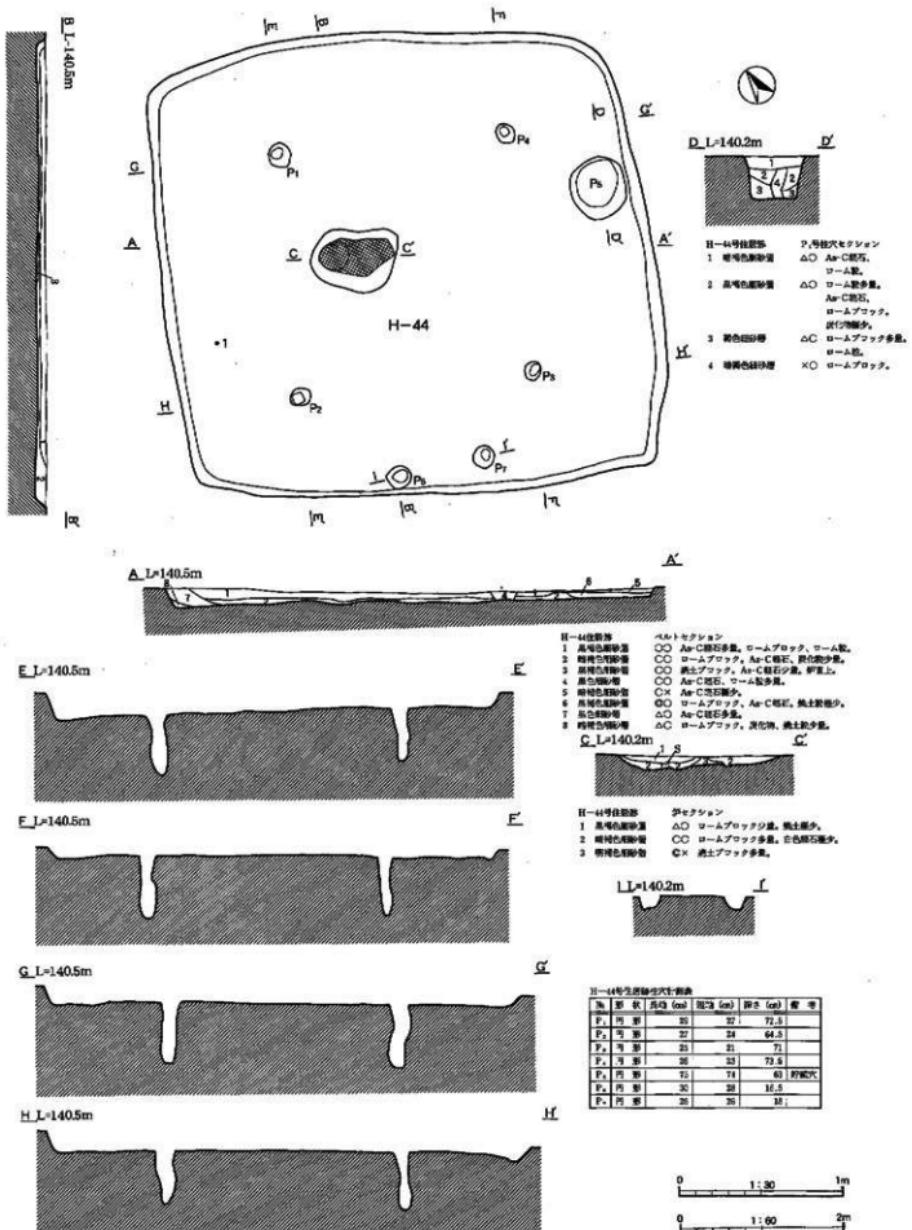


Fig.41 H-44号住居跡

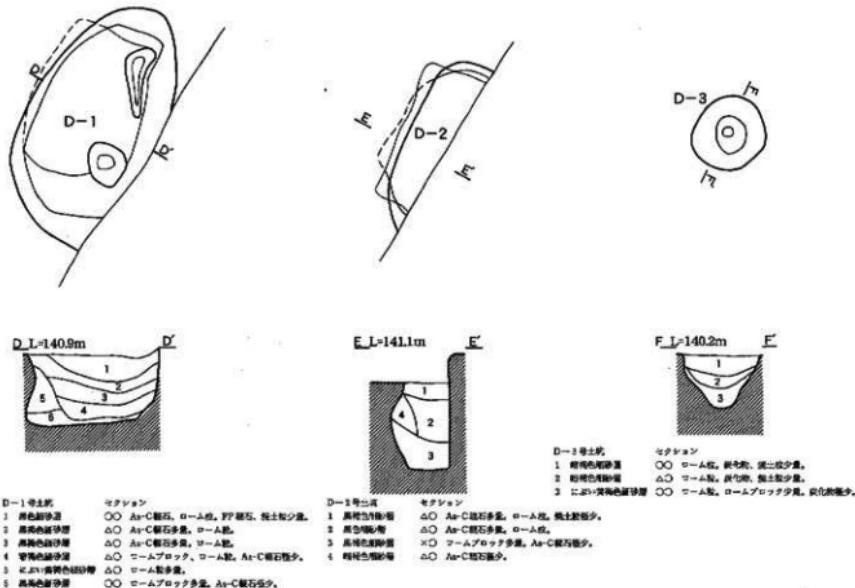
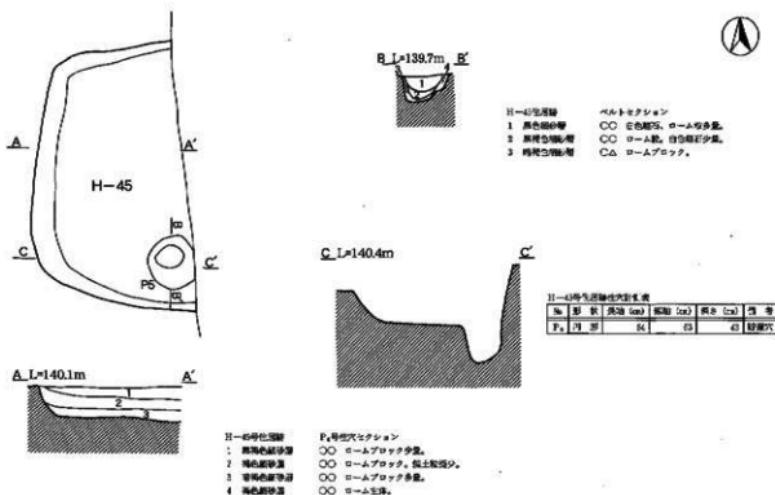
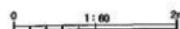
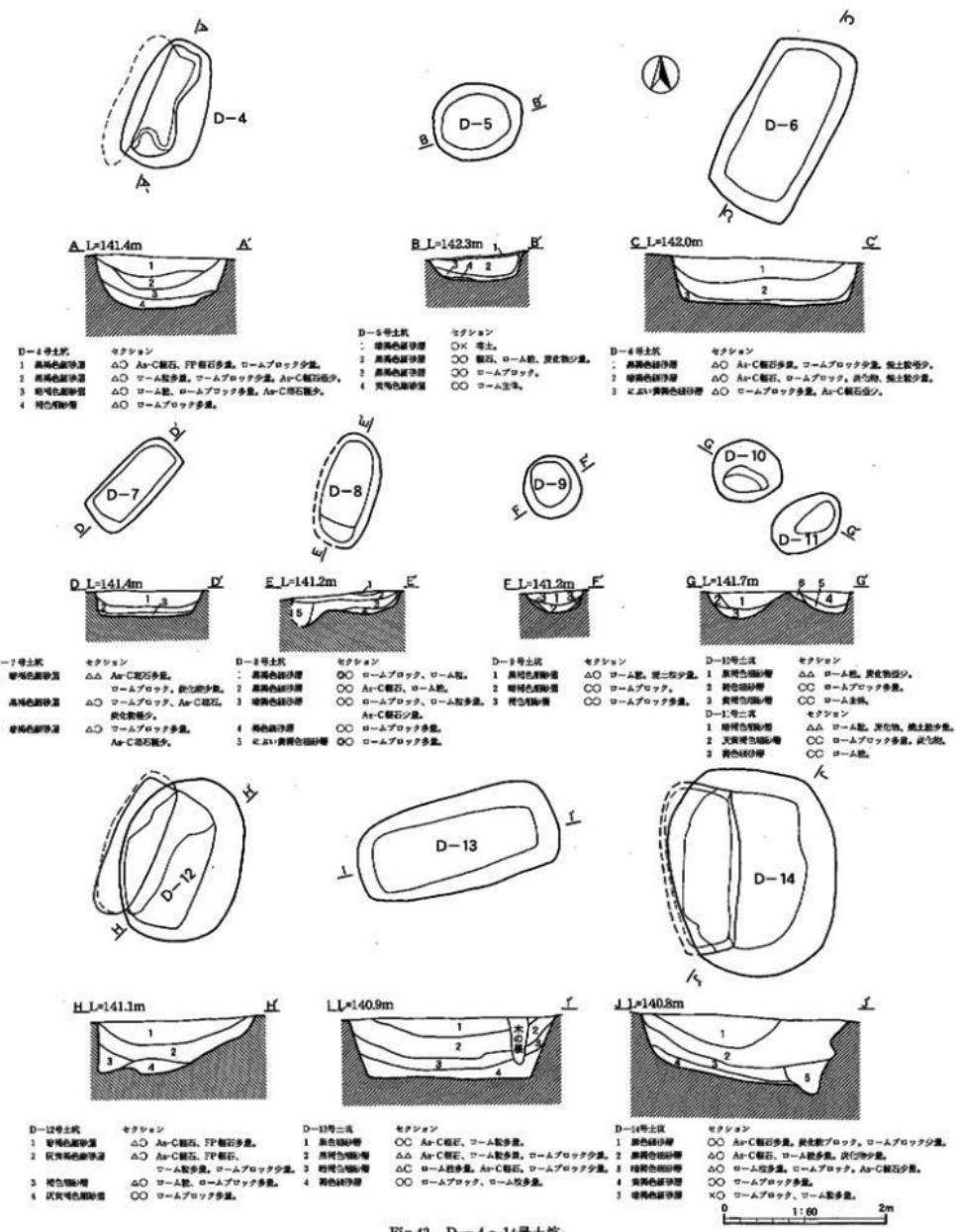


Fig.42 H-45号住居跡、D-1～3号土坑





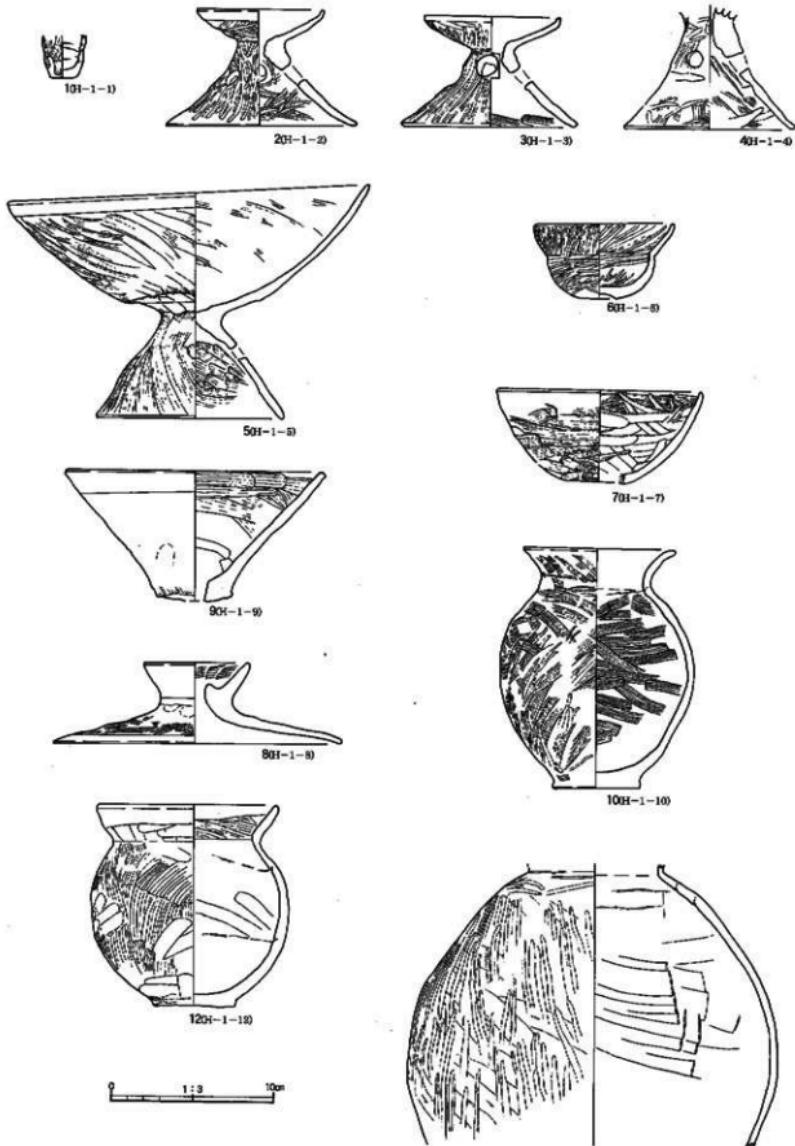


Fig.44 H-1号住居跡出土遗物

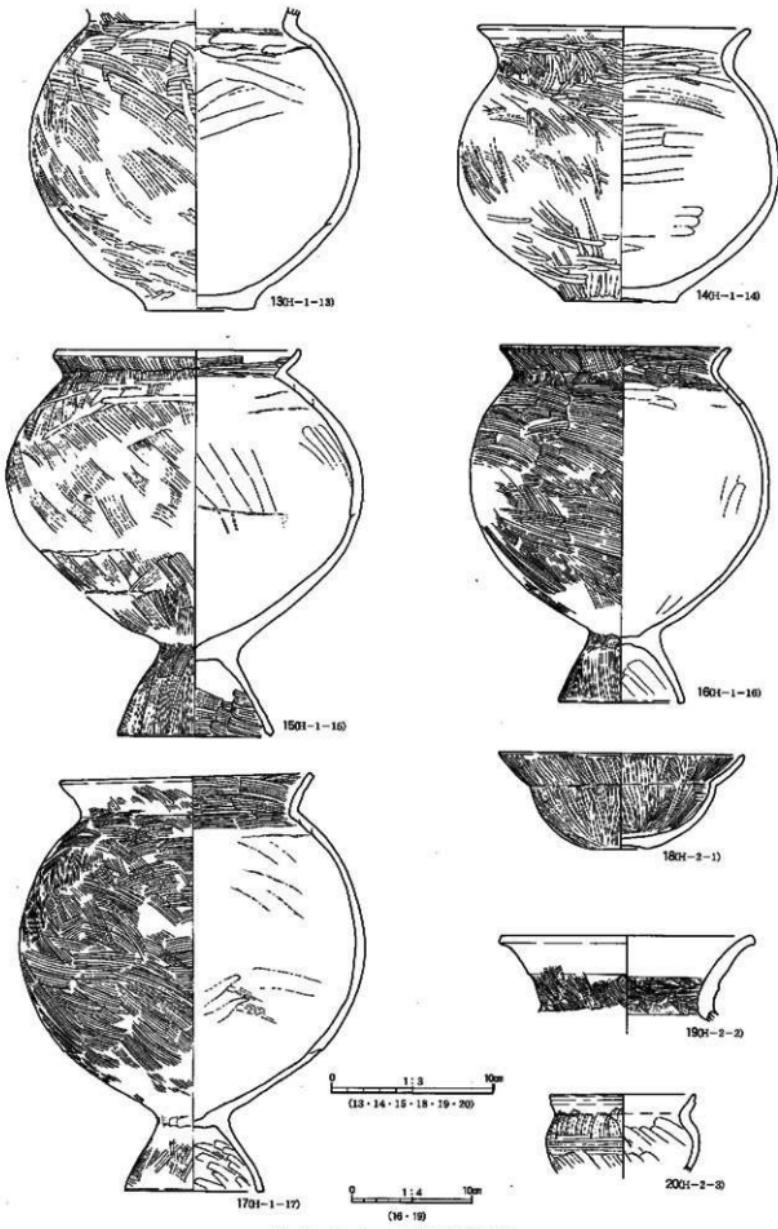


Fig.45 H-1 · 2号住居跡出土遺物

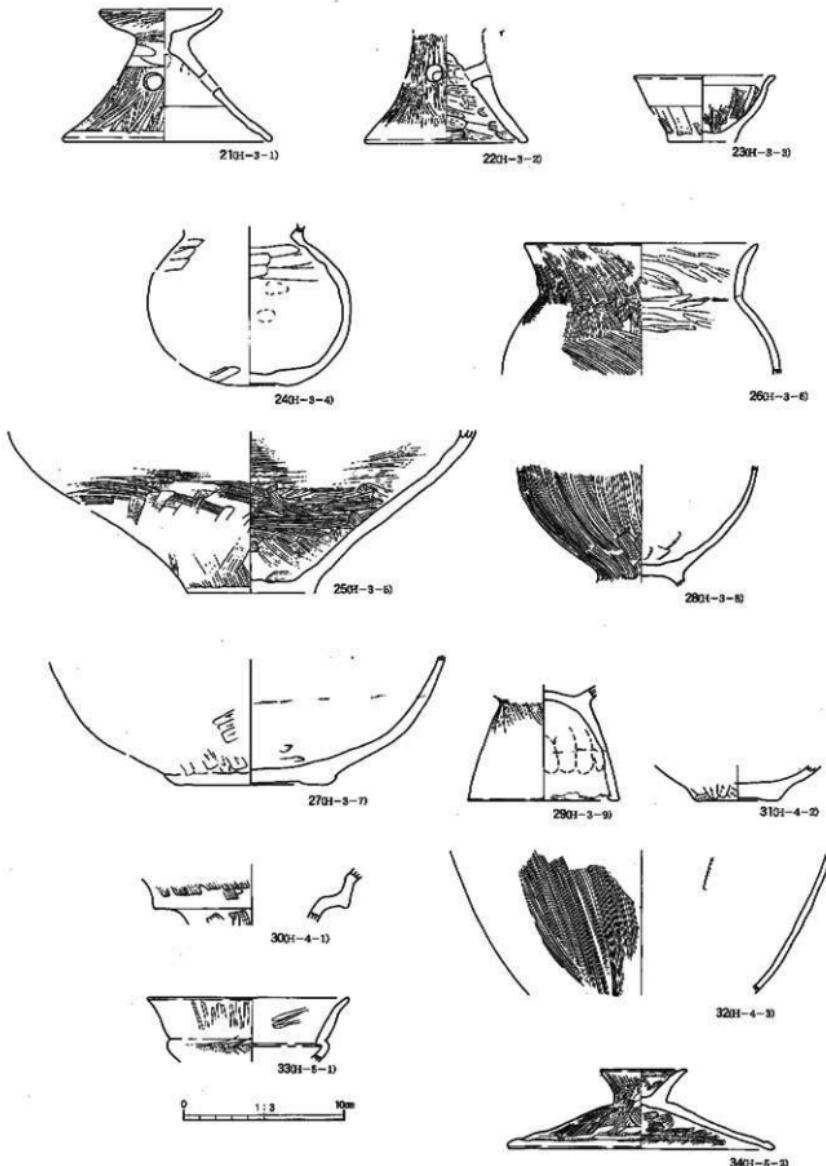
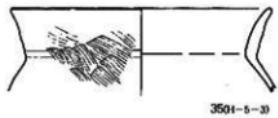
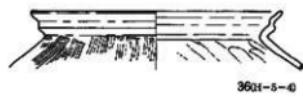


Fig. 46 H-3 ~ 5号住居跡出土遺物



3501-5-3



3601-5-4



3701-6-1



3801-6-2



3901-6-3



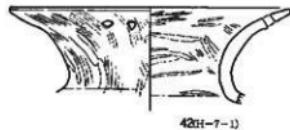
4001-6-4



4101-6-3



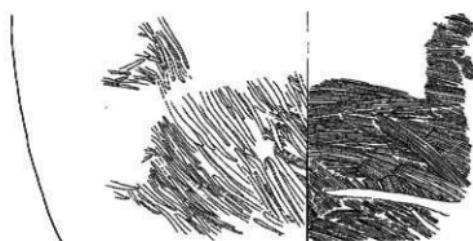
4401-7-3



4201-7-1



4301-7-2



4501-7-4

0 1:3 10cm
(35-36-37-38-39-40-41-42-43-44)

0 1:4 10cm
(45)

Fig.47 H—5~7号住居跡出土遺物

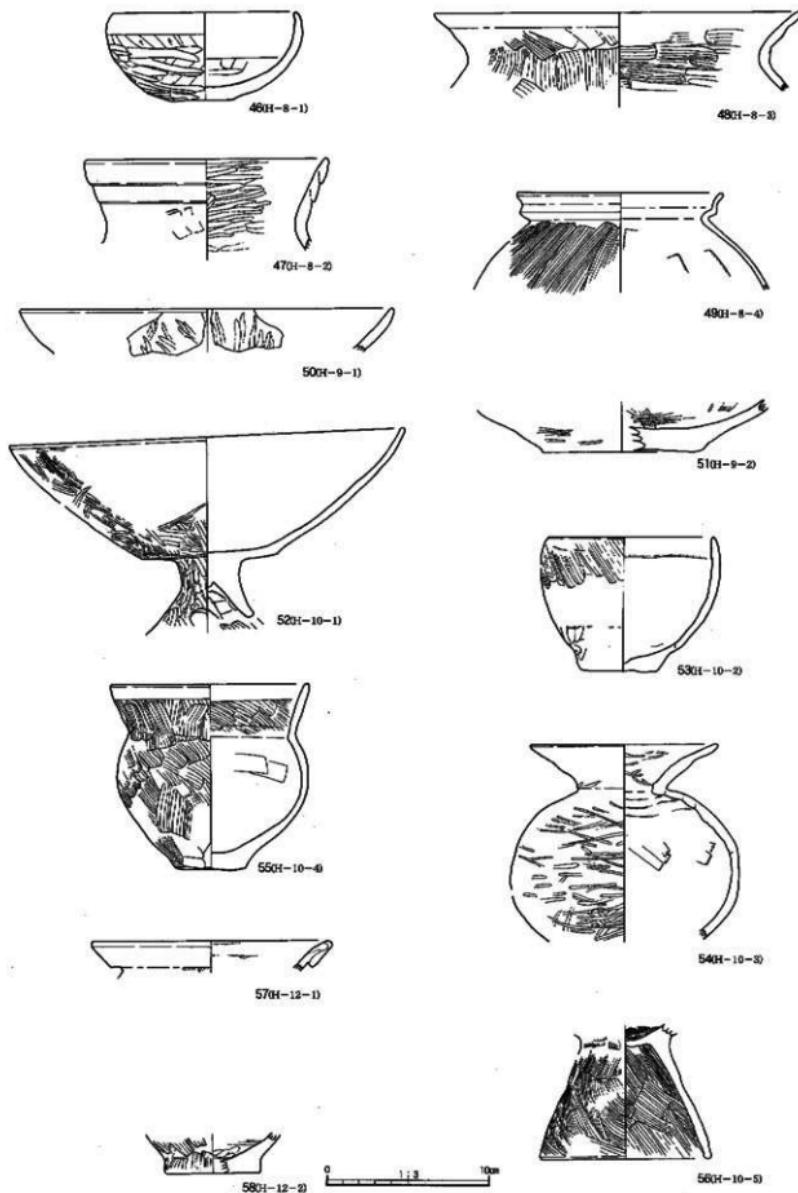
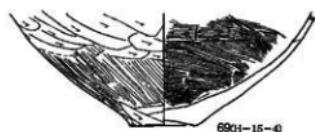
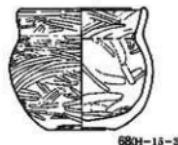
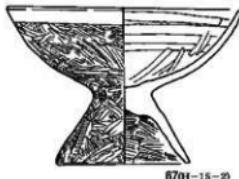
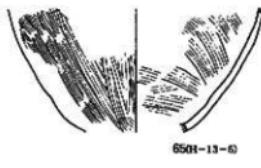
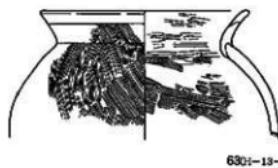
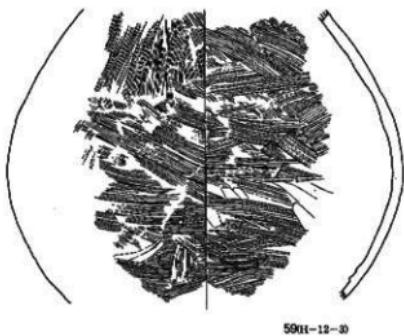
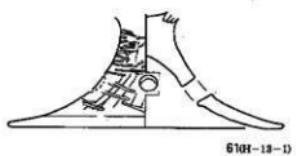


Fig. 48 H—8～10・12号住居跡出土遺物



0 1:3 10cm
(59·60·61·62·63·64·65·67·68·69)

0 1:4 10cm
(65·70)

Fig.49 H-12·13·15号住居跡出土遺物

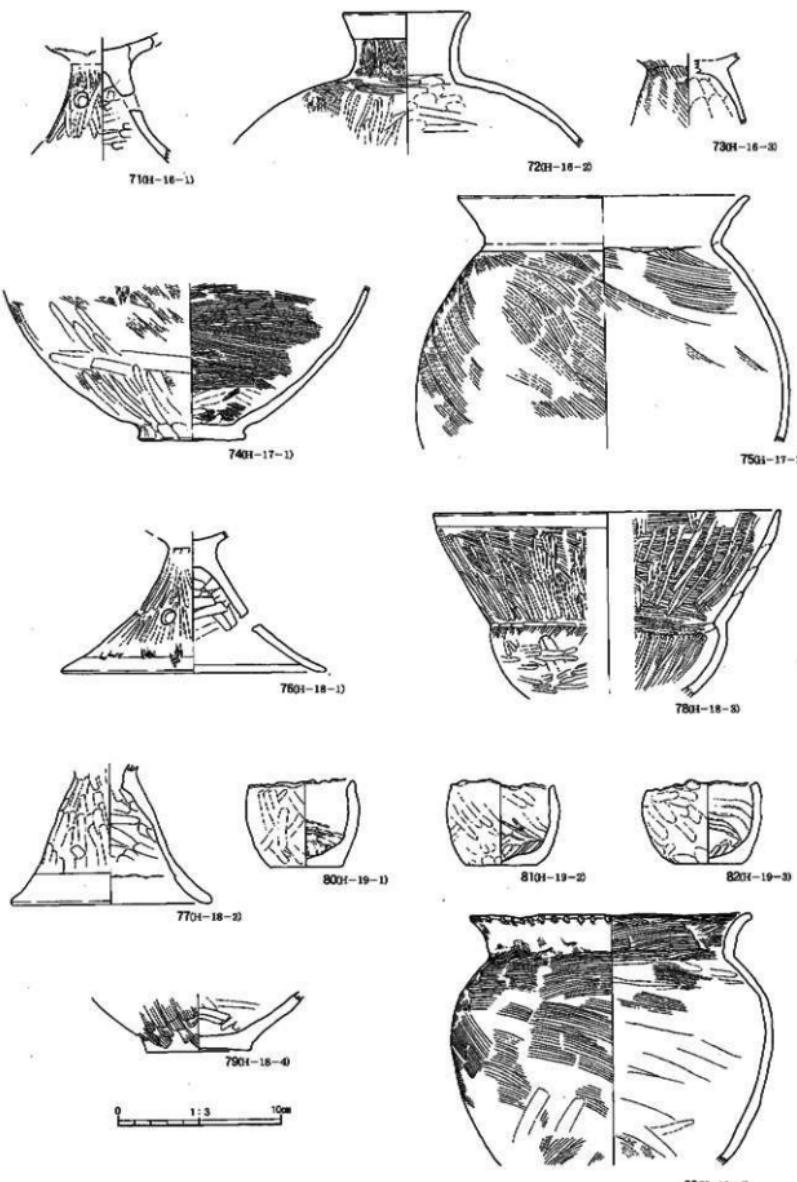


Fig.50 H-16~19号住居跡出土遺物

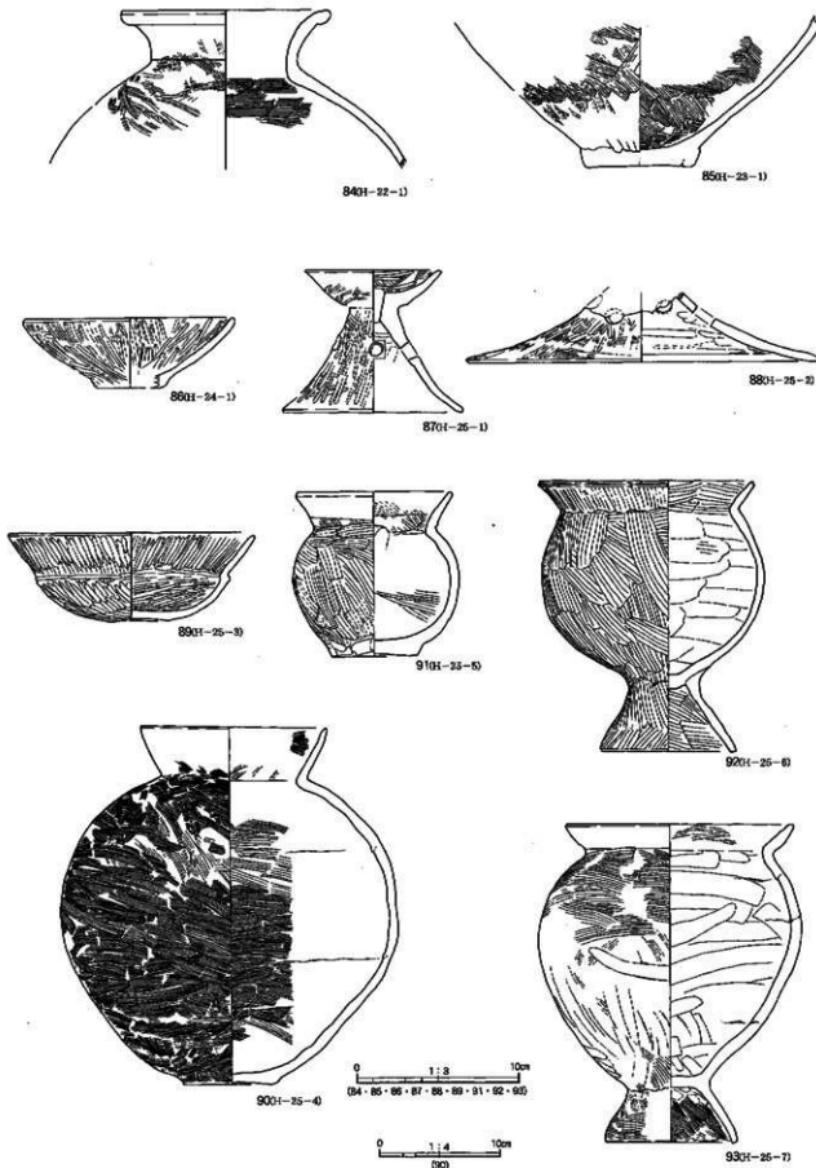


Fig.51 H-22~25号居跡出土遺物

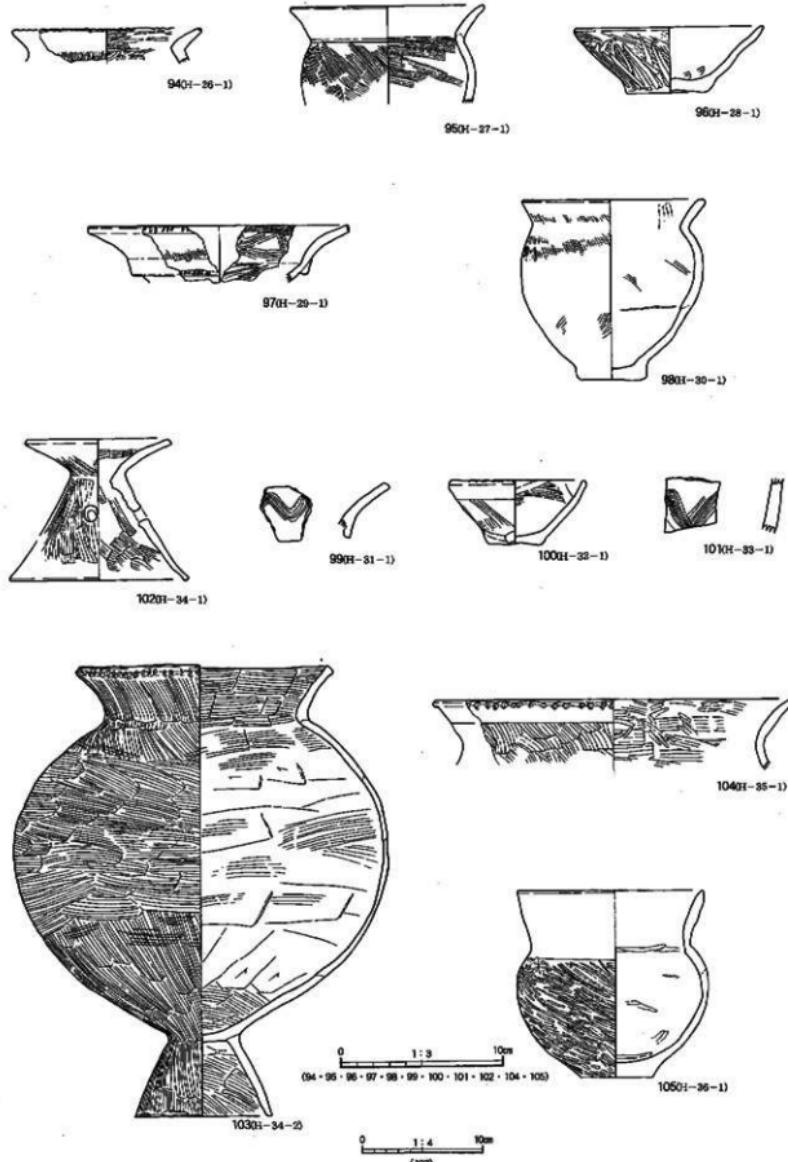


Fig.52 H-26~36号住居跡出土遺物

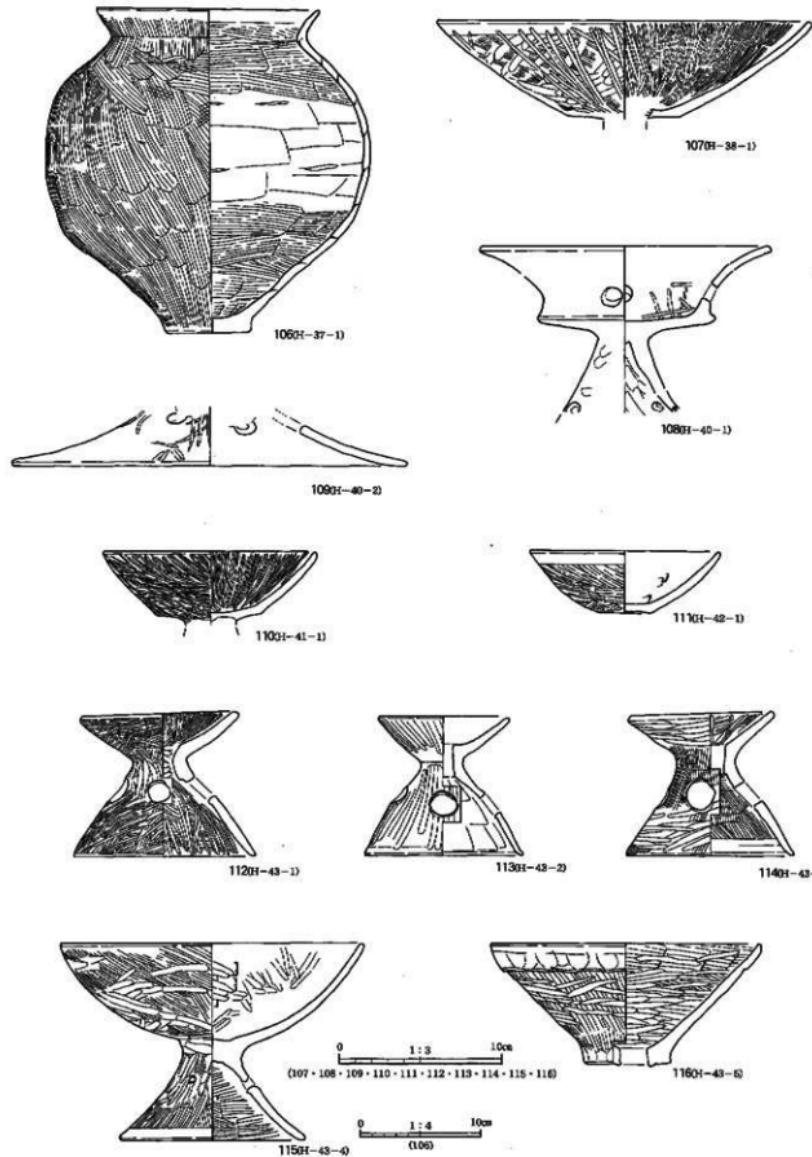
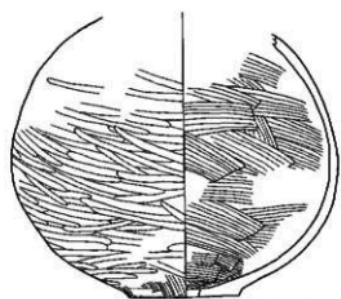
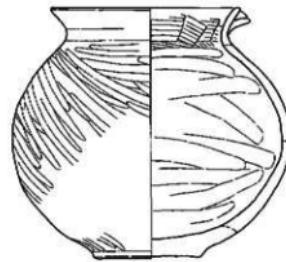
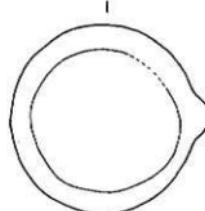


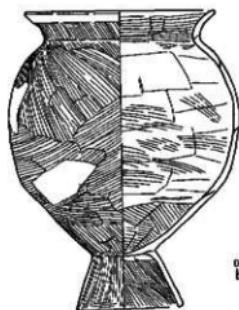
Fig.53 H-37・38・40～43号住居跡出土遺物



1170H-43-5



1180H-43-7



1190H-43-8

0 1:3
(118-120) 10cm

0 1:4
(117-118) 10cm



1200H-44-1

Fig.54 H-43・44号住居跡出土遺物

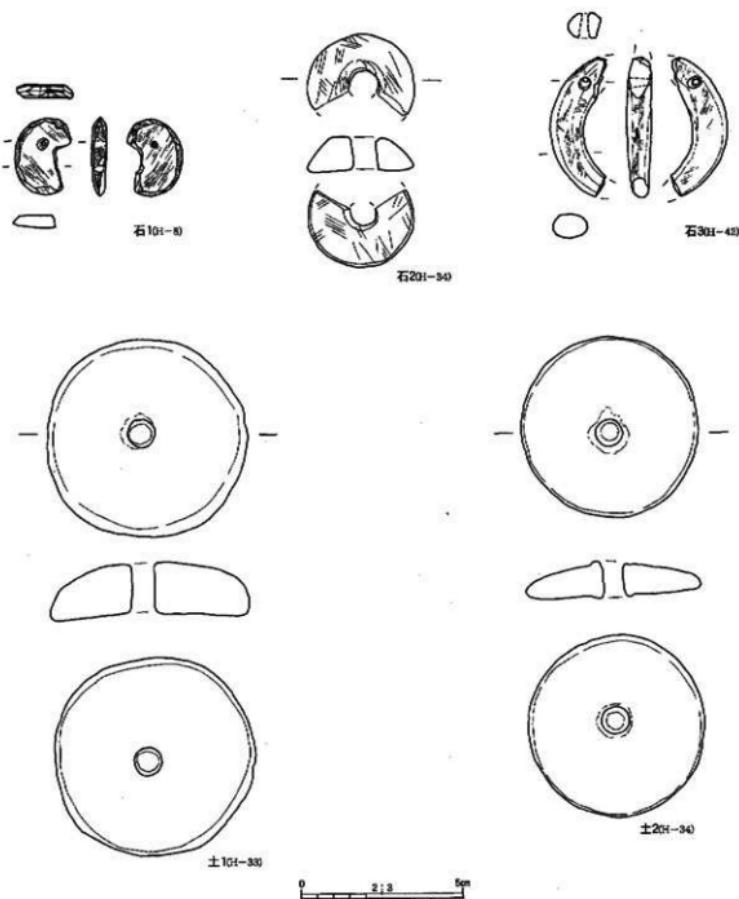


Fig.55 H-8・33・34・42号住居跡出土遺物



五代中原Ⅲ遺跡 調査区 西側（南から）



五代中原Ⅲ遺跡 調査区 東側（南から）



H-1号住居跡遺物出土状態全景（東から）



H-1号住居跡全景（東から）



H-1号住居跡炭化物出土状態（東から）



H-2号住居跡全景（南から）



H-2号住居跡遺物出土状態（南から）



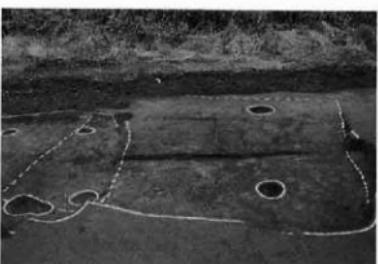
H-3号住居跡全景（北から）



H-3号住居跡遺物出土状態（西から）



H-4号住居跡全景（南から）



H-5号住居跡全景（南から）



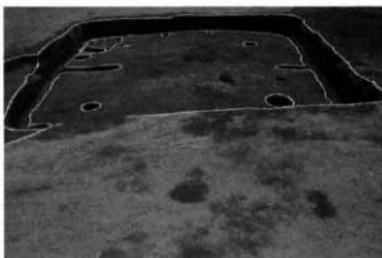
H-2・3・4・5号住居跡全景（北から）



H-6・7・8・9・14号住居跡全景（北から）



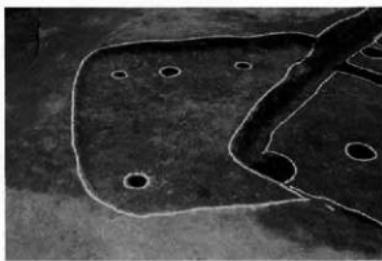
H-6・7号住居跡全景（西から）



H-8号住居跡全景（北から）



H-8号住居跡遺物出土状態（南から）
(石製模造品)



H-9号住居跡全景（北から）



H-10号住居跡全景（東から）



H-10号住居跡遺物出土状態（南から）



H-12・13号住居跡全景（南から）



H-13号住居跡遺物出土状態（北から）



H-15・16・17号住居跡全景（東から）



H-15号住居跡遺物出土状態（東から）



H-16号住居跡炭化物出土状態（西から）



H-17号住居跡遺物出土状態（西から）



H-18・19・20号住居跡全景（南から）



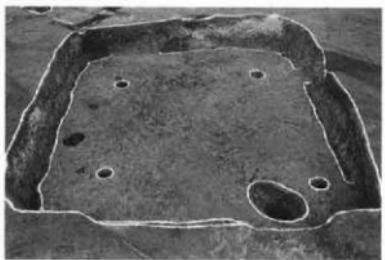
H-19号住居跡遺物出土状態（北から）



H-22・23号住居跡全景（北から）



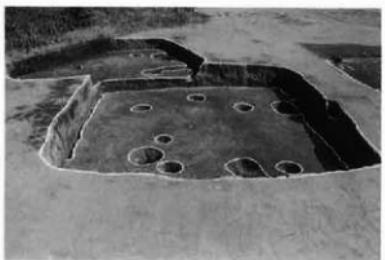
H-22号住居跡遺物出土状態（東から）



H-24号住居跡全景（南から）



H-22・23・24号住居跡全景（南から）



H-25・26号住居跡全景（西から）



H-25号住居跡遺物出土状態（南から）



H-27号住居跡全景 (南から)



H-28号住居跡全景 (東から)



H-28号住居跡炭化物出土状態 (東から)



H-28号住居跡遺物出土状態 (南から)



H-29・39号住居跡全景 (北から)



H-30号住居跡全景 (南から)



H-31号住居跡全景 (南から)



H-28・29・30・31号住居跡全景 (南から)



H-32号住居跡全景（西から）



H-33号住居跡全景（南から）



H-33号住居跡遺物出土状態（南から）



H-34号住居跡全景（北から）



H-34号住居跡遺物出土状態（西から）



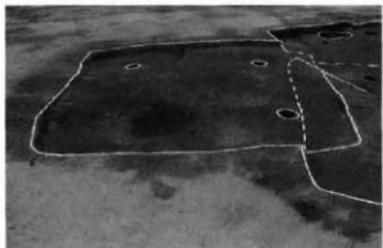
H-35号住居跡全景（北から）



H-36号住居跡全景（北から）



H-36号住居跡遺物出土状態（南から）



H-37号住居跡全景（北から）



H-37号住居跡遺物出土状態（東から）



H-35・36・37号住居跡全景（北から）



H-38号住居跡全景（北から）



H-38号住居跡遺物出土状態（西から）



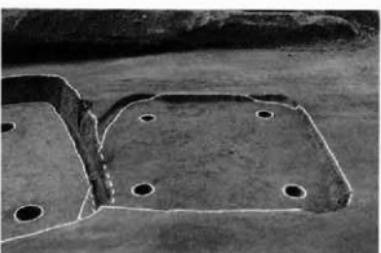
H-40号住居跡全景（東から）



H-40号住居跡遺物出土状態（北から）



H-41・42号住居跡全景（北から）



H-41号住居跡全景（北から）



H-42号住居跡全景（北から）



H-42号住居跡遺物出土状態（東から）



H-43号住居跡全景（北から）



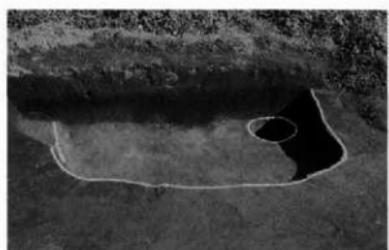
H-43号住居跡遺物出土状態（北から）



H-44号住居跡全景（北から）



H-44号住居跡遺物出土状態（南から）



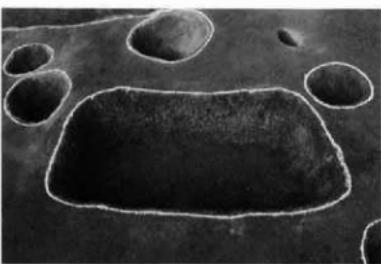
H-45号住居跡全景（西から）



D-1土坑全景（東から）



D-2土坑全景（南から）



D-6土坑全景（東から）

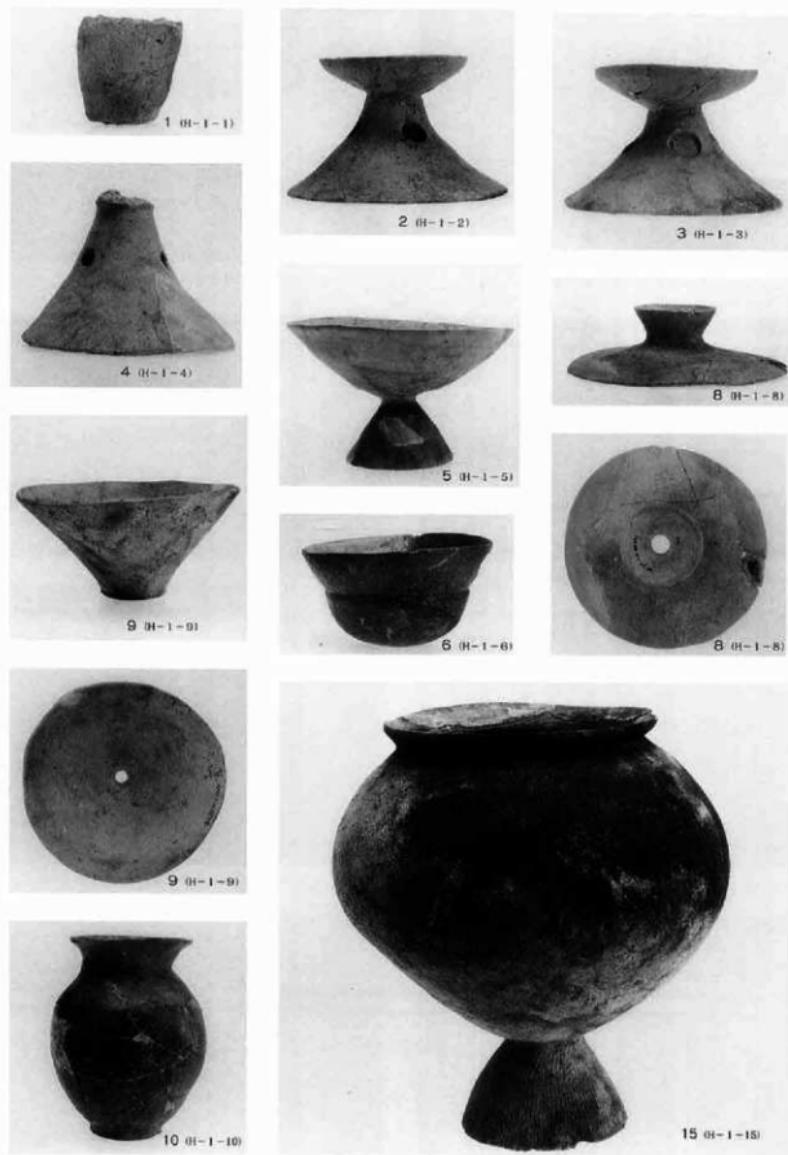


D-14土坑全景（東から）



発掘を終えて

P L.12





11 (H-1-11)



16 (H-1-16)



12 (H-1-12)



17 (H-1-17)



7 (H-1-7)



13 (H-1-13)



18 (H-2-1)

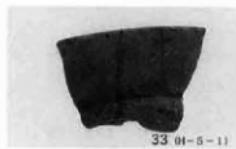
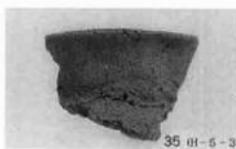
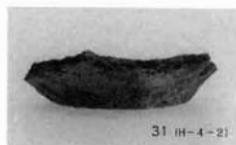
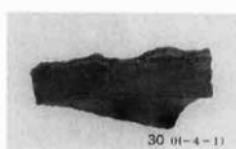
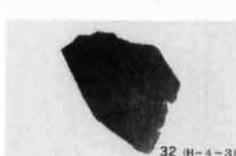
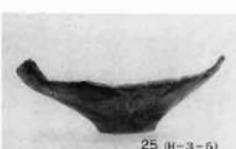


19 (H-2-21)



14 (H-1-14)

P L.14





38 (H-6-2)



39 (H-6-3)



40 (H-6-4)



41 (H-6-5)



42 (H-7-1)



43 (H-7-2)



44 (H-7-3)



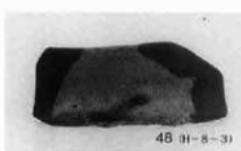
45 (H-7-4)



46 (H-8-1)



47 (H-8-2)



48 (H-8-3)



49 (H-8-4)



50 (H-9-1)



52 (H-10-1)



53 (H-10-2)



51 (H-9-2)



54 (H-10-3)

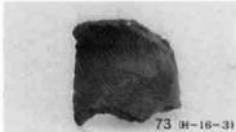
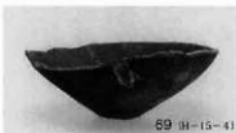
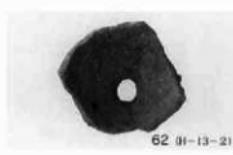
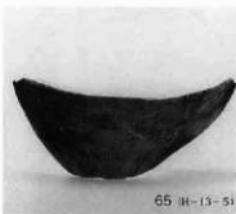
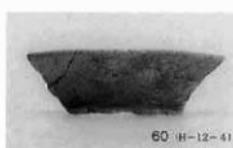


55 (H-10-4)



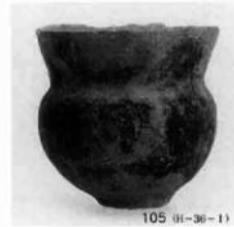
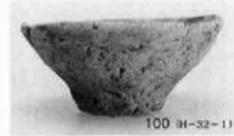
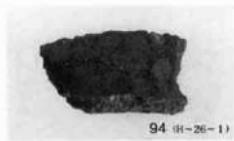
56 (H-10-5)

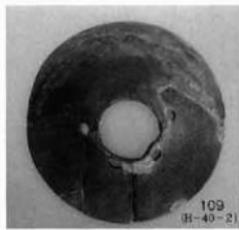
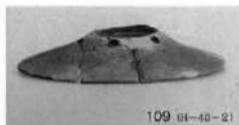
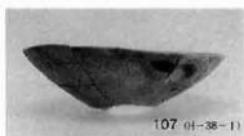
P L.16



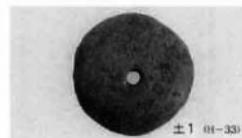


P L.18





P L.20



五代山街道 I 遺跡

五代山街道 II 遺跡

VI 五代山街道 I 遺跡・五代山街道 II 遺跡

1 遺構と遺物

【五代山街道 I 遺跡】

(1) 壊穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig.56、PL.22)

位置 X132~134、Y74~75グリッド 長軸方向 N-5°-E 形状等 円形と推測される。長径5.36m、短径4.80m、壁現高13cmを測る。面積 [19.94] m² 床面 平坦で堅緻な床面。炉 ほぼ中央に石組炉が検出されたが、石組はだいぶ崩れていた。長軸方向 [N-3°-E] で、長軸90cm、短軸48cmを測り、掘り込みはほとんど確認されなかった。重複 H-1と重複しており、新旧関係は本遺構→H-1の順である。時期 住居の形状や出土遺物から縄文時代前期（踏査期）と考えられる。出土遺物 総数25点。そのうち、深鉢2点、石錐1点を図示した。

J-2号住居跡 (Fig.57、PL.23)

位置 X128~129、Y78~79グリッド 長軸方向 N-51°-E 形状等 楕円形。長径 [5.10] m、南北4.58m、壁現高10cmを測る。面積 [19.19] m² 床面 平坦な床面。炉 中央南寄りに石組炉が検出され、長軸方向 N-47°-E、長軸46cm、短軸46cm、深さ14cmを測る。時期 住居の形状や出土遺物から縄文時代中期（加曾利E4期）と考えられる。出土遺物 総数10点。そのうち、深鉢2点、石錐1点を図示した。

J-3号住居跡 (Fig.58、PL.23)

位置 X125~127、Y77~78グリッド 長軸方向 N-100°-E 形状等 四角丸長方形。東西4.96m、南北3.90m、壁現高47cmを測る。面積 16.76m² 床面 平坦で堅緻な床面。炉 検出されず。埋設土器が2体検出された。時期 住居の形状や出土遺物から縄文時代前期（花積下層式期）と考えられる。出土遺物 総数206点。そのうち深鉢2点（埋設土器）、石錐？1点、石錐1点を図示した。

J-4号住居跡 (Fig.58、PL.23)

位置 X124~125、Y85~86グリッド 長軸方向 N-27°-E 形状等 円形。長径3.26m、短径2.82m、壁現高19cmを測る。面積 7.43m² 床面 平坦な床面。炉 検出されず。時期 住居の形状や出土遺物から縄文時代中期（加曾利E4期）と考えられる。出土遺物 総数62点。そのうち深鉢7点を図示した。

J-5号住居跡 (Fig.59、PL.23)

位置 X124~125、Y86~87グリッド 長軸方向 N-20°-W 形状等 円形。長径4.12m、短径4.06m、壁現高8cmを測る。面積 12.16m² 床面 平坦な床面。炉 ほぼ中央に地床炉が検出され、長軸方向 N-17°-W、長軸78cm、短軸75cm、深さ14cmを測る。時期 住居の形状や出土遺物から縄文時代中期（加曾利E4期）と考えられる。出土遺物 総数124点。そのうち、深鉢5点、石匙1点を図示した。

J-6号住居跡 (Fig.60・61、PL.24)

位置 X121~123、Y87~89グリッド 長軸方向 [N-2°-W] 形状等 円形。柄縫型になるか。長径 [7.48] m、短径 [7.12] m、壁現高 0 cm を測る。面積 [42.39] m² 床面 平坦な床面。炉の周りを中心に敷石が施されている。敷石の範囲はもう少し広かった可能性もあるが、遺構面までが浅かったこともあり詳細は不明。入り口と思われる付近から埋甕を検出。炉 敷石の中心付近に石組炉が検出され、長軸方向 N-23°-E、長軸 76cm、短軸 60cm、深さ 17cm を測る。炉の北寄りに仕切のような石があり、それを取り除くと下から扁平な川原石が検出された。時期 住居の形状や出土遺物から縄文時代中期（加曾利 E 4期）と考えられる。出土遺物 総数 123点。そのうち、深鉢 2点を図示した。

J-7号住居跡 (Fig.62、PL.24)

位置 X114~115、Y89~90グリッド 長軸方向 [N-43°-E] 形状等 円形と推定される。長径 [4.78] m、短径 [4.12] m、壁現高 (34) cm を測る。面積 [15.29] m² 床面 西に向かって床面が下がっている。原地形の影響か。炉 中央北寄りに焼土と炉の石組に使用されたと思われる石が検出されたが、残存状況悪。長軸方向 [N-120°-E]、長軸 [45] cm、短軸 [30] cm、深さ 8.5cm を測る。時期 住居の形状や出土遺物から縄文時代中期（加曾利 E 4期）と考えられる。出土遺物 総数 682点。そのうち、深鉢 6点、石錐 1点を図示した。

J-8号住居跡 (Fig.62、PL.24)

位置 X116~117、Y92~93グリッド 長軸方向 [N-2°-E] 形状等 円形と推定される。長径 [5.48] m、短径 [5.02] m、壁現高 (3) cm を測る。入り口に近いと思われる付近から埋甕を検出した。面積 [21.07] m² 床面 平坦で堅緻な床面。炉 中央西寄りより検出されたが、残存状況悪。長軸方向 [N-3°-E]、長軸 [80] cm、短軸 [70] cm、深さ 0 cm を測る。炉を構成していたと思われる石を 1点検出。時期 住居の形状や出土遺物から縄文時代中期と考えられる。出土遺物 総数 160点。そのうち、深鉢 1点、石錐 1点、打製石斧 1点を図示した。

J-9号住居跡 (Fig.63、PL.25)

位置 X113~114、Y92~93グリッド 長軸方向 N-16°-E 形状等 桶丸長方形。長径 4.90m、短径 3.50m、壁現高 51cm を測る。面積 15.61m² 床面 平坦で堅緻な床面。南壁付近がやや高くなり、入り口と推測される。炉 中央北寄りより石組の炉が検出され、長軸方向 N-3°-E、長軸 43cm、短軸 36cm、深さ 4 cm を測る。時期 住居の形状や出土遺物から縄文時代前期（関山期）と考えられる。出土遺物 総数 6点。そのうち、深鉢 5点、磁石 1点を図示した。

H-1号住居跡 (Fig.64、PL.22・25)

位置 X132~133、Y75~76グリッド 主軸方向 N-8°-W 形状等 長方形。東西 3.90m、南北 3.00m、壁現高 68cm を測る。面積 11.17m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 北壁中央より検出され、主軸方向が N-8°-W であり、全長 98cm、最大幅 120cm、焚口部幅 36cm を測る。粘土を構築材として使用している。時期 埋土や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。出土遺物 総数 27点。そのうち磁石 1点、紡錘車 1点を図示した。出土遺物のほとんどは、土器の小破片や流れ込んだ縄文の土器片で、遺物が極端に少ないことが特筆される。

H-2号住居跡 (Fig.64、PL.25)

位置 X129~130、Y71~72グリッド 主軸方向 N-63°-E 形状等 方形。東西 3.28m、南北 3.00m、壁現

高28cmを測る。面積 9.34m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央南寄りより検出され、主軸方向N-65°-Eであり、全長62cm、最大幅50cm、焚口部幅22cmを測る。粘土を構築材として使用している。時期 埋土や出土遺物から9世紀と考えられる。出土遺物 総数64点。そのうち、壺1点、甕1点を図示した。

H-3号住居跡 (Fig.65, PL.25)

位置 X118-119、Y94-95グリッド 主軸方向 N-65°-W 形状等 長方形と推定される。東西(2.72)m、南北2.98m、燧窓高52cmを測る。面積 (6.26) m² 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。竈 住居の半分が調査区外であったため検出されず。時期 埋土や出土遺物から9世紀と考えられる。出土遺物 総数61点。そのうち、甕1点を図示した。

(2) 掘立柱建物跡

B-1号掘立柱建物跡 (Fig.65, PL.25)

位置 X71-72、Y174-176グリッド 形状 東西2間(3.64m)×南北2間(4.56m)の長方形で、長軸方向はN-7°-W、推定面積16.6m²である。柱間寸法は東西1.73+1.91m、南北2.32+2.24mである。柱穴 平面は円形を呈し、円筒形をしている。径は36~58cm、深さ18~47cmである。時期 柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから9~10世紀と考えられる。遺物 本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

(3) 土坑 (Fig.59・61, PL.26)

Tab.3 土坑計測表を参照のこと。

なお、D-4の深鉢2点、D-5の深鉢2点、D-6の深鉢3点、D-7の深鉢3点と敲石1点、D-8の深鉢2点と石錐1点を図示した。

(4) グリッド等出土遺物

小破片を含め総数1,145点の遺物を出土した。そのうち、尖頭器1点、石匙1点を図示した。

【五代山街道II遺跡】

(1) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.66、PL.28)

位置 X101～103、Y116～119グリッド 方位 調査区北壁よりN-35°-Eの方向で南へ75m進み、擾乱でいつたん切られ、同方向で再び南へ65m進み、擾乱によつかり途切れる。 形状等 断面はU字形を呈し、上幅64～130cm、長さ(140)mを測る。 時期 埋土や出土遺物から近世と考えられる。 出土遺物 総数3点。

(2) 土 坑 (Fig.67、PL.27・28)

Tab.3 土坑計測表を参照のこと。

なお、D-5で3点、D-6で3点、D-7で8点、D-8で2点、D-9で3点、D-11で5点の深鉢の破片を図示した。

(3) グリッド等出土遺物

小破片を含め総数29点の遺物が出土した。そのうち、深鉢2点を図示した。

Tab.9 五代山街道I遺跡住居跡一覧表

遺構名	規模(m)		面積(m ²)	主軸方向	炉・竈 位置・素材等	周溝	出土遺物
	東西 (東柱)	南北 (西柱)					
J-1	5.36	4.80	0.13	[19.94]	N-5°-E	炉跡：中央・石組炉跡	深鉢・石鏡
J-2	[5.10]	4.58	0.10	[19.19]	N-51°-E	炉跡：中央南寄り・石組炉跡	深鉢・石鏡
J-3	4.96	3.90	0.47	16.76	N-100°-E	検出されず	深鉢・石鏡？・石鏡
J-4	3.26	2.82	0.19	7.43	N-27°-E	検出されず	深鉢
J-5	4.12	4.06	0.08	12.16	N-20°-W	炉跡：中央・地床炉跡	深鉢・石匙
J-6	(7.48)	(7.12)	0.06	[42.39]	[N-2°-W]	炉跡：中央・石組炉跡 炉跡の北寄りに仕切石	深鉢
J-7	[4.78]	[4.12]	0.30	[15.29]	[N-43°-E]	炉跡：中央北寄り 残存状況悪	深鉢・石鏡
J-8	[5.48]	[5.02]	0.05	[21.07]	[N-2°-E]	炉跡：中央西寄り 残存状況悪	深鉢・石鏡・打脱石斧
J-9	4.90	3.50	0.51	15.61	N-16°-E	炉跡：中央北寄り・石固い炉跡	深鉢・砥石
H-1	3.90	3.00	0.68	11.17	N-8°-W	竈跡：北壁中央・粘土	× 砕石・紡錘車
H-2	3.28	3.00	0.28	9.34	N-63°-E	竈跡：東壁中央南寄り・粘土	× 壊・甕
H-3	(2.72)	2.98	0.52	(6.26)	N-65°-W	検出されず	○ 甕

Tab.10 五代山街道I遺跡土坑計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物等
D-1	X133 Y74	126	113	30	橢円形	
D-2	X132 Y77・78	182	150	24	橢円形	
D-3	X129・130 Y78	142	139	52	円形	
D-4	X124 Y86・87	148	114	70	橢円形	深鉢
D-5	X124・125 Y87	103	94	55	橢円形	深鉢
D-6	X119 Y84	137	132	32	橢円形	深鉢
D-7	X119 Y85・86	153	140	103	橢円形	深鉢・敲石
D-8	X116 Y94・95	184	168	90	橢円形	深鉢・石鏡

Tab.11 五代山街道II遺跡測量表

遺構名	位 置	長さ (m)	深さ (cm)	上幅 (cm)		方 位	形 状
				最大	最小		
W-1	X101~103 Y116~119	16.3	39	130	64	N-35°-E	橢円形

Tab.12 五代山街道II遺跡土坑計測表

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物等
D-1	X100・101 Y117・118	300	170	66	橢円形	
D-2	X100・102 Y117・118	126	112	28	橢円形	
D-3	X99 Y117	120	112	48	不整形	
D-4	X99・100 Y118	103	93	35	橢円形	
D-5	X100 Y120・121	215	116	42	橢円形	深鉢
D-6	X98 Y119・120	162	90	21	不整形	深鉢
D-7	X99 Y122	140	96	65	橢円形	深鉢
D-8	X99 Y122	110	87	40	橢円形	深鉢
D-9	X97・98 Y120・121	263	228	45	橢円形	深鉢
D-10	X96 Y118	149	127	44	橢円形	
D-11	X101・102 Y119	187	126	25	橢円形	深鉢

Tab.13 五代山街道Ⅰ遺跡縄文時代出土遺物観察表

番号	出土位置	器形	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存 ⑤大きさ	文様・成型方法	備考
1	J-1-1	深鉢	①中粒 ②良好 ③にぼい褐色 ④胴部	半裁竹管による爪彫文。	踏張a
2	J-1-2	深鉢	①中粒 ②良好 ③にぼい褐色 ④胴部	条線文。	踏張b
3	J-2-1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④胴部	縦縞による区画。縄文LR。	加曾利E 4
4	J-2-2	深鉢	①中粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④胴部	胎土に横縞を含む。縄文。	黒浜?
5	J-3-1	深鉢	①中粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④胴部 ⑤高さ(25.0)	胎土に横縞を含む。胴部下半がやや膨らみを持つ。0段多縞による羽状文様。埋設土器。	花模下層
6	J-3-2	深鉢	①中粒 ②良好 ③にぼい褐色 ④口縁～胴部 ⑤口径(27.8)、高さ(29.7)	胎土に横縞を含む。口縁は平縦で折り返し口縁となる。折り返し部分RL純文、胴部にLR・RLによる羽状縄文。埋設土器。	花模下層
7	J-4-1	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙色 ④口縁～胴部	口縁は内湾する。山形突起を持つ。口縁部に無文帯が区画される。胴部は沈縞(U字形?)で文様帯を区画。縄文LR。	加曾利E 4
8	J-4-2	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙色 ④口縁～胴部 ⑤口径(27.7)	口縁は内湾する。波状口縁? 口縁部に無文帯が区画される。胴部はU字形に沈縞を描き文様帯を区画。縄文LR。	加曾利E 4
9	J-4-3	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④口縁～胴部	口縁は内湾する。山形突起? 口縁部に無文帯が区画される。胴部は條縞で文様帯を区画。縄文LR。	加曾利E 4
10	J-4-4	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④口縁～胴部 ⑤口径(31.4)	口縁は内湾する。山形突起を持つ。口縁部に無文帯が区画される。胴部は沈縞(U字形?)で文様帯を区画。縄文RL。	加曾利E 4
11	J-4-5	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④口縁部	口縁は平縦で無文帯が区画される。胴部に幾位の隆縞で文様帯を区画。縄文RL。	加曾利E 4
12	J-4-6	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙色 ④胴部	沈縞(U字形?)で文様帯を区画。縄文RL。	加曾利E 4
13	J-4-7	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙色 ④胴部	横位の条縞文。下部に縦文。	踏張a?
14	J-5-1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④口縁部	口縁部に無文帯が区画される。縄文LR。	加曾利E 4
15	J-5-2	深鉢	①細粒 ②良好 ③明黄褐色 ④胴部	沈縞で文様帯を区画。縄文LR。	加曾利E 4
16	J-5-3	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④胴部	幾位の隆縞で文様帯を区画。縄文LR。	加曾利E 4
17	J-5-4	深鉢	①細粒 ②良好 ③明黄褐色 ④胴部	横位の条縞文。	踏張a?
18	J-5-5	深鉢	①中粒 ②良好 ③橙色 ④胴部	胎土に横縞を含む。羽状彫文。	黒浜?
19	J-6-1	深鉢	①細粒 ②良好 ③黄褐色 ④口縁～底部 ⑤口径25.6、高さ(32.4)	口縁は内湾し、胴部半ばで折れ、底部はすぼまる。口縁部に無文帯が区画される。胴部はW字形に沈縞を描き文様帯を区画。縄文LR、埋設土器。	加曾利E 4
20	J-6-2	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙色 ④口縁～胴部	口縁がやや膨らむ。口縁部に隆縞で文様帯を区画。	加曾利E 4
21	J-7-1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④口縁～胴部 ⑤口径(19.1)	口縁は平縦で内湾し、無文帯を持つ。把手が付く所に付く(全体で4箇所)。胴部に縦縞でU字状に文様帯を区画。縄文LR。	加曾利E 4
22	J-7-2	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④口縁～胴部 ⑤口径(20.9)	口縁は平縦で内湾し、無文帯を持つ。把手が付くと思われる。胴部にU字形に文様帯を区画。縄文LR。J-7-1と同一個体か。	加曾利E 4
23	J-7-3	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④胴部	把手が付くと思われる。縄文LR。	
24	J-7-4	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙色 ④胴～直縫 ⑤高さ(15.5)	縦縞による区画?	
25	J-7-5	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい橙色 ④胴～底部 ⑤高さ(21.5)	隆縞による文様帯区画。縄文LR。	
26	J-7-6	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④胴～底部 ⑤高さ(10.5)	縦方向の条縞。	
27	J-8-1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい黄褐色 ④胴部～底部 ⑤高さ(44.0)	把手が2箇所に付くと思われる。埋設土器。	
28	J-9-1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぼい橙色 ④口縁部	胎土に結晶片岩を含む。口唇部、口縁部に格子帶压痕。	茅山上層
29	J-9-2	深鉢	①中粒 ②良好 ③橙色 ④口縁部	胎土に横縞を含む。コンパス文。	岡山
30	J-9-3	深鉢	①中粒 ②良好 ③にぼい橙色 ④口縁部	胎土に横縞を含む。墨朱文。	種荷原

番号	出土位置	器形	①胎土	②焼成	③色調	④残存	⑤大きさ	文様・成型方法	備考
31	J-9-4	深鉢	①中粒	②良好	③暗褐色	④胴部		胎土に鐵鉄を含む。羽状織文。	関山?
32	J-9-5	深鉢	①中粒	②不良	③にぼい黄褐色	④胴部		胎土に鐵鉄を含む。羽状織文。	関山?
33	D-4-1	深鉢	①細粒	②良好	③明黄褐色	④口縁部		口縁は平縁で内側し、無文帯を持つ。織文 RL。	加曾利E 4
34	D-4-2	深鉢	①細粒	②良好	③黒褐色	④胴部		施帯で文様帯を区画。織文 RL。	加曾利E 4
35	D-5-1	深鉢	①細粒	②良好	③にぼい褐色	④胴部		織文 RL。	
36	D-5-2	深鉢	①細粒	②良好	③にぼい黄褐色	④胴部		織文 RL。D-5-1と同一個体か。	
37	D-6-1	深鉢	①細粒	②良好	③にぼい黄色	④胴部		施帯で文様帯を区画。織文 RL。	加曾利E 4
38	D-6-2	深鉢	①細粒	②良好	③にぼい黄色	④胴部		織文 RL。	
39	D-6-3	深鉢	①細粒	②良好	③橙色	④胴部		織文 RL。	
40	D-7-1	浅鉢	①細粒	②良好	③にぼい黄褐色	④口縁～胴部		口縁は内側し、口縁部に刻み目。把手が付くと思われる。胴部はU字状の沈線で文様帯を区画。織文 LR。	加曾利E 4
41	D-7-2	深鉢	①細粒	②良好	③にぼい黄褐色	④胴部		U字状・J字状の沈線で文様帯を区画。織文 LR。	加曾利E 4
42	D-7-3	深鉢	①細粒	②良好	③にぼい黄褐色	④胴部～肩部		沈線でU字状に文様帯を区画。織文 LR。	加曾利E 4
43	D-8-1	深鉢	①細粒	②良好	③にぼい黄褐色	④口縁～肩部		波状口縁で内側し、口縁部に無文帯が区画される。肩部は沈線でU字状に文様帯を区画。織文 RL。	加曾利E 4
44	D-8-2	深鉢	①細粒	②良好	③にぼい黄褐色	④胴部		口縁が内側すると思われる。沈線でU字状に文様帯を区画。織文 RL。	加曾利E 4

注) ①口径・肩径・底径・高さの単位はcmである。実寸値を()、復元値を[]で示した。

②胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な混入物がある場合それを記載した。

③焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

④色調は土器外面で観察し、色名は新訂標準土色表(小山・竹原1976)によった。

Tab.14 五代山街道I遺跡石器観察表

No.	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
1	J-1	石鎌	(1.7)	(1.6)	0.4	0.7	黒曜石	凹基無茎鎌 基部・先端部一部欠損 基部わずかに抉れる
2	J-2	石鎌	(1.8)	(1.6)	0.4	0.8	黒曜石	凹基無茎鎌 基部一部欠損 基部わずかに抉れる
3	J-3	石鎌?	4.0	1.1	0.5	1.9	黒色頁岩	石鎌と同様な加工が施される
4	J-3	石鎌	(3.6)	(1.4)	(0.7)	3.3	黒色頁岩	つまみ部欠損
5	J-5	石匙	(3.5)	(3.8)	(0.8)	7.2	黒色頁岩	横彫 刃部一部欠損
6	J-7	石鎌	(4.2)	(3.4)	0.6	6.2	黒色安山岩	つまみ部欠損
7	J-8	石鎌	(2.8)	(0.8)	(0.5)	1.0	黒色頁岩	つまみ部欠損
8	J-8	打製石斧	10.6	6.3	1.9	137	黒曜石	完形 分銅形
9	J-9	砸石	(6.6)	(4.7)	2.4	65.5	砂岩	長橢円形 1/2残存 勾玉づくり等に使用か
10	D-7	敲石	10.1	8.4	5.0	603	粗粒安山岩	円形両面及び側面に敲打痕有
11	D-8	石鎌	1.8	1.7	0.3	0.6	黒色安山岩	凹基無茎鎌 基部わずかに抉れる
12	表採	尖頭器	5.9	2.3	0.9	10.8	硬質頁岩	草創期か?
13	表採	石匙	4.3	(5.2)	0.6	8.9	黒色頁岩	先端部わずかに欠損 斜めにつまみ

注) 長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab.15 平安時代出土遺物観察表

番号	遺物名・形態	器種	①寸幅	②底	③土色	④色調	⑤形状	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H-2-1 床直 土器	杯	① 12.0	② 細粒③良好	④ 深褐色	⑤ 橙色	⑥ 圓底	体部：表面に外彫。口縁部弱い横張で、指押さえ。底部：平底。荒削り。	
2	H-2-2 床直 土器	甕	① 19.5	② 細粒③良好	④ 深褐色	⑤ 橙色	⑥ 圓底	口縁部：「コ」の字彫。横張で。底部：外面削削り。内面窓底で。底部：丸底。	
3	H-3-1 床直 土器	甕	① 26.3	② 細粒③良好	④ 深褐色	⑤ 橙色	⑥ 圓底	下欠損。口縁部：「コ」の字彫。強張で。底部：外面削削り。内面窓底で。	

注) ①層位は、「床直」；床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」；床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。戦内の検出については「戦内」と記載した。

②寸径、高さの単位はcmである。現存値を()、復元値を[]で示した。

③土色は、褐色(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な遺物が入る場合に遺物名等を記載した。

④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は土器外表面で観察し、色名は新規標準土色板(小山・竹原1976)によった。

Tab.16 五代山街道Ⅰ石製品観察表

N	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
1	H-1	砾石	14.1	5.6	4.4	604	凝灰岩	完形
2	H-1	紡錘車	4.6	4.6	2.3	61.5	滑石	完形

注) 長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab.17 五代山街道Ⅱ遺跡観文時代出土遺物観察表

番号	出土位置	器種	①底土	②焼成	③色調	④残存	文様・成型方法	備考
1	D-5-1	深鉢	①中粒	②良好	③橙色	④口縁部	内側に張り出しを持つ。	荒町?
2	D-5-2	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい橙色	④胴部	縦位沈線文。	
3	D-5-3	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい赤褐色	④胴部	沈線文。	
4	D-6-1	深鉢	①中粒	②良好	③橙色	④口縁部	口縁に山形の突起を持つ。突起に沿って縦帶貼付。	堅板?
5	D-6-2	深鉢	①中粒	②良好	③赤褐色	④口縁部	無文。	
6	D-6-3	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい褐色	④胴部	胎土に蟹印片を含む。結節沈線。	阿玉台
7	D-7-1	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい褐色	④口縁部	胎土に蟹印片を含む。縦帯による区画。結節沈線。	阿玉台
8	D-7-2	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい褐色	④口縁部	縦帯による区画。縦文 RL。	堅板
9	D-7-3	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい褐色	④胴部	縦位に5本単位の条線文。	
10	D-7-4	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい赤褐色	④胴部	交互刺突。横位の沈線。縦文 LR。	堅板 3
11	D-7-5	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい赤褐色	④胴部	沈線文。	浜町?
12	D-7-6	深鉢	①中粒	②良好	③明赤褐色	④胴部	沈線文。	浜町?
13	D-7-7	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい褐色	④胴部	沈線文。	
14	D-7-8	深鉢	①中粒	②良好	③橙色	④胴部	浮線文(模状?)。	堅板 b
15	D-8-1	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい褐色	④胴部	縦帯による区画。縦方向、円形、斜め方向に沈線。	浜町?
16	D-8-2	深鉢	①中粒	②良好	③橙色	④縫り?	縫りの一部。	
17	D-9-1	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい赤褐色	④底座	胎土に蟹印片を含む。	阿玉台?
18	D-9-2	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい褐色	④胴部	浮線文。	堅板 b
19	D-9-3	深鉢	①中粒	②良好	③暗赤褐色	④胴部	胎土に蟹印片を含む。結節沈線。	阿玉台
20	D-11-1	深鉢	①中粒	②良好	③赤褐色	④胴部	横位の沈線。縦文 LR。	
21	D-11-2	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい褐色	④縫り?	縦帯を円形に貼付して刺み目を施す。	堅板?
22	D-11-3	深鉢	①中粒	②良好	③橙色	④口縁部	口縁に刺突。2本の横位の沈線。	
23	D-11-4	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい褐色	④口縁部	2本の横位の沈線。	
24	D-11-5	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい褐色	④口縁部	横位の沈線。縦文 LR。	
25	X100Y120-1	深鉢	①中粒	②良好	③にぼい赤褐色	④口縁部	縦帯で区画。区画内に4本の横位の沈線。	堅板?
26	X100Y120-2	深鉢	①中粒	②良好	③暗色	④口辺部	縦帯貼付。刺み目。胴部に横位の条線。	浜町?

注) ①底土は、粗粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な混入物がある場合それを記載した。

②焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

③色調は土器外表面で観察し、色名は新規標準土色板(小山・竹原1976)によった。

2 考 察

今回の調査の結果、五代山街道Ⅰ遺跡では、堅穴住居跡9軒、掘立柱建物跡1軒、土坑8基を検出し、五代山街道Ⅱ遺跡では、土坑11基を検出した。ここでは、縄文時代と奈良・平安時代の2つの時代に分け、特に縄文時代を中心考察を述べることとしたい。

(1) 縄文時代

検出された遺構は、五代山街道Ⅰ遺跡で縄文時代前期堅穴住居跡3軒、縄文時代中期堅穴住居跡6軒、同じく中期土坑8基、五代山街道Ⅱ遺跡で縄文時代中期土坑11基である。

前期堅穴住居跡はJ-1、3、9号住居跡の3軒である。J-1号住居跡からは、蓄磯a式・b式土器の深鉢の破片が出土した。石組炉を持つが、石組は少し乱れており、焼土の検出も少な目であった。J-3号住居跡からは、炉は検出されなかったが、住居中央に2つの埋設土器が検出された。2つの土器は80cm程離れて並んで埋設されており、双方とも底部は欠損していた。双方とも花積下層式の深鉢と考えられる。埋土からは黒曜石の細かい破片が多数検出された。J-9号住居跡では、しっかりととした石組炉が住居中央や北寄りから検出された。関山式の土器片の他、茅山上層式、稻荷原式の土器片も見られ、早期に近い時期とも考えられる。J-3号住居跡とJ-9号住居跡は隅丸長方形のプランを持ち、住居跡の形状からも前期的要素が窺える。ただし、これら3軒の住居跡は前期に属すると思われるものの同じ形式の土器は出土しておらず、同時期に存在したとは考えにくい。土器形式から考えると、J-9号住居跡、J-3号住居跡、J-1号住居跡の順に新しくなっていく可能性が高いと思われる。

中期の遺構は、五代山街道Ⅰ遺跡のJ-2、4、5、6、7、8号住居跡とD-1～8号土坑、五代山街道Ⅱ遺跡のD-1～11号土坑である。J-2号住居跡からはしっかりととした石組炉が住居の中央や南寄りから検出された。4つの川原石を用い、ほぼ正方形に組まれている。加曾利E4式の土器片が出土している。J-4号住居跡からは加曾利E4式の深鉢の破片が多数出土した。J-4号住居跡のすぐ南に位置するJ-5号住居跡からも同じく加曾利E4式の土器片が出土している。J-4・5号住居とも床面まで浅く、明確な炉等は検出されなかつた。

J-5号住居跡から7m程南西に位置するJ-6号住居跡は敷石住居である。遺構面まで浅かったことと、付近に住宅が建っていたことによる擾乱が随所に入っていたため、敷石の残りは決してよくなかったが、長方形に組まれた炉が比較的よい状態で検出された。炉は割石で組まれており、炉の中央北寄りを石で仕切られていた。仕切りの石を取り除くと、下から扁平な川原石が検出された。この住居跡からは埋設土器も検出されており、炉と埋設土器を結んだ一直線上の南側にやや高まった部分が見られ、その部分が入り口になると思われる。埋設土器は加曾利E4式の深鉢で、口縁部が欠損していたが、脚部から底部まではほぼ完形で検出された。

J-7号住居跡は、台地の縁辺部に位置し、地形自体が西に傾いているためか、遺構の床面も西にやや傾いた状態で検出された。炉の痕跡と思われる焼土も検出されたが残りが悪く、明確な炉の形は判明しなかった。加曾利E4式の土器片が多数出土している。J-8号住居跡は遺構面まで浅く、残りが大変悪かったが、炉跡と思われる焼土がかろうじて検出された。壁の立ち上がりは住居北側のごく一部しか確認できなかつた。川原石が多く検出されたことから、敷石のような施設を持っていた可能性もあるが、現在の検出状況からは判明しなかつた。住居南側から、深鉢の下部約3分の1が埋没した状態で埋設土器が検出された。

本遺跡の縄文時代中期の住居から出土した土器は、ほとんどが加曾利E4式土器で、時期的に大きな差がないと考えられる。五代山街道Ⅰ遺跡の土坑から出土した土器も中期の住居跡と同様、加曾利E4式土器を主体としている。しかし、五代山街道Ⅱ遺跡の土坑から検出された土器片は阿玉台・焼町系の土器片を中心としており、

五代山街道Ⅰ遺跡とは様相を異にする。

五代山街道Ⅱ遺跡は、平成13年度の調査で焼町系の土器が大量に出土した五代伊勢宮Ⅳ遺跡と隣接しており、そちらの遺構群と一緒にものになると考えられる。大量の良好な資料が得られた五代伊勢宮Ⅳ遺跡に比べ、五代山街道Ⅱ遺跡の土坑数は極端に少なく、遺物も破片のみで数も少ない。また、五代山街道Ⅱ遺跡で検出された土坑は五代伊勢宮Ⅳ遺跡寄りの調査区南側に集中して位置している。これらのことから、五代山街道Ⅱ遺跡は、五代伊勢宮Ⅳ遺跡とその南に隣接する五代伊勢宮Ⅵ遺跡を中心とする遺構群の北端に位置しているものと考えられる。

ここで、平成12年度から続く五代南部工業団地造成に伴う発掘調査で検出された縄文時代の遺構の傾向について、簡単に概観を述べてみたい。

縄文時代の遺構は標高124m付近より高い、五代伊勢宮Ⅱ・Ⅳ・V・VI遺跡、五代竹花Ⅰ・II遺跡、五代中原Ⅰ・II遺跡、五代山街道Ⅰ・II遺跡から検出されている。これらの遺跡は開析谷に削られた細長い台地上に位置しており、五代中原Ⅰ・II遺跡以外は同じ台地上に乗っている。標高124m～127mあたりには中期後葉の加曾利E2式期の住居跡が多い。標高128m～135mあたりには、中期中葉の焼町系の土器を大量に出土する土坑群が密集している。そして標高136m～142mのあたりには比較的前期の住居跡が多く、中期の住居跡からは中葉の加曾利E4式期の土器が検出されている。このように出土土器や遺構の傾向から、造成予定地内の縄文時代の遺構群は、高緯度・中緯度・低緯度の3つの区域におおまかに区分することができよう。遺構数・遺物数共に突出しているのは中緯度の中葉の一派である。同じ赤城山の西麓に所在する三原田遺跡や房谷戸遺跡・道割前遺跡と出土土器が近似しており、深い関係があったものと思われる。また、低緯度の中葉の一派に曾利系の土器が含まれることや、中緯度の一派に焼町系のものが多く見られることから、長野方面との活発な交流がうかがわれる。全時期を通じ、長野方面のみならず南関東系や北陸系の土器も多く見られ、多様な地域との交流を持つこの地域の様相が浮かび上がってくる。

今後、五代南部工業団地造成予定地の発掘がすべて終了し、周辺遺跡との関連を詳しく考えていくことで当該地域の縄文時代の様相が明らかになるものと思われる。

(2) 奈良・平安時代

五代山街道Ⅰ・II遺跡を通じて検出された土師器を伴う住居跡は3軒で、すべて五代山街道Ⅰ遺跡からの検出であった。

H-1号住居跡は床面まで60cm以上の深さがあり、竈も残りがよかったです、遺物が非常に少なく、土器片が數片と、紡錘車1点、砥石1点しか出土しなかった。埴土に土層の乱れではなく、住居廃絶時に意識的に土器類を持ち去ったものと考えられる。住居跡の形状や埋土から古墳時代後期の遺構と考えられる。

H-2号住居跡は台地の縁辺に位置しており、竈付近から出土した土器から9世紀代の遺構と考えられる。H-3号住居跡は、住居跡の半分が調査区外となり竈は検出されなかつたが、遺物からやはり9世紀代の遺構と考えられる。

これら3軒の住居は比較的離れた位置に点在している。五代南部工業団地造成予定地内の各遺跡や、北に隣接する芳賀東部団地遺跡からは同時期の住居跡が多数検出されている。本遺跡の古墳・平安時代の住居跡は周辺遺跡から検出されている集落の一部に属し、集落の広がりの末端にあたるものと推測される。

【五代中原III遺跡・五代山街道I遺跡・五代山街道II遺跡 引用参考文献】

- 佐原真「待論—羅文施文法入門」「國文土器大成」3 講談社 1981年
飯塚憲子、田口一郎編『元鳥名符軍塚古墳』高崎市教育委員会 1981年3月
中澤充裕、唐澤保之編『芳賀団地遺跡群』第1巻 前橋市教育委員会 1984年3月
藤巻幸男編「荒砥前原遺跡、赤石城址」鶴群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985年3月
赤堀次郎「S字窓について」「第3回東海埋蔵文化財研究会 欠山式土器とその前後」愛知考古学講話会 1986年11月
小野和之編『三原田城遺跡・八崎城址・八崎塚・上青梨子古墳』鶴群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987年3月
林喜久夫・前原照子・井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第2巻 前橋市教育委員会 1988年3月
板岡正信「土器の分類と時期設定」「国分僧寺・尼寺中間地域。(2) 鶴群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988年3月
小島純一編「堤頭遺跡」柏川村教育委員会 1988年3月
佐藤明人編「新保遺跡II」鶴群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988年3月
飯塚卓二他編「下佐野遺跡」鶴群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989年2月
前原豊・都所敬尚編「熊野谷遺跡群」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1989年3月
瀧部守央・加藤二生編「内堀遺跡群II」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1989年3月
井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第3巻 前橋市教育委員会 1990年3月
群馬県史編さん委員会編『群馬県史』通史編1 群馬県 1990年3月
赤堀次郎「考察」「廻間遺跡」愛知県埋蔵文化財センター 1990年3月
若狭義「群馬県における弥生土器の崩壊過程」「群馬考古学手帳」1 群馬県土器研究会 1990年4月
群馬県史編さん委員会編『群馬県史』通史編2 群馬県 1991年5月
井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第4巻 前橋市教育委員会 1991年3月
前原豊・伊藤良編『内堀遺跡群IV』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1991年3月
赤山容道・佐藤明人・小宮俊久編『三原田遺跡』第3巻 1992年3月
井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第5巻 前橋市教育委員会 1994年3月
書上元博編「稻荷台遺跡」鶴崎玉県埋蔵文化財調査事業団 1994年3月
小島教子編「荒砥上ノ坊遺跡I」鶴群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995年3月
原田幹「S字窓の分布と地域型」「鍋と甕そのデザイン 第4回東海考古学フォーラム」東海考古学フォーラム尾張大会
実行委員会1996年9月
深沢義也「上野における土器の交流と画期」「庄内式土器研究」XVI 1998年7月
坂口好孝・眞塙雄志編『鳥取福寺遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1998年3月
飯田祐二・佐藤則和編『芳賀東部団地遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1998年3月
飯田祐二・佐藤則和編『王山若宮遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1998年3月
かみつけの里博物館編「第2回特別展 人が動く・土器も動く」 1998年7月
林信也・福田寛之編『鳥取福寺遺跡II』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999年3月
長谷川福次編『箱田遺跡群(上原・三角遺跡)・真壁御附遺跡』北橘村教育委員会 1999年3月
林信也・平野志志編『内堀遺跡群』XII 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年3月
斎木一敏・山口宗男・吉沢貴編『前田V遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年3月
田口一郎「北関東西部におけるS字口縁甕の波及と定着」「S字甕を考える 第7回東海考古学フォーラム三重大会」
東海考古学フォーラム三重大会実行委員会 2001年1月
斎木一敏・須藤友子編『五代江戸屋敷遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年3月
山武考古学研究所編『五代竹花遺跡・五代木福I遺跡・五代伊勢宮I遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年3月
スナガ環境測設株式会社編『五代木福II遺跡・五代深堀I遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年3月
長谷川福次編『道訓前遺跡』北橘村教育委員会 2001年2月
高橋一彦・倉品教子編『五代伊勢宮II遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年3月
スナガ環境測設株式会社編『五代伊勢宮III遺跡・五代深堀II遺跡・五代中原I遺跡・五代伊勢宮IV遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年3月
近藤泰明編『五代伊勢宮V遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年3月
スナガ環境測設株式会社編『五代伊勢宮VI遺跡・五代中原II遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年3月
開口巧一編『中屋敷I遺跡・明神山遺跡・伊勢山遺跡・中島遺跡・西高遺跡』鶴群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003年3月
前橋市埋蔵文化財発掘調査団「五代中原II・III遺跡発掘調査の概要」「ぐんま地域文化。第21号 鶴群馬地域文化振興会
2003年11月

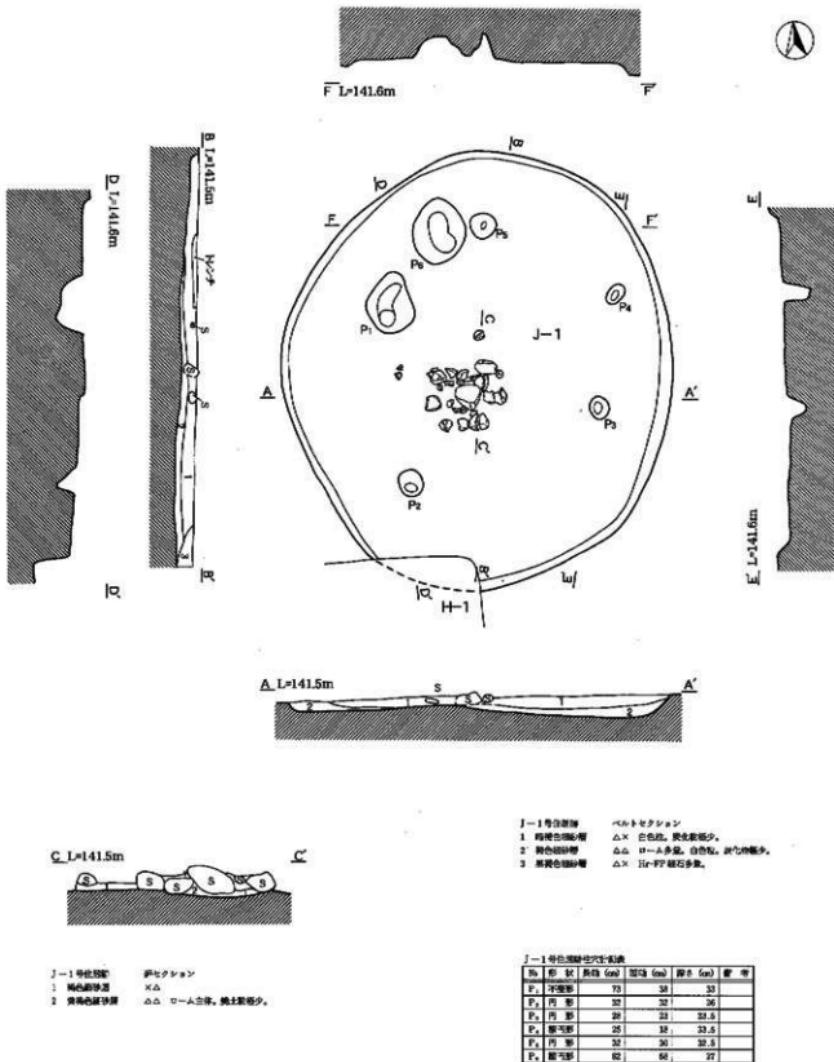


Fig.56 J-1号住居跡

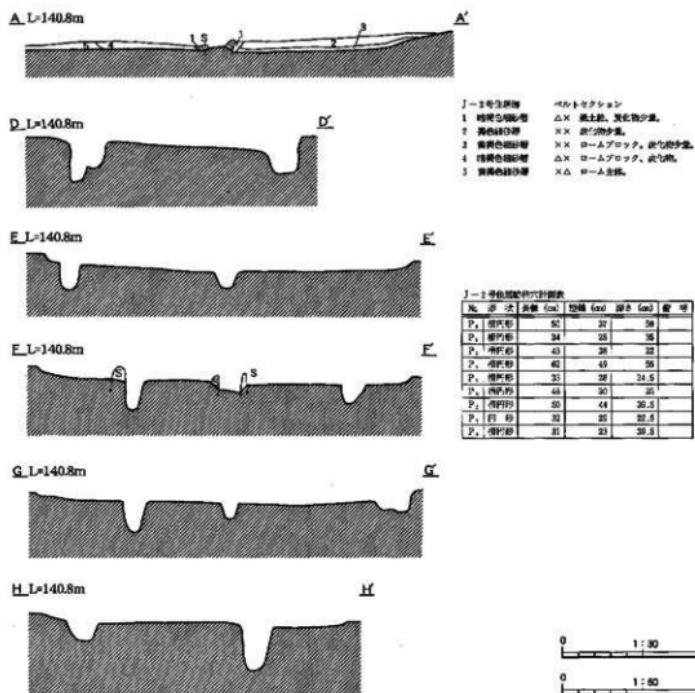
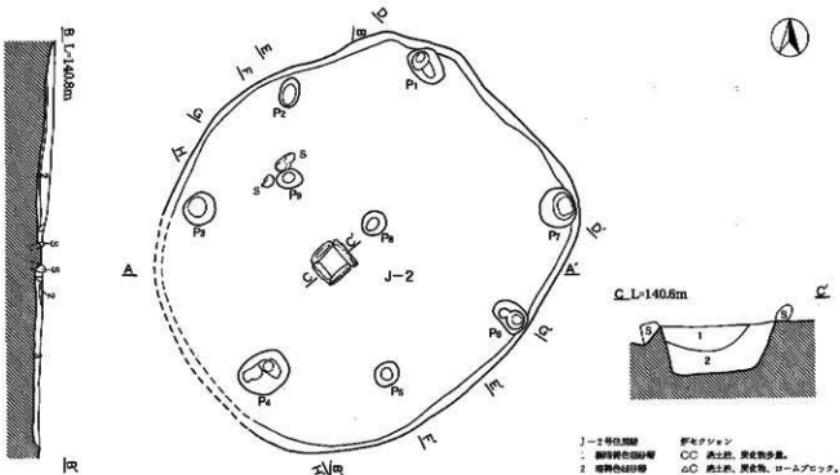


Fig.57 J-2号住居跡

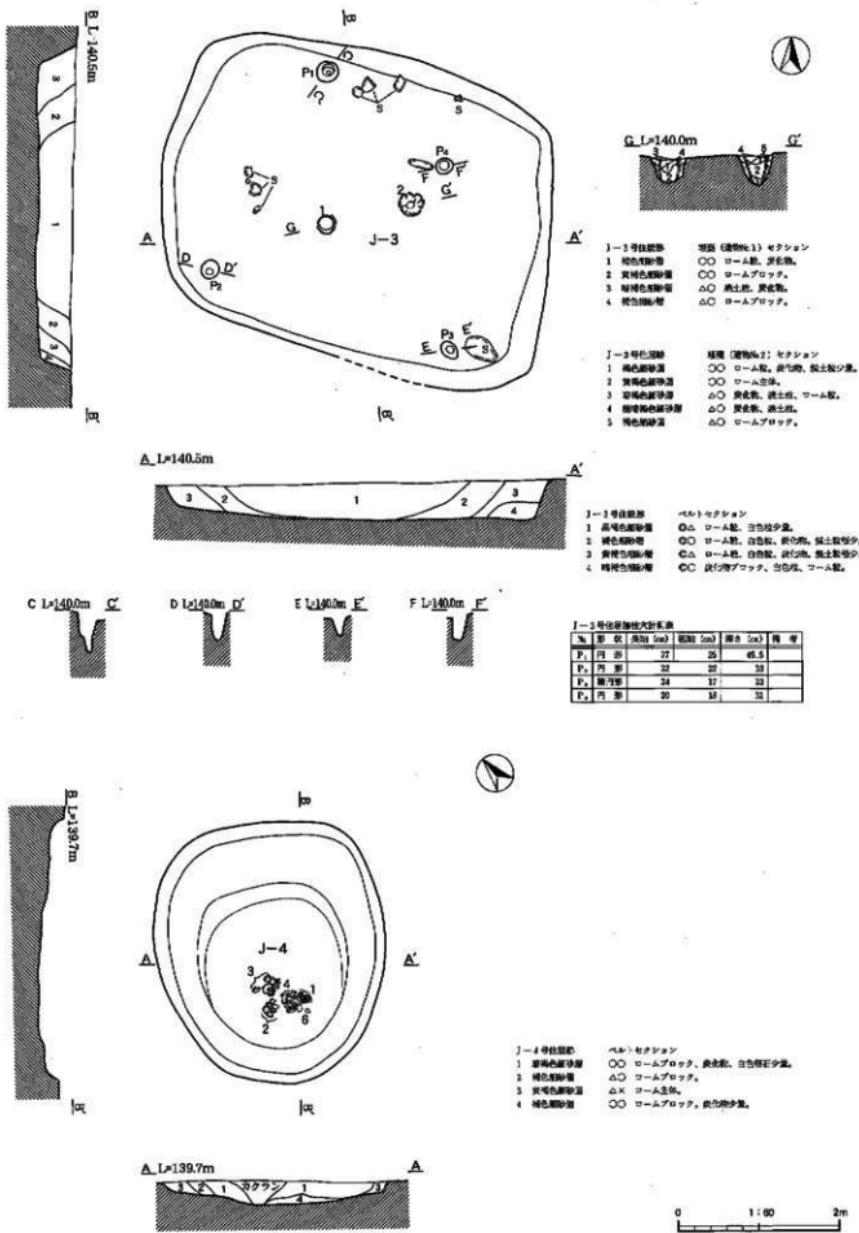
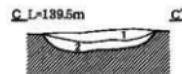
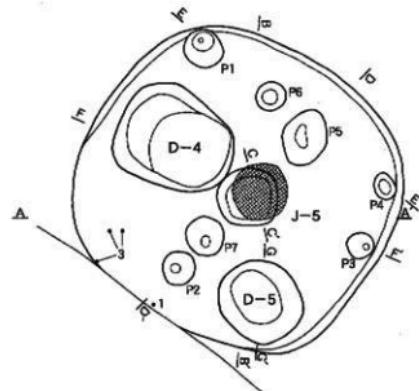


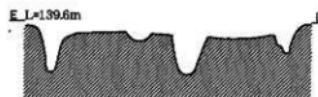
Fig.58 J—3·4号住居跡

A



J-5号住居跡
1 黄色砂質層
2 黄褐色砂質層
3 黄色泥炭層
4 黄色砂質層
5 黄褐色砂質層
断面図
○○ 地上ブロック、炭化物。
○○ 灰灰。

J-5号住居跡
1 黄色砂質層
2 黄色泥炭層
3 紫色砂質層
4 黄色砂質層
5 黄褐色砂質層
ペントセクション
○○ 炭化物ブロック層。
○○ ローム層少。
○○ ローム少。
○○ ローム少。
○○ ローム少。



J-5号住居跡測定結果表				
測定	方法	実測(m)	算出(m)	高さ(cm)
P ₁	目測	48	45	15
P ₂	目測	43	41	32.5
P ₃	目測	33	32	23
P ₄	標尺	32	30	16
P ₅	標尺	70	67	27
P ₆	目測	38	32	13.5
P ₇	目測	48	45	27.5

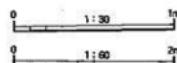
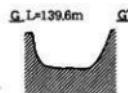
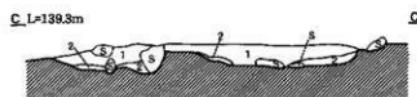
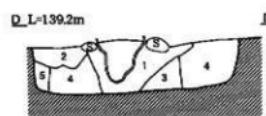
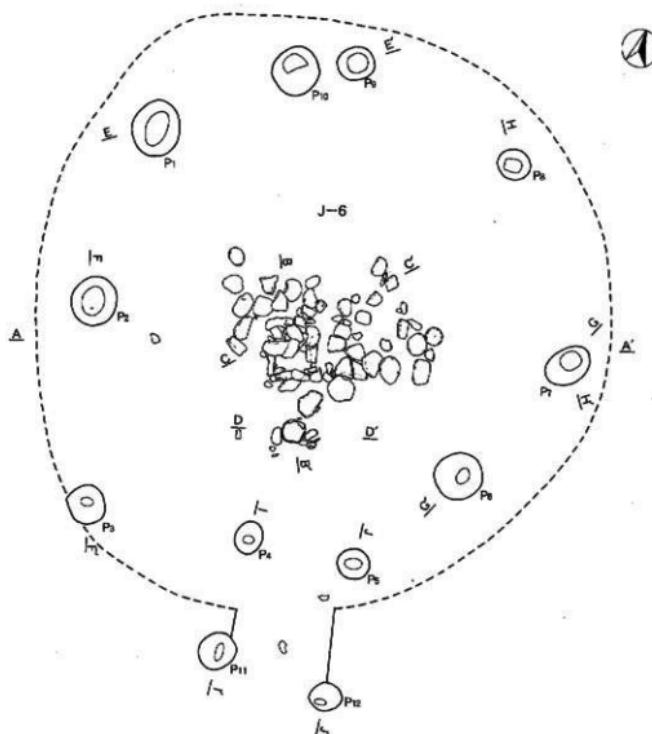


Fig.59 J-5号住居跡、D-4・5号土坑



J-6号住居跡 総面積(約1ha) セクション
 1. 黄褐色砂層 ○
 2. 黄褐色砂層 ○
 3. 水成灰褐色砂層 ○
 4. 黑褐色砂層 ○
 5. 黑褐色砂層 ○ ハードローム

J-6号住居跡 地図説明
 1. 黄褐色砂層
 2. 黑褐色砂層
 3. 黄褐色砂層
 4. 黑褐色砂層
 ○ 黄褐色砂層
 ○ 黑褐色砂層
 ○ ハードローム

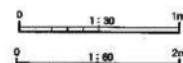
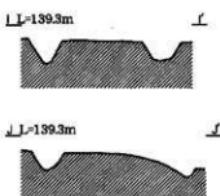
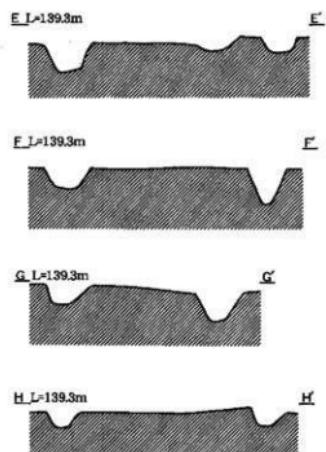
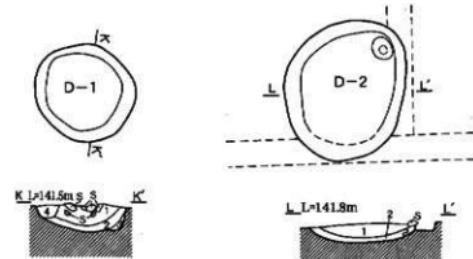


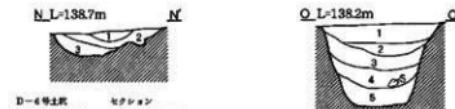
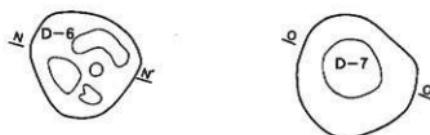
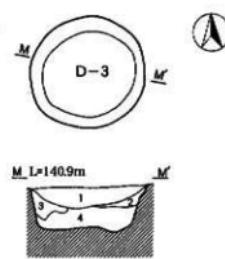
Fig.60 J-6号住居跡



J-6号の基礎坑穴寸法(表)					
No.	底径 (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	個数
D-1	70	18	34.5		
D-2	60	24	34.5		
D-3	48	43	42		
D-4	40	34	29.5		
D-5	42	77	25		
D-6	60	56	35.5		
D-7	60	49	35		
D-8	40	27	19		
D-9	42	38	19		
D-10	58	37	24.5		
D-11	47	46	22		
D-12	40	33	16.5		

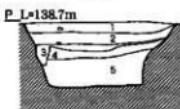
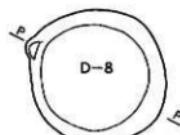


D-1号土坑 セクション
1 黄褐色砂層 △△ Ar-C層Ⅱ、ローム粘土、PP層E、熟土質少量。
2 暗褐色砂層 △○ Ar-C層Ⅲ多量。ローム粘土。
3 黄褐色砂層 ○○ Ar-C層Ⅳ多量。ローム粘土。
4 にぶい黄褐色砂層 ×△ ロームブロック。ロームE。Ar-C層石炭少。



N-N'号土坑 セクション
1 黄褐色砂層 △× 白色粘石炭。
2 深褐色砂層 △× ローム粘土、ロームブロック多量。
3 黄褐色砂層 ××

D-7号土坑 セクション
1 暗褐色砂層 △△ 熟土質、熟土。
2 暗褐色砂層 △△ 熟土質、熟土。
3 暗褐色砂層 △△ 熟土質、
4 黄褐色砂層 △△ 熟土質、
5 黄褐色砂層 ×× 粘土、黄土質。



D-8号土坑 セクション
1 暗褐色砂層 △△ 熟土、黄土質、白色粘石炭少量。
2 暗褐色砂層 △△ 熟土、黄土質。
3 暗褐色砂層 △△ 熟土質、
4 黄褐色砂層 △△ 熟土質、
5 黄褐色砂層 ×× 粘土、黄土質。

0 1:50 2m

Fig.61 J-6号住居跡、山街道I遺跡D-1~3・6~8号土坑

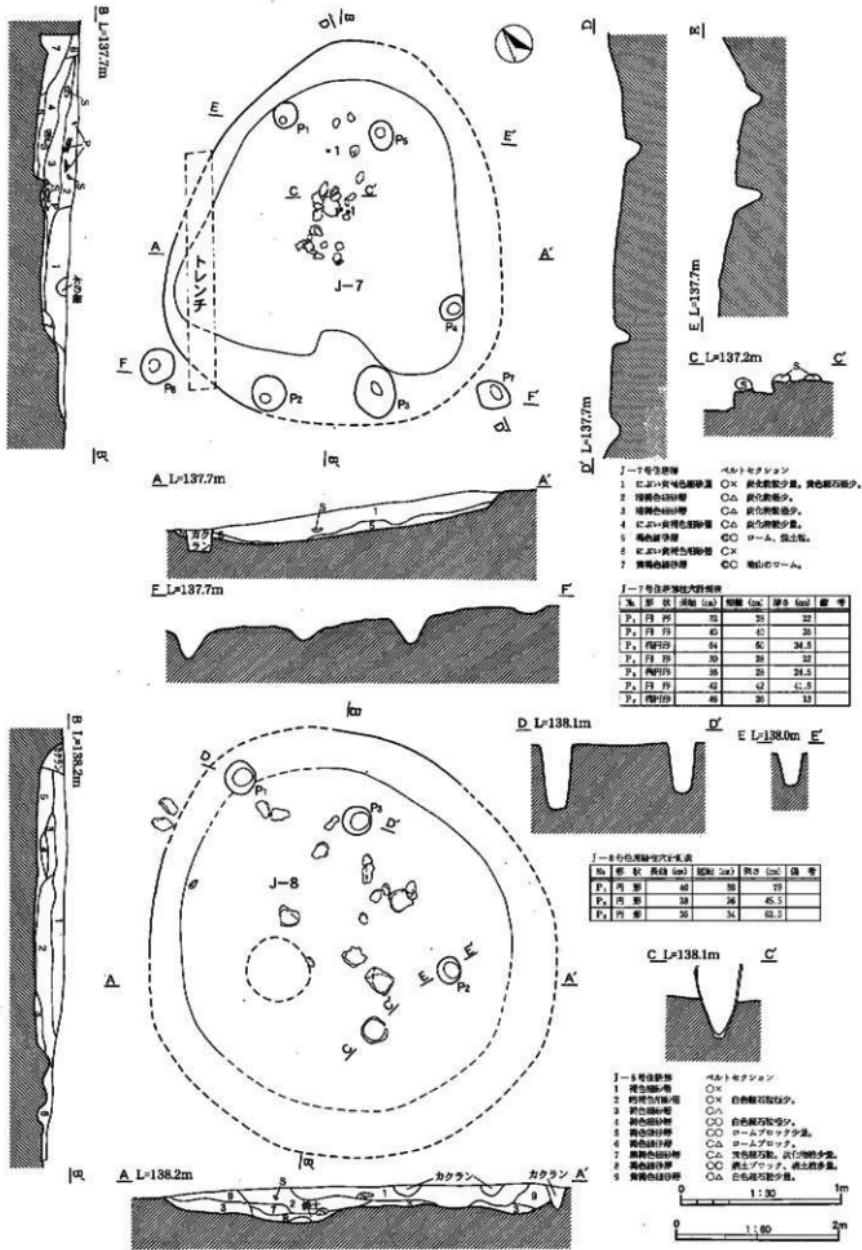
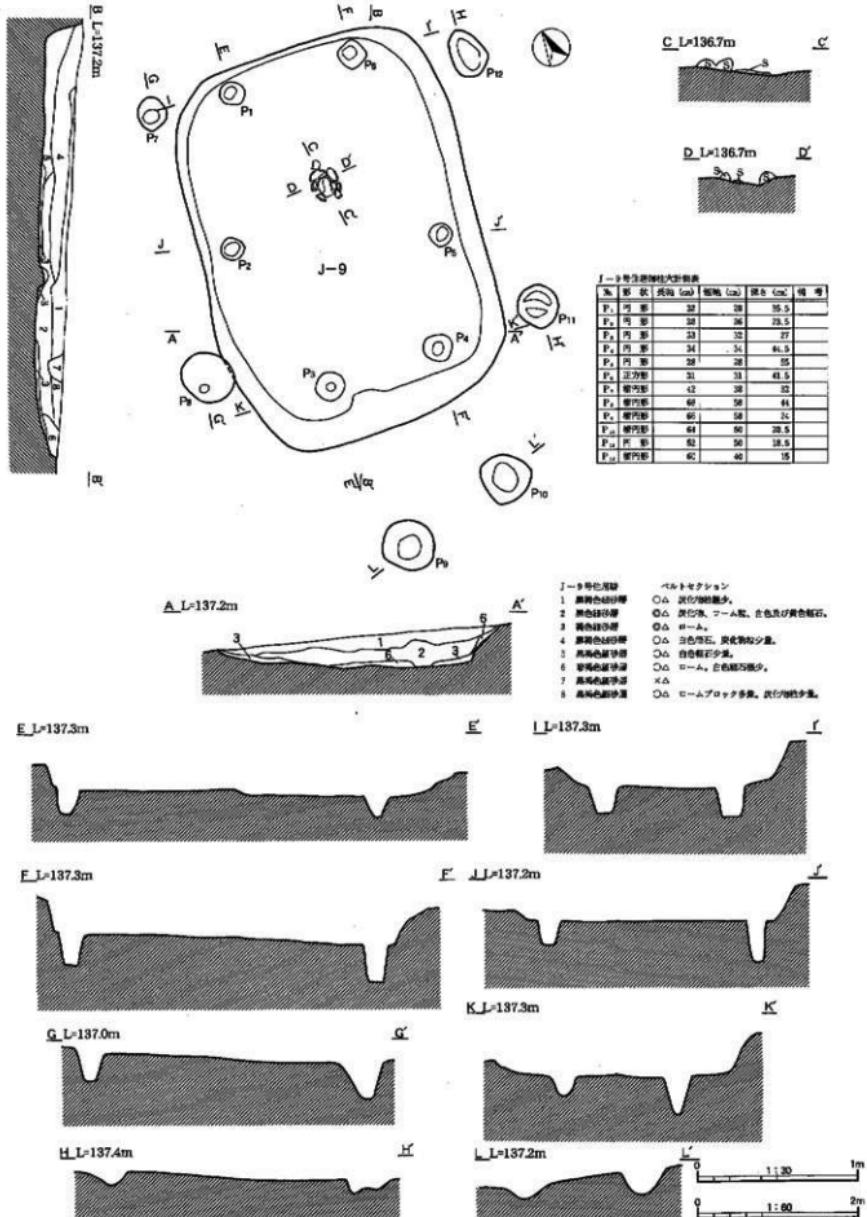


Fig.62 J-7·8号住居跡



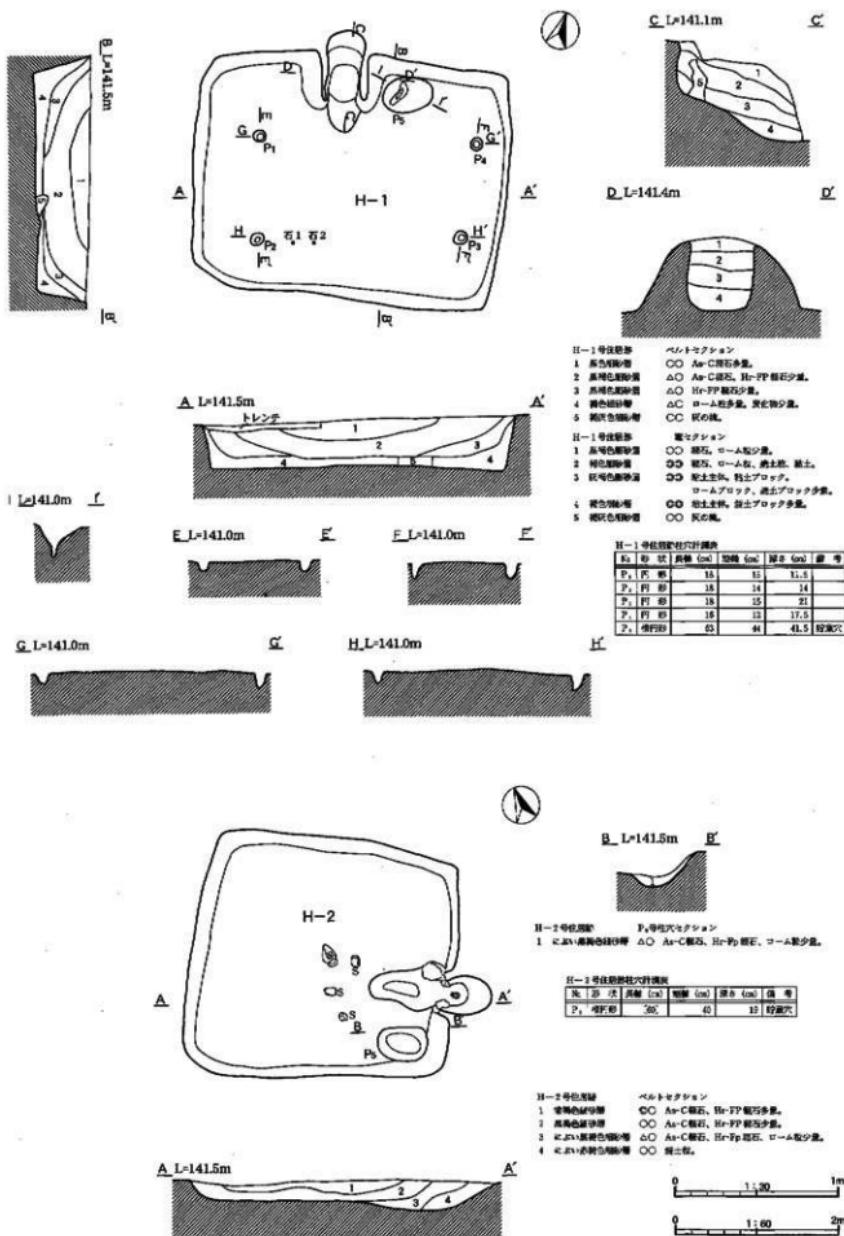
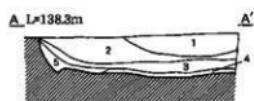
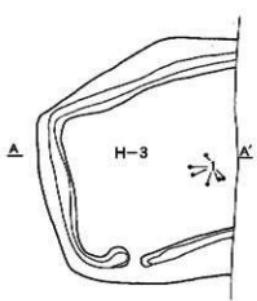
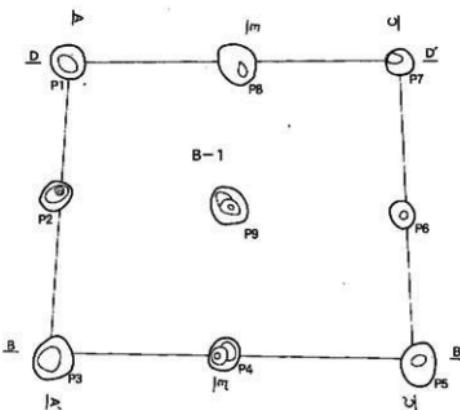
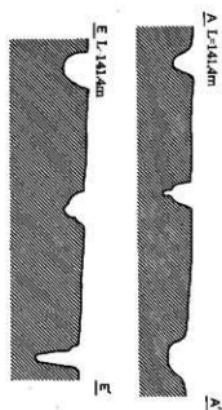


Fig.64 H-1·2号住居



H-3号住居跡
A-A'・セクション
1 青褐色粘土層
△△ Ar-C粘石、Hr-TP粘石少。
2 にかい青褐色粘土層
△△ Ar-C粘石、Hr-TP粘石。ローム少、炭化物少。
3 にかい青褐色粘土層
△△ Ar-C粘石少。
4 黄褐色粘土層
△○ ローム少。
5 黑褐色粘土層
△△ コーム粘、白色粘石。



B-1号掘立柱建物跡穴位置					
孔	号	実測	実測 (cm)	実測 (cm)	実測 (cm)
P	19	46	45	26	
P	20	42	33	38	
P	21	56	58	26	
P	22	43	38	33	
P	23	36	43	24	
P	24	33	29	36	
P	25	33	33	35	
P	26	33	45	33	
P	27	32	43	25	

B-1=141.4m



Fig.65 H-3号住居跡、B-1号掘立柱建物跡

1:100 2m

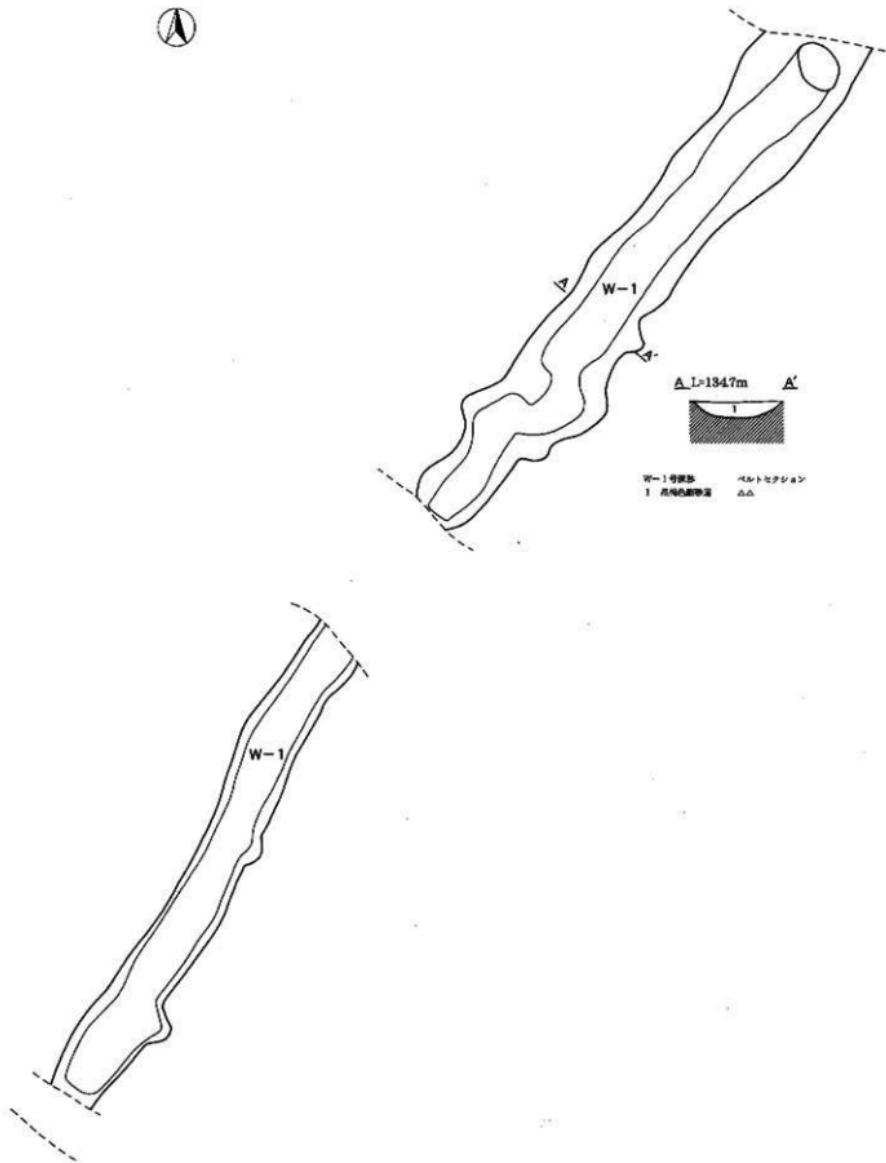
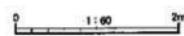


Fig.66 山街道II遺跡W-1号溝跡



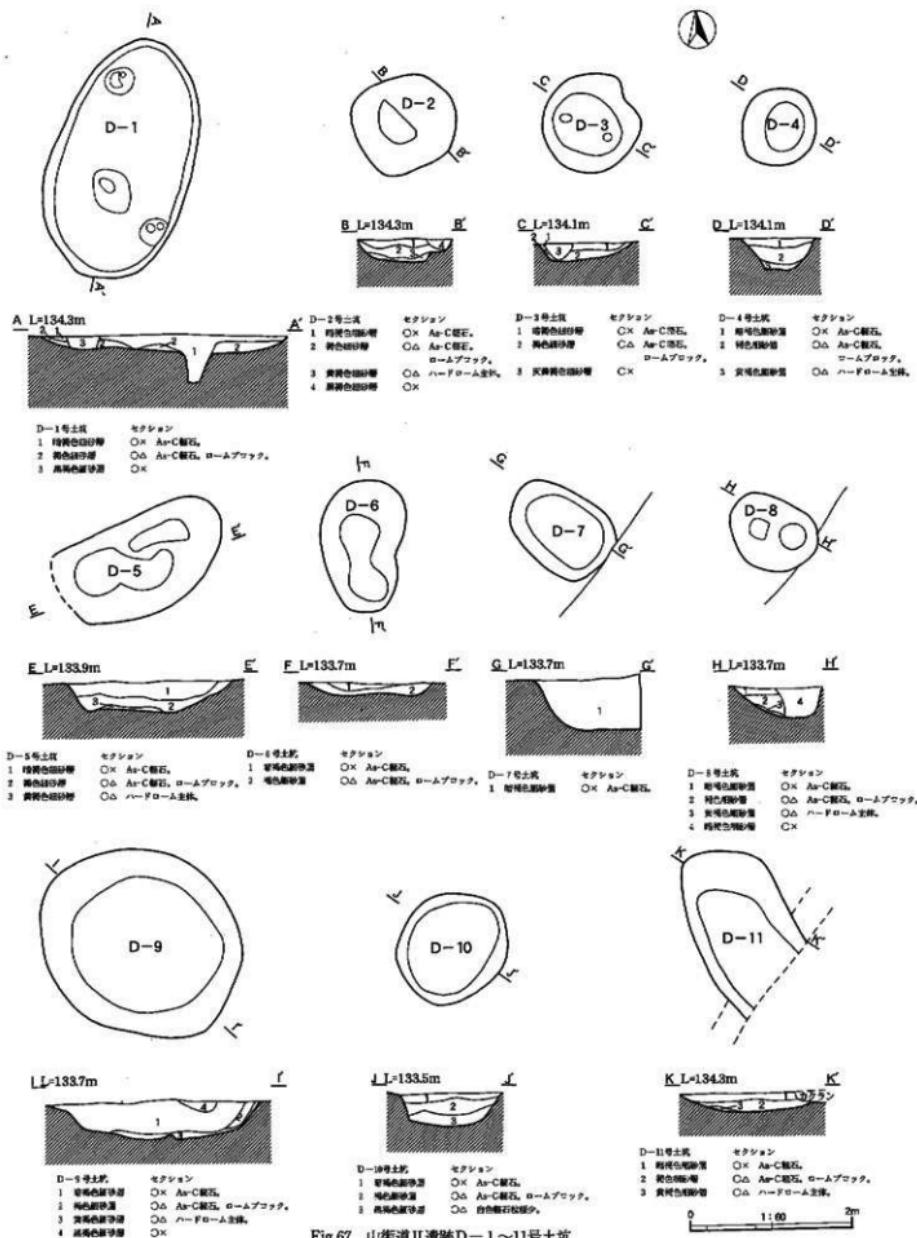


Fig. 67 山築道II遺跡B=1~11量土塊

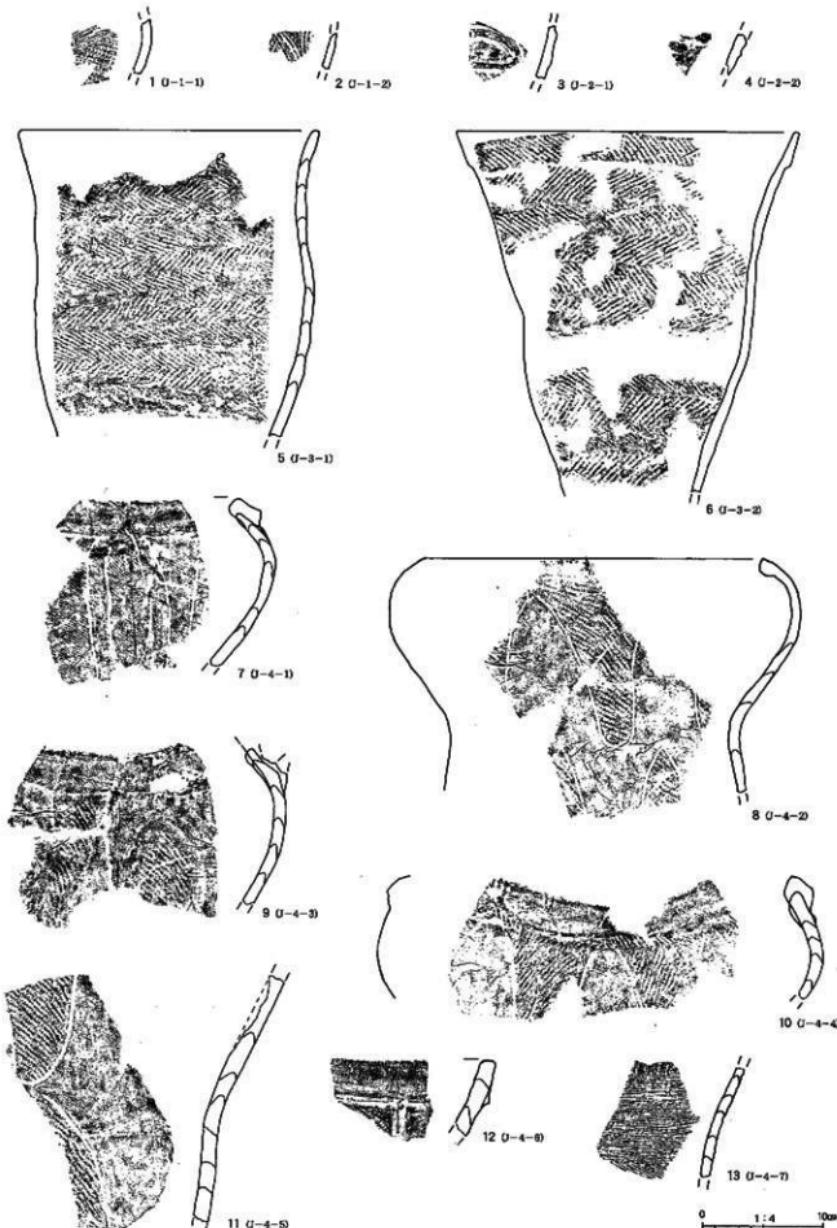


Fig.68 J-1~4号住居跡出土遺物

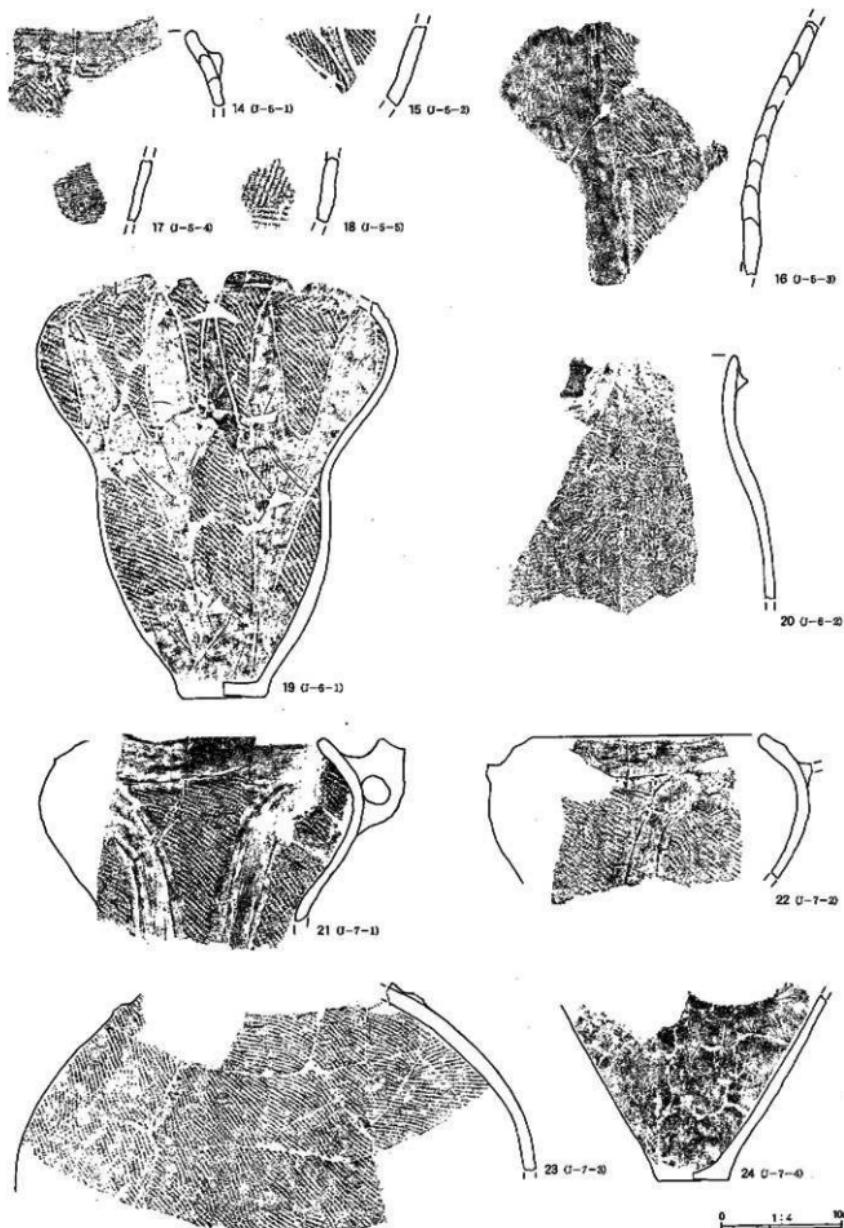


Fig.69 J-5~7号住居跡出土遺物

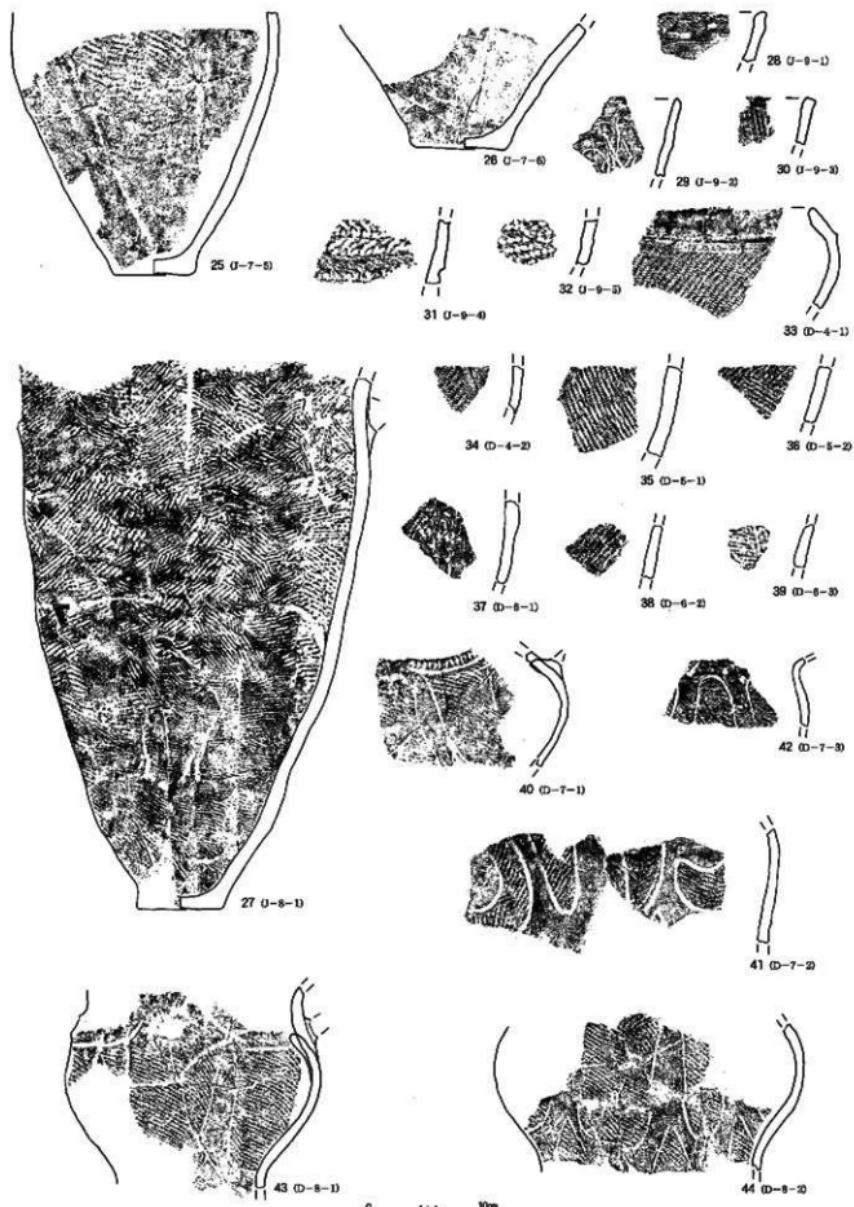
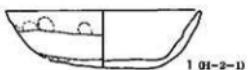
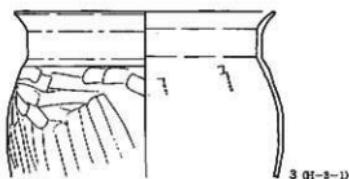


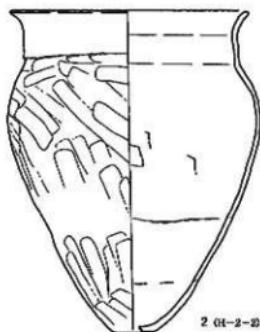
Fig.70 J-7~9号住居跡、D-4~8号土坑出土遺物



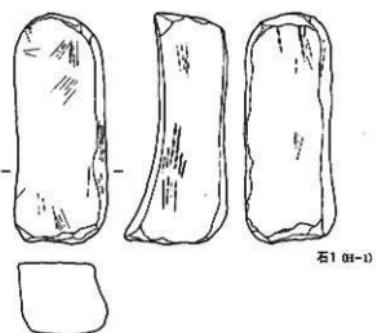
1 H-2-1



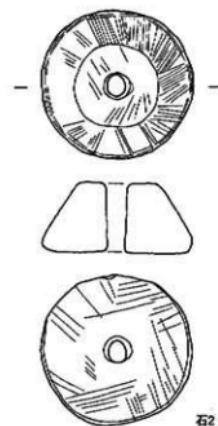
3 H-2-1



2 H-2-2



石1 (H-1)



石2 (H-1)

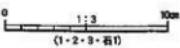


Fig.71 H-1 ~ 3号住居跡出土遺物

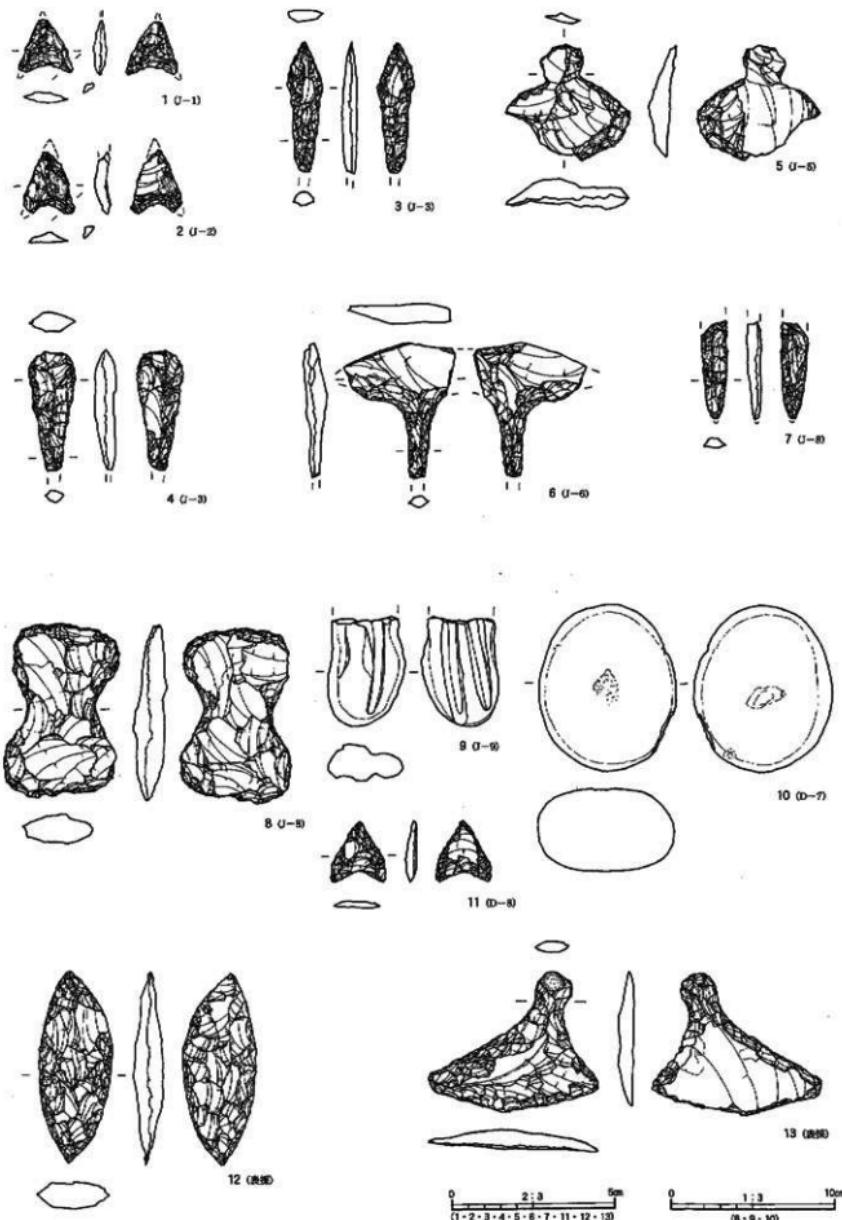
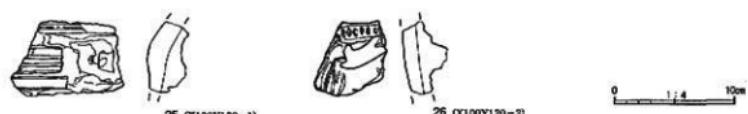
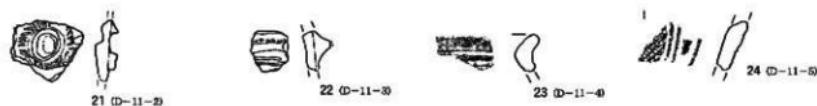
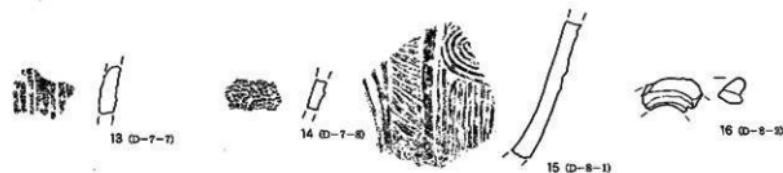
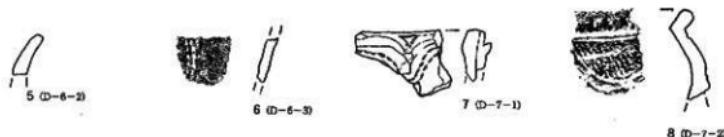
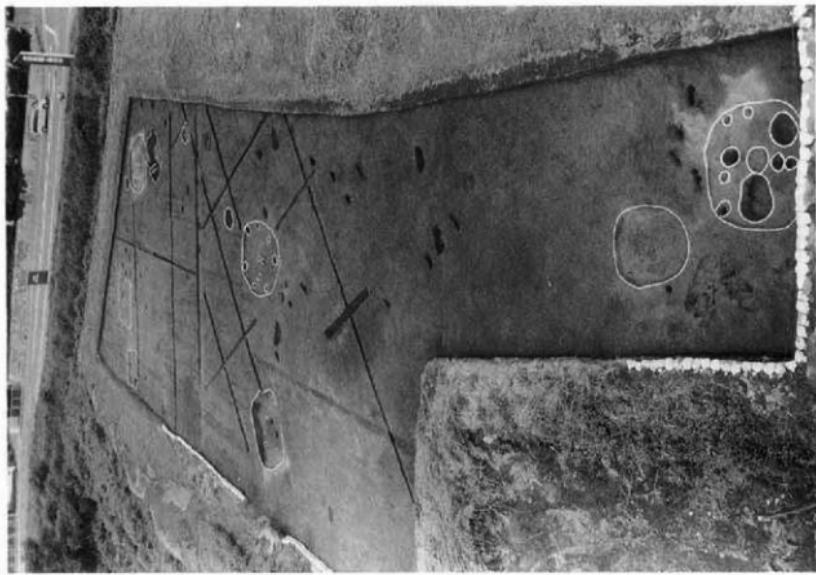


Fig.72 J—1～3・5・6・8・9号住居跡、D—7・8号土坑、表探出土遺物



0 1/4 10cm

Fig.73 山街道II遺跡D-5～9・11号土坑、グリッド出土遺物



五代山街道Ⅰ遺跡調査区 北半分 全景（左が北）



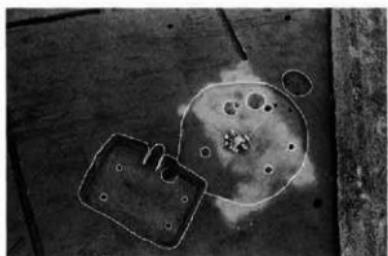
五代山街道Ⅰ遺跡調査区 南半分 全景（上が北）



J-1号住居跡全景（西から）



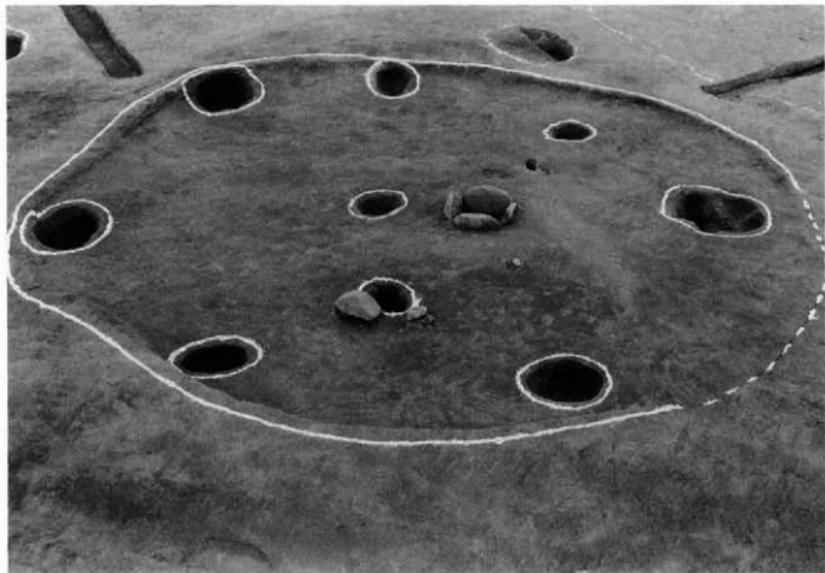
J-1号住居跡炉全景（西から）



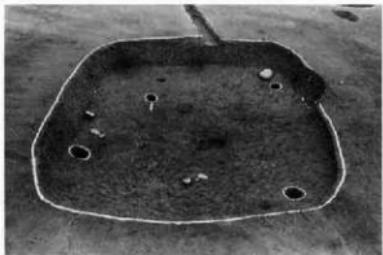
H-1号・J-1号住居跡全景（南から）



J-2号住居跡炉全景（西から）



J-2号住居跡全景（西から）



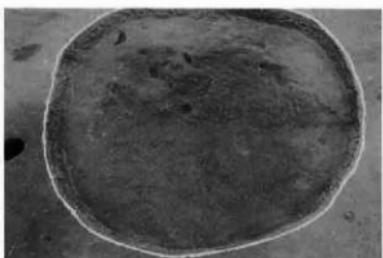
J-3号住居跡全景（東から）



J-3号住居跡埋設土器（北から）



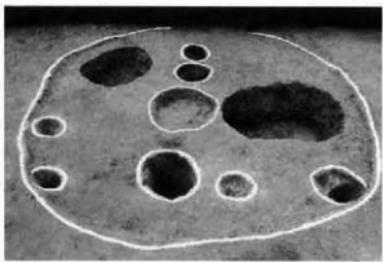
J-2・3号住居跡全景（東から）



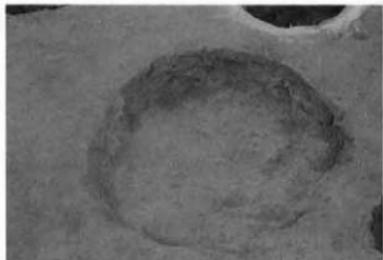
J-4号住居跡全景（南から）



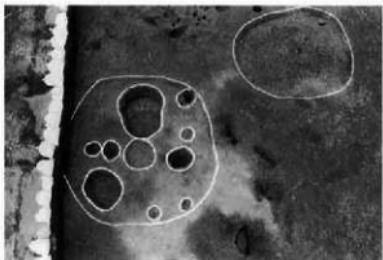
J-4号住居跡遺物出土状態（西から）



J-5号住居跡全景（北から）



J-5号住居跡炉全景（北から）



J-4・5号住居跡全景 D-4・5号土坑全景（東から）



J-6号住居跡全景（南から）



J-6号住居跡炉全景（南西から）



J-6号住居跡埋設土器（南から）



J-6号住居跡埋設土器 セクション（南から）



J-7号住居跡全景（西から）



J-7号住居跡遺物出土状態（南から）



J-8号住居跡全景（南から）



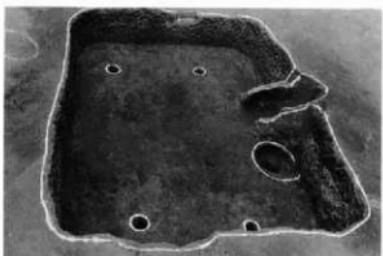
J-8号住居跡埋設土器（南から）



J-9号住居跡全景（南から）



J-9号住居跡炉全景（南から）



H-1号住居跡全景（東から）



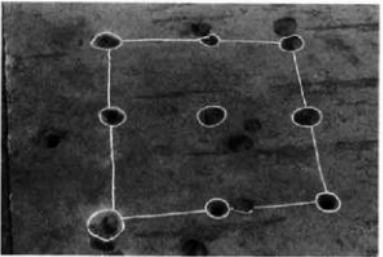
H-1号住居跡竈全景（東から）



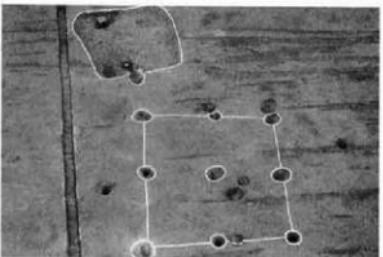
H-2号住居跡全景（西から）



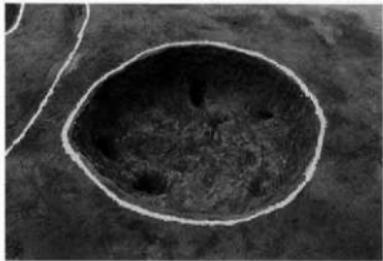
H-3号住居跡全景（北から）



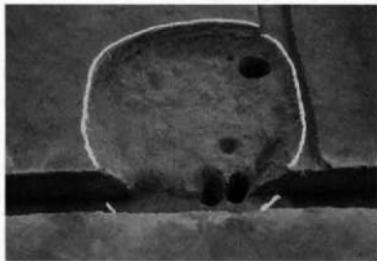
B-1号掘立柱建物跡全景（東から）



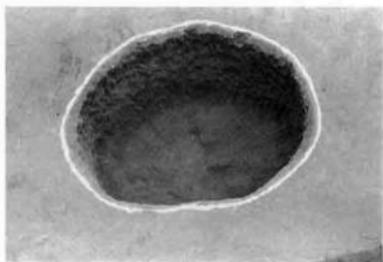
B-1号掘立柱建物跡・H-2号住居跡全景（東から）



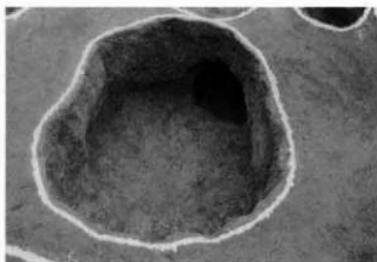
D-1号土坑全景 (東から)



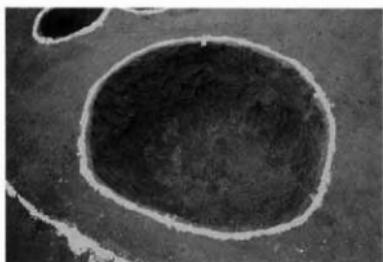
D-2号土坑全景 (南から)



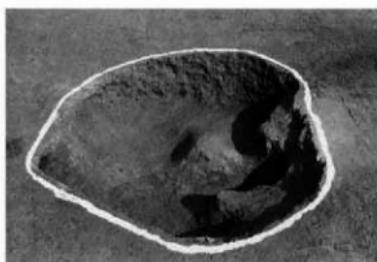
D-3号土坑全景 (南から)



D-4号土坑全景 (西から)



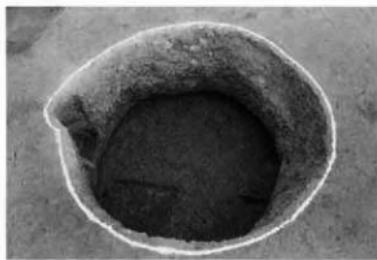
D-5号土坑全景 (東から)



D-6号土坑全景 (南から)



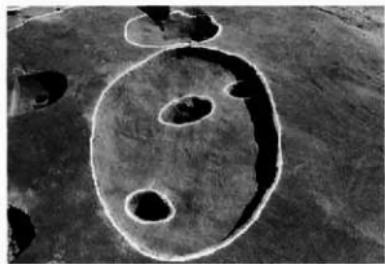
D-7号土坑全景 (南から)



D-8号土坑全景 (南から)



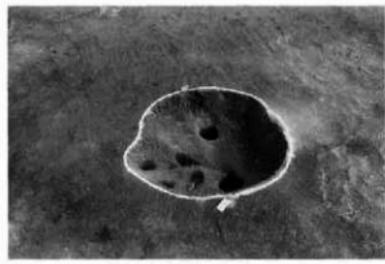
五代山街道II道路調査区全景（北から）



D-1号土坑全景（北から）



D-2号土坑全景（西から）



D-3号土坑全景（西から）



D-4号土坑全景（西から）



D-5号土坑全景 (西から)



D-6号土坑全景 (南から)



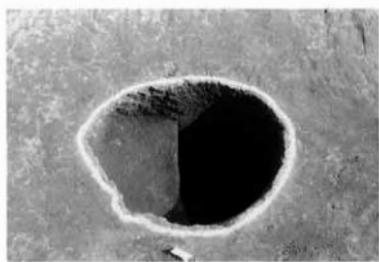
D-7号土坑全景 (西から)



D-8号土坑全景 (西から)



D-9号土坑全景 (南から)



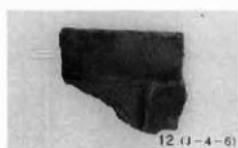
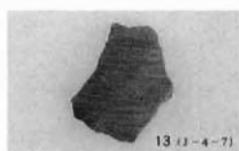
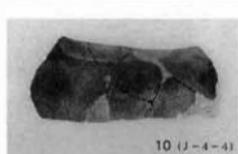
D-10号土坑全景 (西から)

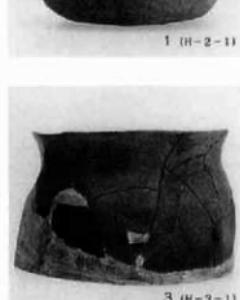
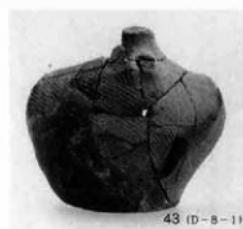
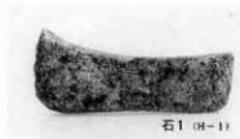
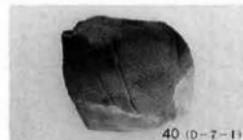


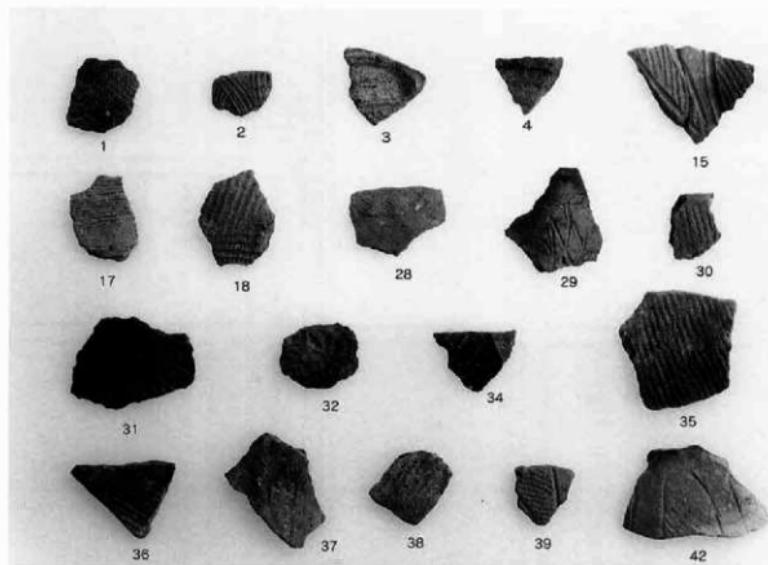
D-11号土坑全景 (南から)



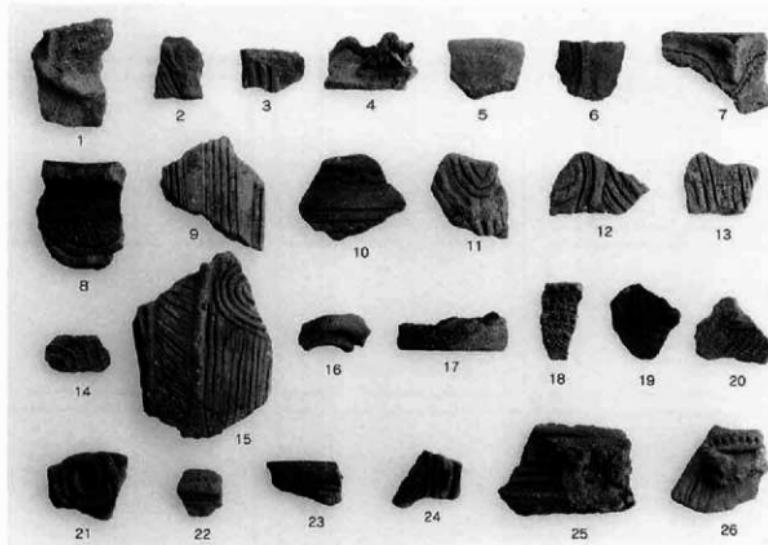
W-1号溝跡全景 (南から)



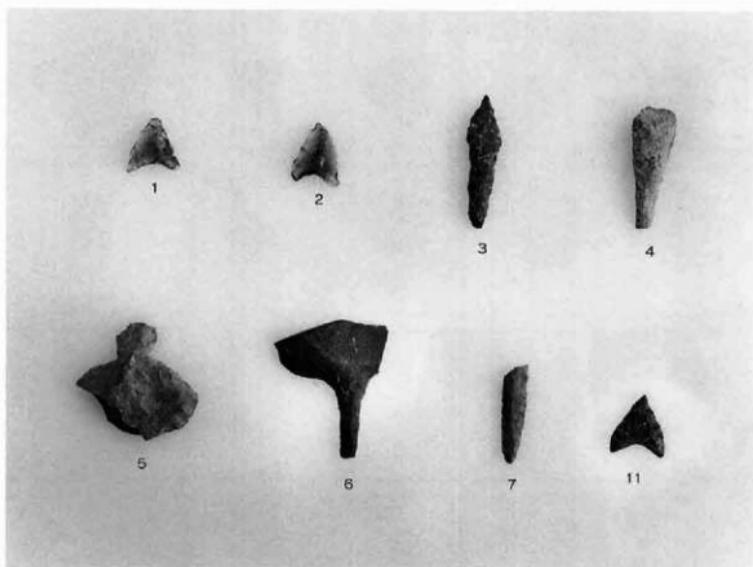




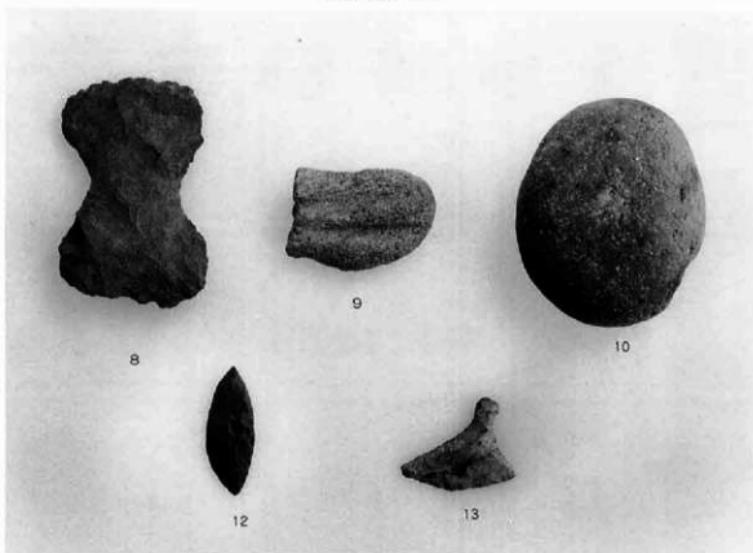
五代山街道Ⅰ遺跡 橢文土器



五代山街道Ⅱ遺跡 橢文土器



石鐵・石錐・石匙



打製石斧・砾石・敲石・尖頭器・石匙

抄 錄

フリガナ	ゴダイナカハラサンイセキ・ゴダイヤマカイドウイチセキ・ゴダイヤマカイドウニイセキ
書名	五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡
副書名	五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	倉品 敦子・高橋 亨・小林 和美
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2004年3月18日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 經			
五代中原Ⅲ遺跡	前橋市五代町	10201	15C30	36°24'44"	139°06'56"		2,462m ²	
五代山街道Ⅰ遺跡	前橋市五代町	10201	15C34	36°24'40"	139°07'01"	20030519	5,195.3m ²	五代南部工 業団地造成 事業
五代山街道Ⅱ遺跡	前橋市五代町	10201	15C35	36°24'37"	139°06'51"	20031201	1,000m ²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
五代中原Ⅲ遺跡	集落跡	古墳時代	堅穴住居跡45軒、土坑55基 柱穴57基	土師器、土製品、石製模造品等	なし
		縄文時代	堅穴住居跡9軒、土坑8基	縄文土器、石器	
五代山街道Ⅰ遺跡	集落跡	古墳時代	堅穴住居跡1軒	土師器、磁石、纺錘車	なし
		平安時代	堅穴住居跡2軒、掘立柱建物 1棟	土師器	
五代山街道Ⅱ遺跡	縄文時代		土坑11基	縄文土器、石器	なし
	不 明		溝1条		

五代中原Ⅲ遺跡

五代山街道Ⅰ遺跡

五代山街道Ⅱ遺跡

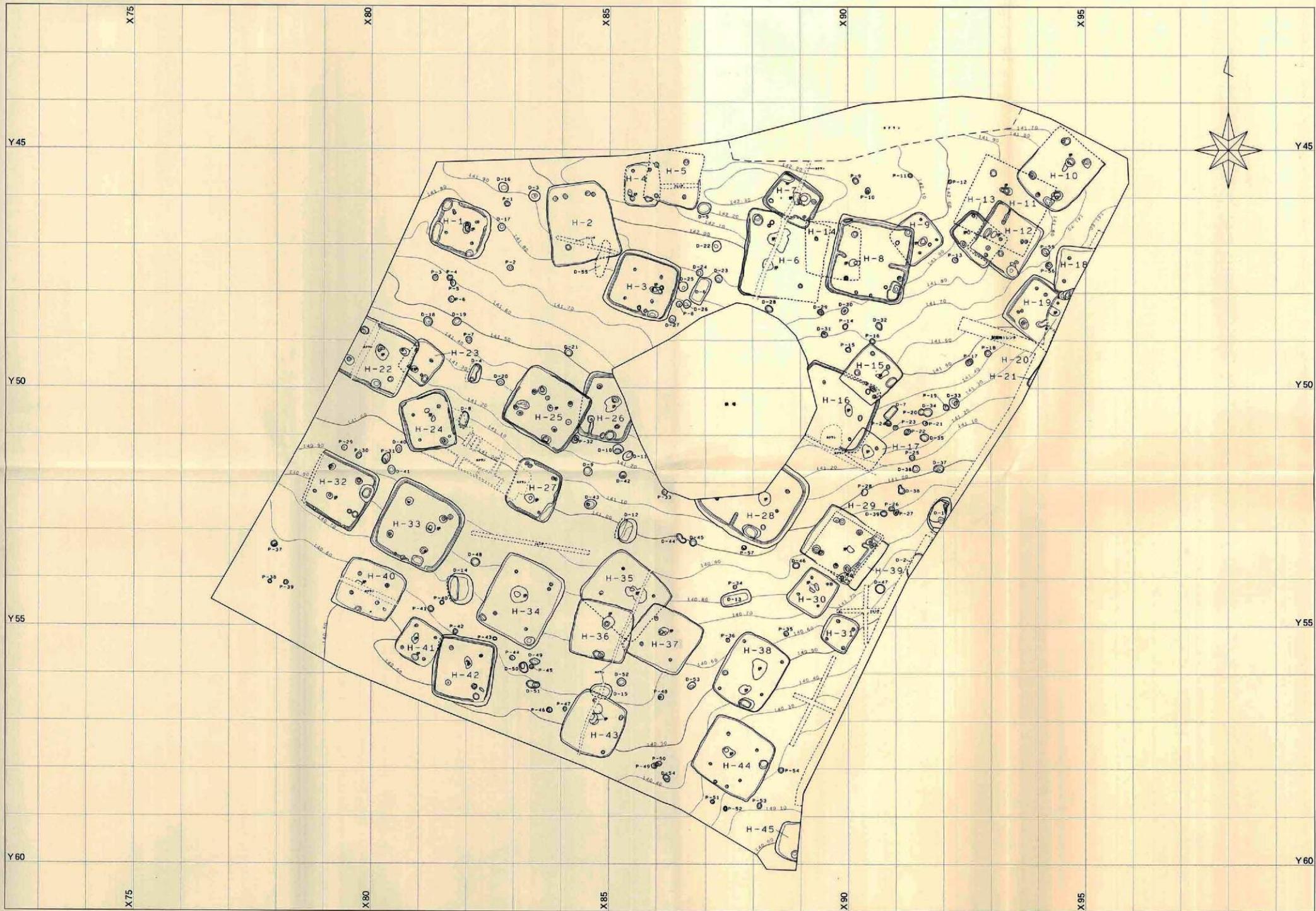
平成16年3月10日 印刷

平成16年3月18日 発行

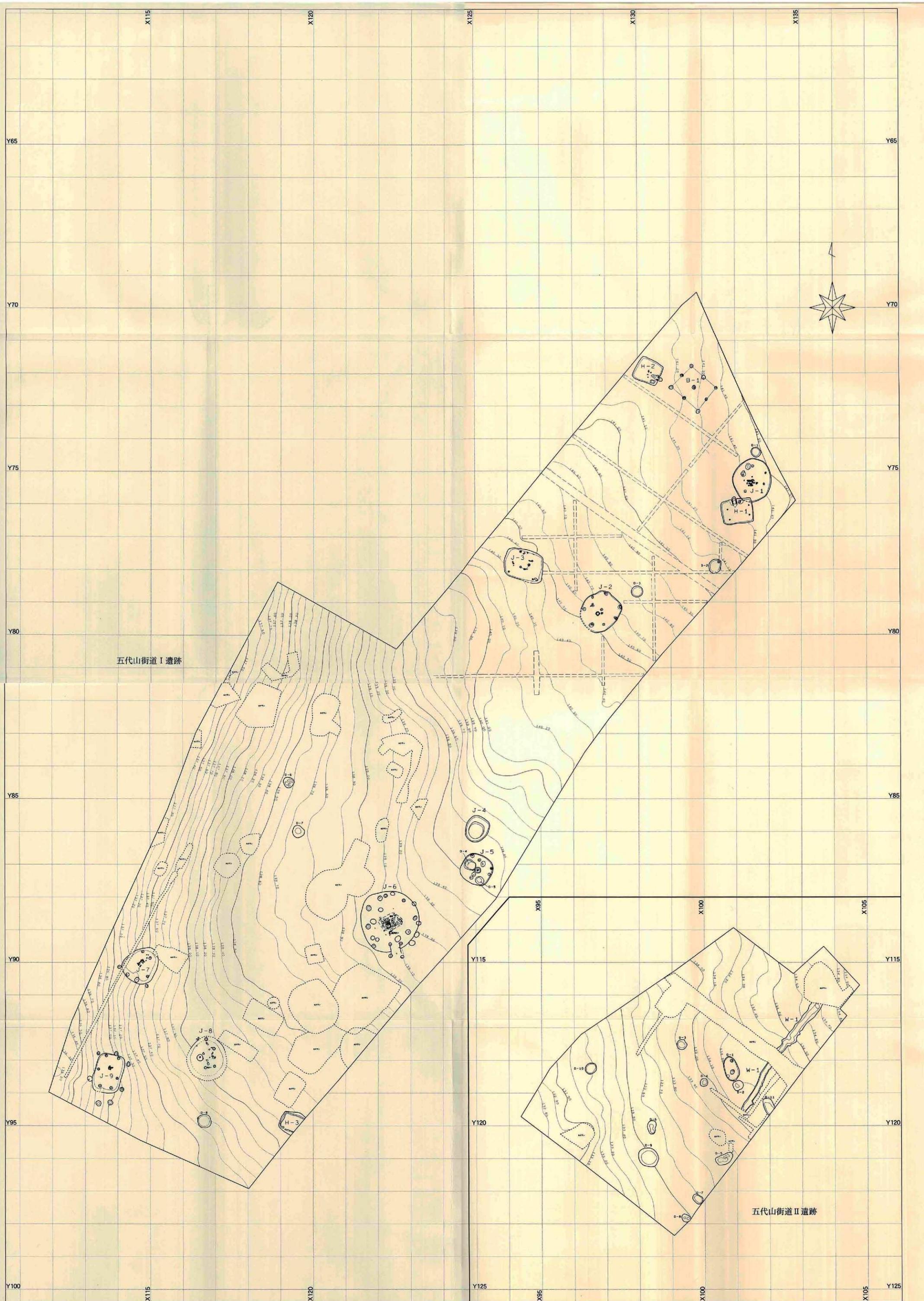
発 行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市三俣町二丁目10-2

印刷所 朝日印刷工業株式会社



付図1 五代中原III遺跡 全体図 (1:200)



付図2 五代山街道I遺跡・五代山街道II遺跡 全体図 (1:200)